

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

つながれ ひろがれ ちいきの輪

in
TOKYO

2018 報告書



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター約1,200ヶ所が集まるネットワークです。



はじめに

本書は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして、東京の高齢者福祉施設・事業所が地域の中で試みている様子をまとめ、伝える報告書として発刊しました。取組みごとの実施レポートを掲載する一方、「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」という全都的なキャンペーンとして取組んできた背景やキャンペーンの流れについても分かりやすく伝えるよう心掛けています。また、コンパクトなサイズになっており、本書を手にとった方が活用しやすい冊子となっております。

東京都内の高齢者福祉施設・事業所における地域によりそう活動への理解を深めるとともに、地域での実践の一助となれば幸いです。

●本書の構成について

本書は、4つの章で構成されています。

I章 図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

地域の中における高齢者福祉施設・事業所の現状や地域住民の暮らしによりそうために求められているものをつなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO実施する背景と合わせてイラストや図で解説します。また、地域の中で実践するためのポイントを「地域によりそいはじめるための10のステップ」としてまとめています。

II章 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

2018年12月に開催された実践報告会での報告からそれぞれの地域のニーズや取組みでの工夫やヒントを学びます。地域につながる中でみつけたたくさんの気づきが書かれています。

III章 キャンペーン実施に至るまで～2018年度のふりかえり～

2018年度のキャンペーンを実施するにあたり、どのようなしかけをつくってきたか、学びの場づくりの様子やワーキングチームの活動の様子などから理解を深めます。

IV章 きっとみつける！あなたのまちの『ちいきの輪』

～キャンペーン取組みレポート～

都内の各地の地域によりそう取組みの様子についてキャンペーン参加施設・事業所から届いたレポートを掲載しています。

目次

I 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう施設とは～	2
地域によりそいはじめるための10のステップ	4

II 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

職員のもつ強みを発揮～施設内に理解を深める～	8
まちの多様な仲間たちが連携	10
地域の方とともにつくるちいきの輪	12
地域の声によりそう	14

III キャンペーン実施に至るまで～2018年度のふりかえり～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン とは？	18
「継続」と「ひろがり」が実感できた1年 ～3年間の着実な歩みをもとに次のステップへ～	20
実施担当者向け説明会	22
見学会	24
実践報告会	26
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOワーキングチーム	28

IV きっとみつける！あなたのまちの「ちいきの輪」～キャンペーン取組みレポート～

実施施設・事業所 一覧	34
実施施設・事業所取組みレポート 2018	37

資料

実施施設・事業所 募集要項	164
実施状況	168
施設・事業所の合同実施状況	170
広報グッズ紹介	174
広報ツール紹介	175
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム名簿	182

I

図解 明日が待ち遠しい 暮らしをデザインする

～地域の中でつながりあう施設とは～



図解

明日が待ち遠しい暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

■ つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは？

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーク）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。具体的な取組み例として右記イラストにまとめています。

■ キーワード

地域でこぼれ落ちる人

- ・高齢者と家族を取り巻く暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちることを防ぐ支援が必要。
- ・東京の高齢者施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域で暮らす住民の役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- ・地域のニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつく活動を展開。
- ・暮らしの中でのちょっとした困りごとによりそい、地域住民にとって身近な存在として感じてもらう。
- ・広く都民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となつてつなひろキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に参画し、住民とかわり、地域の高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるはたらきかけを行います。かわりへの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の個々の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワークなど）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。



■ 東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

① 高齢化の進行

2025年には、高齢者人口が約343万人、高齢化率は26.2%、都民の4人に一人が高齢者になると見込まれています。

② 孤立の増加

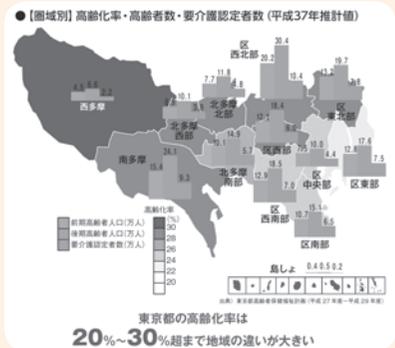
65歳以上の一人暮らし世帯について、2010年では約60万世帯であるのが、2025年には約82万世帯に増える見込まれています。

③ 経済的に困窮している高齢者の増加

2010年1年間の所得（全国）について、高齢者世帯の40.5%が年収200万円以下となっています。

④ 多面的なかかわりの必要性

本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えています。



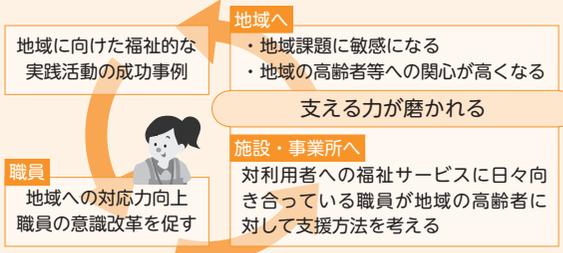


■ 地域によりそうことで生まれる効果



- ・車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の2つが連動して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
- ・1施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

■ 包括的な視点に基づく施設の福祉的な取り組みサイクル



上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手としてのあらゆる可能性を引き出します。

地域によりそいはじめるための10のステップ

このページでは、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうために必要なことを10のステップとしてまとめてみました。すでに地域で行っていることやこれから取り組もうとしていることを見返すチェックポイントとして活用ください。ここに示しているものはほんの一例であり、高齢者福祉施設・事業所のそれぞれが取り組む上での大切なポイント（活動への効果と最初にできることなど）をから考えていくためのツールとしても利用できます。

1

STEP

地域の一員として力になる

- ⇒施設で行う特別なことではなく、従来行われている地域に馴染のあるイベント（例：お祭りなど）に協力する。施設から地域に歩みより、ともに汗をかくことで、距離感が縮まり、互いに話しやすい関係性が構築される。
- ⇒まずは、町内会のイベントをのぞき、地域の団体が集まる定例の会議に参加していく中で積極的に協力してみよう。

2

STEP

活動を応援してくれる地域の仲間を増やす

- ⇒日頃から顔の見える関係をつくり、気軽に相談できる環境をつくること。普段から考えをめぐらせていることを伝える中で共感し、活動の協力者になることも。企画を練る段階から一緒に入ってもらうことで一体感を持った取組みができ、今後のつながりとひろがり生まれやすくなる。
- ⇒地域の方々や団体などに名前を覚えてもらえるよう話かけに行く。どんなに小さなことでも頼って相談しに行こう。特に自分たちだけではできないことをする際には得意とする分野を持つ地域住民や団体を巻き込むのも1つの方法。

3

STEP

1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える

- ⇒高齢者福祉の現場で日々起こっている困りごとは、地域の方々の目にどのように映るのだろうか、地域の中での日常の暮らしとどのようにつながっているのだろうか。地域での出来事や暮らしの困りごと（高齢者にとらわれない）は、高齢者福祉施設・事業所の目から見てどう捉え、利用者やスタッフにつながっているのか考えて行動することで、ニーズをキャッチするアンテナを敏感に持つことができる。
- ⇒ふと立ち止まって他人事を自分事として考える時間をつくり、多くの人と共有してみよう。

4

STEP

参加者の目線に立った企画づくり

- ⇒自施設・事業所の取組みのターゲットにしている人はどんな暮らしをしている人が想像し、何を求めているのかを考えながら企画づくりをすすめる。また、実施する際はその人の目線に合わせて、どうしたら楽しんでもらえるのか、伝え方やはたらきかけ方を工夫することで、地域の方がより身近に感じ、参加したいと思ってもらえる可能性が高まる。
- ⇒高齢者福祉施設・事業所の当たり前だと思っていることが、実はそうでないことを意識しながら、ターゲットとしている人が親しみを持てるようにする。

5

STEP

参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる

- ⇒使い方を覚えれば自由に施設の設定が利用できるように環境を整える、早い時期から参加している方が先輩となって教えたり、活動の協力者になったりすることで、地域の方同士の助け合いが生まれるしくみが展開される。参加者が活動の運営に目を向けるきっかけとなり、スタッフの負

担を分けることでゆるやかに長く続けられる活動に結びつく。

⇒参加者の声をじっくり聞く機会をつくり、取組みに対する率直な意見を伺いながら、現状を変えるために地域住民と高齢者福祉施設・事業所ができそうなことは何か一緒に考え、やってみる。

6 STEP できることから実践してみる

⇒地域住民や団体、高齢者福祉施設・事業所内の利用者やスタッフが地域のニーズに気づき、活動として応えたいという声に対して、自分たちが無理なく手伝えることを思い描き、地域へ発信することで、具体的な活動に結びつく可能性を高めることができる。

⇒見学会、カフェ、地域のイベントへの参画、学校の授業への協力など、取り組みやすいものから始める。施設・事業所内外の協力を得る際は計画的にかかわり、少しずつ段取りを整えていこう。

7 STEP 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する

⇒取組みを行う際に新しく何かを準備する必要は決してなく、すでに身の回りにあるものを有効活用することで思いもよらない効果を生むこともある。特に地域交流スペース、リハビリのトレーニング機器、給食室などの設備などは活動する場をつくることにもつながる。

⇒まず、施設・事業所の設備や環境の中からこういったものが地域の方の日常をより豊かにする可能性があるのか1つずつあげて整理してみよう。

8 STEP スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる

⇒ただ、お願いするのではなく、その人が得意なことをまかせ、協力者であるスタッフやボランティアが楽しみながら参画することで、活動に参加する意味を見出し、今後のモチベーションにつなげることができる。ときには、活動を発展させるためのアイデアをくれたり、新たな仲間を呼んで来たりすることもある。

⇒活動の意味・今回の目標・実施のイメージを事前に共有し、その人に合った役割をお願いしてみよう。終了後には参加者の声を伝えたり、ねぎらいの会を開いたり、取組みを楽しくふりかえられる場をつくってみよう。

9 STEP 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける

⇒活動に必要な人・モノ・金（技術や知識も含む）を自分たちの中で用意していくには限界がある。運営上の困りごとを、より多くの方に取組みを知ってもらえるチャンスと捉え、協力できる可能性を持つ人や団体の立場に立ってできそうなことを具体的に示しながら協力を呼びかける。例えば、参加費の徴収、寄付（モノ・金）やボランティアの募集などがある。呼びかけたいターゲットに合わせて、ウェブサイトやチラシなど活動の様子を積極的に発信することでより多くの協力を得られる可能性が高まる。

⇒今行っている活動の中で課題となっていることや不足しているものを常に把握し、こういった協力なら得ることができるのかを考えて少しずつ行動する。

10 STEP 1回の活動で終わらず、次を意識する

⇒1回のイベントを行うことに満足せず、次回以降の取組みに向けての種まきを行うと、参加者や協力者が徐々に増え、活動に継続性を持たせることができる。加えて、連続して参加した人に対して意識した心配り（名前を覚える、前回の話題を出すなどのコミュニケーションをとるなど）を積み重ねることで、今後の活動への協力者になってくれることもある。

⇒次回のイベントの案内、リピーター参加における特典（プレゼント配布）など、次回へのお楽しみを用意する。

地域によりそいはじめるための10のステップ

- 1 地域の一員として力になる
- 2 活動を応援してくれる地域の仲間を増やす
- 3 1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える
- 4 参加者の目線に立った企画づくり
- 5 参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる
- 6 できることから実践してみる
- 7 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する
- 8 スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる
- 9 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける
- 10 1回の活動で終わらせず、次を意識する

10
STEP

Ⅱ

地域のニーズに こたえるヒント ～実践報告会より～



職員のもつ強みを発揮～施設内に理解を深める～ 「ちょっと よりみち 癒しの茶店」

富山 佳代さん

(社会福祉法人三幸福社会 癒しの里西小松川)

詳細はP76



初めての地域開放を！

癒しの里西小松川は、平成29年4月に特別養護老人ホームとして江戸川区にオープンしました。目の前に親水公園が広がる緑の多い閑静な場所にあります。まだ認知度が低く、地域の方と交流する機会が少ないことが課題となっています。

私は今年の5月に地域との連携を担う相談員として着任し、地域に開かれた施設にしていきたいと考えていました。そうした中、施設長から「つながれ ひろがれ ちいきの輪」キャンペーン参加の話があり、初めてとなる施設の地域開放のイベント「ちょっとよりみち癒しの茶店」を行うこととなりました。ちょっとした寄り道気分であらゆる地域住民の方が立ち寄れるような茶店をイメージしたもので、地域住民を招き、地域住民、入居者、職員のお互いのことを知りながら、地域ニーズの聞き取りができればと考えました。

施設と地域の協力でより開かれた施設の取組みに

当日までの準備として、施設内部との協力体制づくり、協力団体への依頼、地域への広報の3つ行いました。施設内部では、大まかに企画した段階で月1回の管理者会議の場に出て、事務所の専門職と介護の現場の責任者に対し、イベントの目的などを伝えました。その後も進捗を毎月の会議で徐々に具体的な報告を交え、少しずつ企画へのイメージが持てるように話していきました。

当日の運営協力において、当日の動きをタイムスケジュール、会場レイアウト、準備物、役割、注意事項とともに書面で伝え、周知していきました。前日と当日には、打合せの時間をとり、流れの最終確認をし、会場づくりを一緒に手伝っていただきました。職員が企画の趣旨をしっかりと理解したことが、主体的な取組みを促し、スムーズな運営に導いた成功の鍵となったように思います。

協力団体とは、2つのボランティア団体と近隣の障がい者の就労支援施設のパン屋エスプリドゥとの連携がありました。ボランティアの依頼は、ボランティアセンターの活用やデイサービスで活動しているボランティアの方への声掛けを行いました。企画の趣旨を丁寧に伝えお願いした結果、マジックの披露、視覚障がいを持つボランティアの歌と楽器演奏をすることになりました。

障がい者の就労支援施設には、パンの販売を依頼しました。事前に1度、お試して施設内でのパンの販売を行い、当日のイメージを持つ機会をつくりました。このとき、職員や入居者から好評だったため、イベントの開催以降も毎月訪問販売に来ていただいています。



地域への広報では、2か月前よりポスターを作成し、町内会や施設のボランティアの方などに配布しました。町内会長には夏祭りで挨拶をした際に、掲示板へのポスター掲載と回覧板での周知をお願いしました。また、施設の入居者家族からつながりのある民生委員を紹介していただき、周知をお願いしました。実際に当日の参加者の多くは、民生委員からの案内を受けた方で心強いサポートでした。

当日は20名ほどの方がコーヒーやジュースを飲みながら一緒になって楽しんでいました。時間がすすむ中、施設の内部の見学がしたいという声が多くあがりました。そこで介護主任と相談し、急遽、施設見学ツアーも実施しました。

参加者からは、「施設に来る機会がなく、中を見てみたかった。」「今後ボランティアに来ることは可能か。」など、高齢者施設に対する関心の高さがうかがえました。アンケートでは、「歳をとるのが楽しみになった。」「安心できる施設だと思った。」「近所に住んでいるので、またコーヒーを飲みに行きたいと思う。」などありがたい言葉が寄せられていました。

高齢者施設に対する期待の大きさに気づけた

今回のイベントを通じて、民生委員をはじめ地域の方が高齢者施設に対する期待は私たちが思っている以上に高いように感じました。「何か困ったときに頼りにしたい。」「引きこもりの高齢者が地域に顔を出せるよう、はたらきかけてほしい。」といった声もあり、施設が地域の社会資源の1つとして求められていることに気づけたのが今回の大きな収穫でした。

また、介護の現場で働く職員も地域とつながることへの意欲が高まったように感じます。実際に参加された方がボランティアとして来所するようになり、入居者の楽しみが増えたと職員も喜んでいます。

今後も気軽に集える空間づくりに励み、地域に根ざした場となれるように職員とともに尽力していきたいと思えます。

ポイント

- 今できることから地域に開いていく
⇒ 大きなイベントではなく、茶店という気軽な形から取り組み始めた。また、施設内外の協力を得るために計画性を持ってかわり、段取りを整えていった。
- 会議の場で何度も話し、イメージを持ってもらう
⇒ 開所して年数が浅い施設での取り組みは、管理職も含め職員全員との意識や目的の共有が難しい環境にある。何度も話して伝えることで、企画に対する共通したイメージを持ち、柔軟な運営を行うことができた。
- 地域のニーズを捉え、施設の日常的な活動と上手につなぐ
⇒ ボランティアやパン販売の様子から一回限りの関係ではない継続的なつながりへと変化しており、これからの地域との発展的な交流を予感させる。

まちの多様な仲間たちが連携 「大泉西小学校応援団まつり」 (開催：大泉西小学校応援団)

西村 雄大さん

(社会福祉法人芳洋会 サンライズ大泉)

詳細はP88



高齢者福祉施設も学校の応援団の仲間入りに！？

学校応援団とは、PTA、町会、青少年委員などからなる地域住民を主体とする組織で練馬区の各学校に設置され、まちの多様な仲間たちが連携しています。その団体が年に1度、大泉西小学校で子どもたちや地域の方々向けにそれぞれの取組みを楽しみながら知ってもらう機会に応援団まつりを開催しています。

参画団体には、まずPTAといった小学校の生徒の保護者がおり、まつりでは受付、会場の案内、焼きそばやポップコーンなどの露店を担当しています。また、放課後居場所づくりを行っているスタッフや緑化協力員は、学校の図工室で工作体験、地域の少年野球チームはストラックアウト、サッカークラブはサッカーボーリングなど子どもたちが楽しめる企画を用意しています。会場である小学校の校長先生や副校長先生は顧問となり、全体のスケジュールや必要物品の準備を担当しています。ここに私たちサンライズ大泉も参加しています。

参加した経緯には、前年にはじめた大泉西小学校とサンライズ大泉との交流会にあります。活動の中で当時の校長先生が応援団まつり実行委員の方々に「サンライズさんに参加していただいたらどうですか」とお話をいただいたのがきっかけです。

地域の活動に参加する意味をみつめ、形にしてい

どのような企画にしようか悩んでいたところ、実行委員から「子どもたちや地域の方に福祉に触れる機会をつくってほしい」という話があり、私たちの得意分野ならできると方向性がはっきりしてきました。サンライズ大泉がオープンして3年目を迎えた頃でもあったので、地域への施設のPR活動につなげ、ゆくゆくは福祉に興味を持った方が就職するきっかけになればと、未来への種まきという期待を込めて参加するようになりました。

その後施設内で委員会をつくり、窓口担当を設けました。担当が中心となり、福祉用具の業者と相談をした結果、教室にスロープを設けた車いす体験コーナー、アイマスクをつけて白杖を持って障がいを持つ方の体験コーナー、介護ロボットや食事介助のロボットに触れるコーナーをつくることになりました。集客の工夫には「つなぐれ ひろがれ ちいきの輪」のキャンペーンに参加をし、高齢協のマスコットキャラクターのアクティブルの着ぐるみを借りて着ています。

顔見知りの関係からみんなの日常の暮らしの関係に

当日は多くの子どもたちでにぎわっていました。スロープでは普通の車いす以外にも、リクライニング、電動、子ども用を用意し、乗る側と押す側と両方体験できるようにしたため、「次はあれに乗ってみたい」と何回もぐるぐると回るように楽しんでいました。校長先生が食事介助のロボットを操作体験しているときには、生徒たちから、「こうやってやるんだよ」と教わり、照れている場面もありました。着ぐるみのアクティブルも囲まれてしまうほどの人気で、うちにも来てほしいと、他のブースからの声かけもありました。



ブースに来た親子からは、「わが子に車いすを押してもらえて、将来に向けていい体験になりました。」と感想をいただきました。30～40年先にこのお母さんへの介護が必要となり、子どもが車いすを押す立場となったときにこの経験を思い浮かべてもらえたとするなら、地域の方々が介護に触れる後押しをできたことになるのだなと思っています。

活動を通じて実行委員の方々をはじめ、たくさんの地域のつながりを持つことができました。特に大泉西小学校との関係は月日が経つほど強いものとなり、施設職員や入居者による学校での出張授業、生徒たちがサンライズ大泉を訪ねる見学会、交流会、仕事体験など、互いに顔を合わせる機会が増えています。

その効果は日常の中でも表れています。入居者が家族と近くの公園へ散歩したときに、「子どもたちから『サンライズのおばあちゃんだ』と挨拶をしてくれたことがあり、嬉しかった」といったエピソードもあります。

私自身も、朝に子どもたちに会うと「西村さんだ！」と声を掛けられるようになりました。応援団まつりのときも「この前サンライズに行ったよ」「〇〇さん風邪引いてないですか」と子どもたちの記憶の中にサンライズ大泉が刻まれていることを実感しました。

このように、この応援団まつりに参加して、子どもたちをはじめ地域の方々の日常にサンライズ大泉が仲間に加わったことが一番の成果だと感じています。

ポイント

- 自分たちの専門分野を小学生の目線で伝える
 - ⇒ 遊び感覚で「介護」に触れてもらうことで小学生の心を掴み、高齢者福祉施設の存在をしっかりと認知させている。
- イベントの参加で終わらず、学校への出張授業や生徒の見学会へ発展させる
 - ⇒ 大泉西小学校との交流会から始まったつながりから、多様な地域の団体と実施した小学校の応援団まつり、そして、小学校の出張授業や見学会へと小さなきっかけを見逃さずに日々、かかわりを深めようとしている。

地域の方とともにつくるちいきの輪

「にこにこ清風食堂」

伴 成顕さん（社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホーム清風園）

森 博司さん（にこにこ清風食堂ボランティアキャプテン）

詳細はP110



子どもに目を向けるための3つの壁

子ども食堂を始めるきっかけは、地域の民生委員の方から、「地域で困っているのはお年寄りばかりではないよ。もっと問題を抱えている家庭の子どもたちにも目を向けて」という声があがったことです。そうした声に応えるべく、施設内に子ども食堂のプロジェクトチームを結成しました。私たちは高齢者福祉には長けているかもしれませんが、子どもを対象にした取組みについては知識がありません。子ども食堂を成功させたいという高いモチベーションを持って走り出そうとしたのですが、3つの課題が立ちはだかりました。①運営資金がない、②子どもたちの参加の促し方、③子どもにかかわるノウハウについてです。

①は、他団体から助成金をもらうことによって活動が制限されて可能性があるため、あえて助成を受けずに運営する方法を選びました。ホームページを立ち上げて広く募金をお願いし、分担をして地域の団体に寄附金のお願いに回りました。②は、地域の課題を地域の方と共有し、解決するために、この問題を一緒に考えていただける方はいないかと、一緒に運営してくれる方を募りました。説明会を開き、近隣の学校や学童クラブに説明に回り、近隣住宅にビラを配り、周知を図りました。③は、近隣にある玉川大学教育学部の学生や学童クラブの経験者に、子どもたちとのかかわりづくり、調理に関しては給食経験者に協力をいただくことができました。

「にこにこ清風食堂」という名前は、貧困をイメージせず、誰でも元気に清風園に来て、一緒ににこにこ過ごしてほしいという願いを込めてみんなで決めました。子どもが気軽に行けるように年齢制限や予約はなく、参加費も100円と設定しています。

普段の活動からボランティア自身を感じる（森さんより）

もともとボランティア活動については、リタイア後に実現したいことの1つとして考えていました。そうした中、人が少ないからにこにこ清風食堂の説明会にちょっと夫婦で出てくれないかと言われ、参加を後押ししました。

3歳から小学校6年生ぐらいまでの子どもがずらっとそろってこの活動では、少しずつ成長する姿が垣間見ることができます。当時3歳だった子の手を洗うときには私が抱っこして手伝っていたのが、今ではそれを嫌がって自ら洗っています。子どもたちの関係も縦の

つながりとなり、上の子が下の子の面倒を見て、それがサイクルになっています。

活動を通じて感じることは、地域には自分の居場所を探しにきている子がこんなにもいることです。にこにこ清風食堂の活動は1回2時間、1か月で4時間になります。子どもが起きている時間を仮に14時間とすると、1か月で約420時間、その中の4時間が子ども食堂となるのです。割合からすると1%とほんの少しの時間ですが、そこに自分の居場所を探しにきている子どもたちが多くいて、上手く見つけた様子を見たときには私自身嬉しくなります。

高齢者福祉施設への今後の期待として、この子ども食堂が続いていければいいなと思っています。もともと子どもがあまり好きではない方だと思っていましたが、気兼ねなく、マイペースに参加し続けることで、子どもたちから刺激を受け、色々なことに気づかされ、かわいくてしょうがないという気持ちを持つようになりました。

そうして100回、200回、300回と長く続けていくことで、今やっている活動への意味を携わっている方や子どもたちとともに見出すことができるのではないかと考えています。



私たちだけの取組みで終わらせない

ボランティアと密にかかわり、ミーティングを重ねて課題を話し合うことで多くのことが見えてきました。核家族化がすすみ、お年寄りと生活したことのない子どもたちなど、大人とかかわりたい子どもたちが地域の中に多くいることに気づきました。

民生委員からは、貧困家庭の中学生が不登校になっていることや、クラブ活動や塾に通わせるようなお金がなく、生活が少しずつ崩れてきている状況もあり、問題を抱えた子どもたちの居場所を提供してくれないかというような声も上がってきています。

そうした声に耳を傾けながら、市内最初の子どもの食堂として、今後はどんな子どもにもよりそい、いつでも親の悩みごとにも向きあい、食事提供ができる場が地域全体に広がっていければと考えています。試行錯誤の日々が続きますが、子どもたちが将来福祉に関心をもち、福祉の担い手になってくれることを期待して取組み続けます。

ポイント

- 地域の声を受け止める
⇒ 民生委員の声に対し、「高齢者福祉施設の自分たちには関係ない」と思わず、子どもに対する取組みとして何ができるか考えた。
- ボランティアが主体となるようなくみづくり
⇒ ボランティアキャプテンの存在や定期的なミーティングをしっかりと行っているため、運営を施設の職員だけで行わず、ボランティアが主体となる彼らの思いを紡ぐなくみづくりができている。
- 運営資金をはじめ協力を得るための多様な活動
⇒ ウェブサイトの開設や寄付金を募るための活動など、社会福祉法人として活動への熱い意欲を地域住民に伝えている。特にちらしをまくことは地道なものだが、顔を合わせて活動を伝え、子どもたちのことを知る機会にもなるため重要な活動である。

地域の声によりそう 「Ori cafe」

前田 卓弥さん（社会福祉法人福信会 麦久保園）
奥平 隼人さん（社会福祉法人溪流会 草花苑）

詳細はP162



新しい暮らしの楽しみをつくる3つの活動

Ori cafeの「Ori」は、「折立」という町内会の地域名である折立をもじってつけました。会場は町内会館で麦久保園と草花苑の2つの社会福祉法人が運営する特養の生活相談員が中心に移動図書館、出前講座、本格的な出張喫茶と3つの取組みをしています。この2つの特養は地図で見ると近くにあるように見えますが、丘を挟んで建っています。そうした中でも一緒に活動しているのは、町内のために同じ地域にいる施設がともにできることが何かあるのではないかと考えたためです。

活動を始める前に町内の方、社会福祉協議会、民生委員、あきるの市独自に町会単位で設置されているふれあい福祉委員などに話を伺いました。その結果、日常の暮らしに必要な社会資源がこの地域にあまりないということが見えてきました。そこで他の地域から社会資源を探して、新しい暮らしの楽しみや関係づくりのために運ぶしくみとしてOri cafeをはじめました。

3つの取組みについてお伝えしていきます。移動図書館は、あきる野市の中央図書館に協力いただき、活動に合わせた本を選んでいきます。1か月ぐらいの貸出期間を設け、町内の方が本に触れて楽しめる身近な場となっています。利用する貸出カードは町内の人の1か月の見守り機能を果たすものとして活躍しています。

出前講座は2つの特養が相互で企画しており、これまで笑いヨガ、笑い文字、楽器の二胡の演奏会、体操などを実施しました。内容次第で参加者が変わるため毎回悩みながら決めています。講座では職員も参加者として加わり、同じ地域住民の目線で一緒に取組むようにしています。また、参加者への周知にも工夫をこらしています。以前、リハビリを目的とした体操を催す際に、目的を全面に押し出さずに「肩凝りや腰痛に効く体操」とチラシに書いたことがありました。そうすると地域の方がジャージやタオルを持参するなどそれぞれ思い描いた姿で来るため、かしこまらない雰囲気のもと楽しくリハビリをすることができました。

出張喫茶は、JR五日市線の秋川駅近くの老舗本格喫茶店「青蛾珈房」に協力いただき、コーヒーとケーキのセットを販売しています。町内には本格喫茶店がないので、150円の

割引券がついたチラシを持って地域の方々はとても楽しみにして来ています。

2つの社会福祉法人が協働する中で意識したこととその効果（奥平さんより）

2つの特養と一緒に活動することは運営側の視点に立ってみても、たくさんのメリットがありました。通常の施設業務に加えた活動となるので、協働によって負担の軽減や運営経費も減り、アイデアの引き出しが増え、参加者が喜んでもらえるための企画づくりに時間を費やすことができました。

またメインの担当を交互に変え、ルーティン化しています。お茶菓子を出すための西多摩保健所への届け出、中央図書館へのかかわりなど、より活動の継続性と安定性が増したように感じます。

そして、定期的な会議を重ねていく中で、信頼関係も深まり、指導監査、人材確保、ケアの方針、研修といった法人を越えた情報交換の場にもなっています。現在では、共同での研修、物品購入、求人などができるように話をすすめているところです。

活動のたびに麦久保園さんの地域住民の方とのつながりの輪が1つ小さな丘を越え、草花苑にも広がったと実感しています。



未来を見据え、一つひとつ考えながら活動をしていく

近い未来、2つの特養が介護に限らない生活全般にかかわる相談窓口の機能を発揮したいと考えています。身近な存在として暮らしの困りごとによりそい、「麦久保園に前田さんっていう人がいたよね。相談してみようかな。」と言ってもらえるような関係が築いていければいいなと思っています。

あわせて、制度にとらわれないサービスづくりの基盤を敷いていきたいと考えています。それには町内の方々の協力が必要不可欠で、準備としてOri caféの取組みを重ね、関係を築いているところです。また、Ori caféの周知の際にはチラシを一户ずつ配布し、歩き回りながら肌感覚で地域を理解しようと努めています。町内の方から、「次にいつになったの」と声をかけてくださることもあり、認知度が高まっているように感じます。今後もOri caféをきっかけに信頼関係を築き、地域住民の方にとって心強い存在でありたいと思っています。

ポイント

- 2つの社会福祉法人が同じ取組みを実施
 - ⇒ 2つの社会福祉法人の組織の壁を越えた連携において、互いに刺激しあい、切磋琢磨する中で取組みがより活性化している。
- 地域にある社会的資源の活用
 - ⇒ 市の図書館や隣町の喫茶店など地域にある資源を活用しながら、地域住民の方がかしこまらず気軽に参加できる取組みをすすめている。

Ⅲ

キャンペーン実施に 至るまで

～2018年度のふりかえり～



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそつためのイベントや交流会を各地で一斉におこなうキャンペーンです。

地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。

豊かな暮らしを支えるしくみがととのえられていく中で、高齢化の進行、社会的な孤立の問題、生活への困窮などが課題となっています。

そこで、「地域の中で、制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、一人ひとりによりそつこと」「一人ひとりの生活を、点（サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えるための『ちいきの輪』をつくること」を展開するための1つの方法として地域の多様な人びとをつなぐ取組みを行っており、今回で3年目を迎えます。

2018年度 キャンペーン実績

実施期間 2018年9月1日～11月30日

実施数 都内47区市町村で126事業・917団体

参加数 述べ 53,026名

※詳細はP168

「IVきつとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』（P33）」では、今年度のキャンペーンにおける各施設・事業所の取組みについて区市町村別に下記のテーマと合わせて掲載しております。

キャンペーン取組みレポート テーマ一覧

	テーマ	内容例
I 高齢者を 支える	1 認知症	・認知症カフェなど認知症高齢者やその家族を対象とした事業
	2 介護予防・高齢者支援	・介護予防教室など、高齢者を対象とし、閉じこもり防止や交流を目的とした事業
	3 アウトリーチ	・高齢者や地域住民を対象とした訪問・見守り・配食活動
II 多世代交流を 支える	4 相談・家族支援	・福祉や介護に関する相談の場の提供 ・介護をする家族を対象とした講座
	5 カフェ・居場所	・多世代を対象としたカフェなど地域住民の誰もが交流や食事ができる場所の提供
	6 学びの機会	・地域住民に対する学びの場の提供
III 地域を支える	7 地域団体との協働	・1つの施設・事業所だけでなく自治会や学校など、地域団体やその他の団体と複数で協働して行っている事業
	8 地域交流	・地域住民を招き、交流する事業
	9 防災	・防災訓練や福祉避難所など、地域の防災に関する事業

高齢者福祉施設・事業所での取り組み例



家族介護者教室

介護・料理・薬の知識に関する勉強会を市内地域包括支援センター合同で開催。地域の中で介護する方が一人で悩まないように学ぶ場を通じてつながりをつくっています。
(昭島市西部地域包括支援センター 愛全園/昭島市)

詳細はP129

大泉西小学校応援団まつり

PTA、町会、地域の様々な団体からなる学校応援団の取り組みを知って交流するお祭り。

車いすや介護ロボットなどの体験ブースを高齢者福祉施設が作り、子どもと大人と一緒に福祉に触れることで、将来の地域の担い手を育てています。

(協力：サンライズ大泉/練馬区)
詳細はP88



立川オールデイズ物語カフェ

印刷会社や傾聴ボランティアグループの協力のもと、昭和30年代の立川を写真で見ながら、思い出を自由に語り合う場。

参加者の若かりし頃の映像や写真を見ながら、思い出を共有し語り合うことで、認知機能の活性化を図ることができます。

(社会福祉法人恵比寿会/立川市)
詳細はP124

「継続」と「ひろがり」が実感できた1年 ～3年間の着実な歩みをもとに次のステップへ～

社会福祉法人秋川あすなろ会
あすなろみんなの家
今 裕司



■ 3年目を振り返って

“高齢者福祉・介護に関わる社会福祉法人・施設・事業所として、地域の方々に向けた活動を展開し、その実績を広く知っていただく取り組みが必要では？”といった思いからスタートした「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in 東京」は、早くも3年目の活動が終了しました。

ワーキングチームにも新たなメンバーを迎えることができ、打合せ会は様々なアイデアや意見が飛び交う中でも和気あいあいとした雰囲気を進めることができました。

過去2年の活動実績を踏まえ、都内全区市町村での実施、より多くの施設・事業所の参加、複数施設や住民組織等他機関と連携した活動の推進、といった目標を設定し、ワーキングチームの活動を進めました。

参加を検討されている施設・事業所向けの説明会では、地域に向けた活動を担当する職員の多くが感じている苦労や悩みへの対応策のヒントが得られる研修の要素を加えたところ、「施設に戻って取り組んでみます」といった積極的な感想をいただくことができました。

また、昨年に引き続き、他施設の取り組みを知って頂く機会づくりとして「見学会」の実施や『つなひろ通信』をとおして情報提供を行いました。

12月には、今年度の活動を振り返る機会として「実践報告会」を開催し、様々な取り組みについてご発表頂きました。今回は、施設・事業所職員のほか、関わってくださっているボランティアグループの方からもご発表頂くことができ、地域に向けた活動の多様性と発展の可能性の大きさを実感することができましたし、参加者から次年度のワーキングチームに参加したいといった嬉しい声を頂くことも出来ました。

この取り組みについては、マスコミ等の関心も高まっており、業界紙等の紙媒体はもちろん地域のケーブルテレビ等に取り上げられる事も出てきました。

30年度の実績としては、47自治体（前年度比+3）で126事業（前年度比▲5）が、917団体（前年度比+82）53,026人（前年度比+13,315）の参加を得て展開されました（詳細は資料編を参照ください）。

目標としていた全自治体での実施がかなわなかったことや事業数が微減となったことは残念でしたが、参加団体数・参加者数の増加などの成果が得られました。なかでも、今年度初めて島嶼部での実施ができたことは、大きな成果だと考えています。

歩みはゆっくりかもしれませんが、確実にすそのおが広がっていること、参加施設・事業所での活動が継続するとともにバリエーション・質が充実してきていると感じています。

一方で、まだまだ克服すべき課題も残っています。

一番の課題は、およそ1,200を数える高齢協の会員施設・事業所数に比して参加施設・事業所がまだまだ少ないこと、いまだ取り組みの行われていない自治体が存在していることです。

昨年度の報告書でも触れましたが、キャンペーンの目的や意義等の理解がまだまだ十分に行き届いていないことと、施設・事業所の運営環境の厳しさが大きな理由と考えられます。担当者の苦勞として「他の職員の協力を得るのに苦勞した・時間がかかった」という声が多くあがっていることも昨年度と同様の課題です。

■キャンペーンのこれから

ワーキングチームでは、次年度のキャンペーン実施に向けすでに準備が始まっています。

いまだ実現できていない都内全自治体での実施、より多くの施設・事業所の参加という目標を継続するのは勿論ですが、3年という一つの区切りを終えたいま、あらたなステージに向けた取り組みも必要と考えています。

複数施設等での協働・地域の各種団体との協働をより推進する、高齢協の分科会・分会、地域ブロックなどでの共通の取り組みを行うといった工夫が考えられますし、さらには、児童・障がいといった高齢協会員以外の福祉施設等にもこの取組みが広がっていったらという希望を持っています。

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in 東京」キャンペーンが高齢協の取り組みとして定着・進化し、地域の方々や様々な機関に認知され理解や協働を得ることで、「多様なつながりをもって大きくひろがり」、「地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまち」づくりに貢献でき、社会福祉法人や高齢者福祉施設・事業所に対する「信頼と評価」という成果が得られることを願っています。



実施担当者向け説明会

日 時 2018年6月6日 14:30~17:00
会 場 研究社英語センター地下2階大会議室
参加人数 44名

内 容

【あいさつ】

今 裕司さん（東京都高齢者福祉施設協議会 副会長・センター分科会長）

【実施担当者向け事業説明】

【情報交換】「地域とつながる上での悩みをききあおう」

コーディネート:唐木 理恵子さん（日本ボランティアコーディネーター協会 代表理事）

キャンペーン開催前に、実施担当者向け説明を開催しました。各地域の施設・事業所の実施担当者が集まり、顔を合わせながら、それぞれの取組みを共有し、課題や解決のための方法をともに話し合いました。

情報交換では、コーディネーターとして唐木理恵子さんをお招きし、ワークとして「地域とつながる上での悩みをききあおう」をテーマに担当者が抱える3つの悩み「職場の理解を得る」「地域の多様な団体と手を結ぶ」「地域に参画し、アウトリーチにつなげる」に焦点をあて、各グループで悩みの洗い出しを行いました。

また、活発な意見交換の中、それぞれの悩みを1つずつ紙に大きく書き出し、壁一面に貼り出して視覚化を図りました。「なぜ地域にかかわる必要があるのか」にはじまり、「職場の協力体制づくり」「人材不足」「ボランティア」「広報」など多様な課題があがり、それをカテゴリーに分けながら参加者のみなさんから解決のヒントを聞きあいました。

唐木さんからは取組みが軌道に乗るまでのプロセスや自施設から地域への活動のひろげ方に関するアドバイスもいただき、施設として地域によりそった取組みへどう一歩を踏み出せばよいのか、実践につなげてじっくり考える機会となりました。

参加した施設・事業所担当者の声

- ・別の法人の皆さんと意見交換する機会がなかなかないので、よい情報交換の機会になりました。
- ・他法人での活動、悩みを聞いてよかったです。
- ・困りごとの洗い出しができてよかったです。グループワークも参考になりました。
- ・悩みの共有やその解決のヒントが大変参考になりました。目的を明確にして、周囲を巻き込んでいきたいです。
- ・近隣の地域別に分かれたグループワークや情報交換などができたらより密な関係ができて面白いだろうなと思いました。
- ・ボランティアコーディネーターの経験をもとにした唐木さんお話は説得力がありました。

た。

- ・事務所内での理解が周知できるよう、スタッフとも相談していきたいです。
- ・地域の方が多く参加していただき、つながることができるようなイベントを企画していきたいと思います。



情報交換の様子。



唐木さんのワークの様子。取組み担当の悩みを壁に貼り出し、参加者と共有しました。

見学会

開催内容（全3回）

第1回 にこにこ清風食堂

日 時 2018年9月6日 16:45~17:45

会 場 特別養護老人ホーム清風園

参加人数 10名

※キックオフ記者会見としてメディアを対象に開催

第2回 ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア

日 時 2018年10月8日 10:15~11:30

会 場 特別養護老人ホームケアホームズ両国 玄関前スペース

参加人数 8名

第3回 立川オールデイズ物語カフェ

日 時 2018年11月30日 13:30~15:30

会 場 フェローホームズ森の家 ラウンジ

参加人数 10名

今年度もキャンペーン開催期間中に、見学会を開催しました。高齢者施設や事業所で地域によりそう活動を展開している方が実際に目で見て地域のアウトリーチの実践を学べる場をつくることを目的としています。今回は3か所の見学会を実施し、実施事業の見学や取組みにかかわっている方からの活動から感じた地域の姿、活動で大切にしていることなどをお話いただきました。

上記の3つの取組みの中では、高齢者福祉施設が専門外の分野として地域の子どもの居場所を守るためにいじめ・孤食・経済的問題に立ち向かう姿、日々の暮らしをより楽しみのあるものとして、動物を切り口に施設入居やマンション住まいのためにペットを飼うことができない方にどういった形にして向き合っていく様子、地域に男性の高齢者が集う場が少ないことに気づき、そうした方が居場所として親しみを持ってやってきてくれるための工夫などを間近で見ることができました。

また、参加者の中には、施設・事業所の担当のみならず、メディア関係の方もおり、地域によりそう活動を各地の高齢者福祉施設で思いをあたためながら取り組んでいることを広く伝えていく機会にもなりました。

見学会の中で見えてきた地域住民や取組みの実情は、次回以降のキャンペーンの実施に活かしていきたいと思えます。

見学会当日の様子



にこにこ清風食堂

近隣子どもたちが施設に集まり、一緒に夕食を食べる子ども食堂。グループホームの高齢者との交流、学生ボランティアによる遊びの活動など、世代を超えた交流の場をボランティアとともに住民をどう巻き込んでつくっているのか。地域の生の声から気づけることはたくさんあると感じた日でした。

(特別養護老人ホーム清風園/町田市)

詳細はP110

ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア

普段から交流のある専門学校の協力のもと、犬・猫・ハムスターなどの動物が施設にやってくるふれあいイベント。まちの一角にある小さな施設が入居者や地域の親子のためにどうアプローチをしていくか、動物に癒されながら学べた様子でした。

(特別養護老人ホームケアホームズ両国/墨田区)

詳細はP73



立川オールデイズ物語カフェ

昭和30年代の懐かしい立川の風景を写真で眺めながら、思い出を自由に語り合う場。

認知症カフェとして出発したところから地域の多様な方との交流の場と転換していくことから高齢者福祉施設がどう地域に向き合っていくべきか考える1日となりました。

(社会福祉法人恵比寿会/立川市)

詳細はP124

実践報告会

だれもが安心して暮らせるために地域でできること ～つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYOの取組みから～

※実践報告詳細はP8 参照

日 時 2018年12月20日 14:00～17:00
会 場 家の光会館7階コンベンションホール
参加人数 76名

内 容

【あいさつ】

相澤 和彦 さん（つなぐれひろぐれちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム）

【実践報告】

事例1 職員のもつ強みを発揮～施設内に理解を深める～

「ちょっと よりみち 癒しの茶店」

富山 佳代さん（癒しの里 西小松川）

事例2 まちの多様な仲間たちが連携

「大泉西小学校応援団まつり」（開催：大泉西小学校応援団）

西村 雄大さん（サンライズ大泉）

事例3 地域の方とともにつくるちいきの輪

「にこにこ清風食堂」

伴 成顕さん（特別養護老人ホーム清風園）

森 博司さん（にこにこ清風食堂 ボランティアキャプテン）

事例4 地域の声によりそう

「Ori cafe」

前田 卓弥さん（麦久保園）

奥平 隼人さん（草花苑）

【情報交換】 「だれもが安心して暮らせるために地域でできること」

【まとめ】

清野 哲男さん（つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム）

キャンペーン終了後に実践報告会を開催しました。実践報告では、今年度キャンペーンに参加した4つの取組みについて、多くの施設が悩みとしてあげていることを4つのテーマとし、それぞれの施設や地域の強みを生かしながら、地域の方と手を結ぶための苦労や工夫などをお話いただきました。

今回も誰でも参加できるように報告会の参加対象を広げたところ、自治体、社会福祉協議会、生活協同組合、公民館の多種多様な団体、地域包括支援センターの生活支援コー

ディネーターなどの参加があり、高齢者福祉施設の取組みを知らせていただく機会となりました。また、情報交換を通じて地域の多様な団体との連携の可能性を見据えながら、今後の取組みへのアイデアやモチベーションが得られた様子も見られ、会場はにぎわっていました。

参加者の声

- ・ 高齢者福祉施設の職員ではないのですが、現況を聞いて新鮮な気分になりました。子ども食堂のボランティアさんの生の声が聞けたことは貴重でした。
- ・ Ori cafeの話が大変興味深いものでした。法人を越えて協力するのは、実際に難しいことだと思われそうですが、実行に移し、地域に貢献されている2法人は本当にすばらしいと思いました。
- ・ 社会福祉協議会や生活協同組合など地域活動の核となる組織をはじめ、地域包括支援センターや特別養護老人ホームなど、いま地域活動をすすめている組織など、多種多様な組織の状況を伺って勉強になりました。
- ・ 様々な分野の取組みにはたくさんの工夫や思いが詰まっていると感じました。
- ・ 身近に感じる活動報告が聞けました。また、社会福祉法人の地域に対する認識や考え方を知る機会にもなりました。
- ・ 特養などが地域の社会資源の1つとして活動する場所となっていることを初めて知りました。
- ・ 介護サービス以外に目を向けた活動が多くて、びっくりしました。社会福祉法人の高齢者施設だからとできないと決めつけずに目先を変え、発想力を最大限に使っていきたいと思いました。
- ・ それぞれ「特別な」プログラムではなく、「あ、これでいいんだ」と身近なヒントが詰まった発表で、大いに参考になりました。
- ・ それはさすがに無理でしょと自分の発送になかった活動を実践している事業所が、たくさんあって本当に驚きました。これからの働く意欲になりました。
- ・ 地域包括支援センターの職員として、もっと地域に出て行って、活動していきたいと思いました。ネットワークを作っていきたいです。
- ・ 初参加でしたが、地域では様々な方が色々な活動をしていると知り、自分のところでもやるぞ！！と気合いが入りました。
- ・ 初めて参加させていただき、勉強になりました。まだ何もできていませんが、今後考えたいと思っています。



前田さんと奥平さんの実践報告の様子。



情報交換の様子。多様な団体が実践報告の感想を共有し、今後に向けた活動について話し合いました。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム

開催内容（全4回）

第1回 2018年4月11日

募集要項検討、実施担当者向け説明会企画検討

第2回 2018年7月4日

応募状況確認、広報方法検討（パンフレット・キャンペーングッズ作成等）、見学会企画検討

第3回 2018年10月10日

実施状況確認、実践報告会企画検討

第4回 2019年1月23日

実施報告書企画検討、次年度実施計画について

キャンペーンの企画・実施にあたり、施設・事業所の施設種別を越えたワーキングチームを構成しました。それぞれ地域によりそう取組みの経験や身近な地域の状況を伝え合いながら、検討を重ね、実施担当者向け説明会や見学会や実践報告会の運営、つながり通信の原稿執筆など行いました。今年度は新たに2名の方が加わっています。

ワーキングチームでは、毎回、参加する地域住民の方の暮らしがより豊かに、そして実施する施設・事業所にとって地域に求められる存在となるよう、「都内の高齢者福祉施設などが福祉や介護サービスが必要な高齢者だけでなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためにできることは何か」を日頃から考え、キャンペーンの意味を確認しながらすすめていきました。



ワーキングチーム活動の様子。メディア向け見学会でつながり通信を宣伝。



実施担当者向け説明会では、グループワークに入って一緒に考えることも。

ワーキングチームの1年

時期	主なできごと
4月	ワーキングチーム（第1回） 
5月	キャンペーン参加施設・事業所募集開始 昨年度版キャンペーン報告書発行
6月	実施担当者向け説明会
7月	ワーキングチーム（第2回） 
8月	プレスリリース
9月	つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン開始 見学会（第1回、メディア向け）
10月	ワーキングチーム（第3回） 見学会（第2回） 
11月	見学会（第3回） つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン終了
12月	実践報告会
1月	ワーキングチーム（第4回） 
2月	
3月	

ワーキングチームからの声～キャンペーンをふりかえって～

※所属は2019年3月時点



大脇秀一
とらいふ武蔵野

ワーキングチームに参加し2年となりました。施設見学会にはことごとく予定が重なり参加できず残念でしたが、各施設のレポートを見させて頂き、又、実践報告会を聞かせて頂き、施設の「地域との取り組み」「地域への貢献」は確実に強く深まってきていることがひしひしと伝わってきました。社会福祉法人は一般企業とは違う、地域と密接に関わる地域から必要とされる特別な組織であり、それをつなひろが少しでもサポートできればワーキングチームとしてこの上ない喜びだと思います。



小山正子
品川区立中延
特別養護老人ホーム

「なぜこの仕事を選んだのか」と考えることが多い一年でした。みんなで幸せになるために何かできることはないのか？と「福祉」を志した若かりし頃…。老若男女を問わず、地域のために実践できる毎日に幸せを感じています。キャンペーンを通して色々な人とふれあい、たくさんの気づきもあり、自分の輪も大きくなりました。



相澤和彦
山吹の里

昨年度に引き続き、ワーキングチームに参画し、各地域で様々な取組み、特に多施設協働での取組みが増え、少しずつ地域の輪が広がっていることを感じました。それと同時に取組みを行いたいがどうして良いか悩んでいる担当者も増えていると感じました。次年度はそのような悩みの解決につながる仕掛けをたくさん作りたくので、みなさんもワーキングチームに参画し、一緒に考えてみませんか？



長谷川栄司
東大和市高齢者ほっと
支援センターいもくぼ

私が企画に参加して感じたことは、キャンペーンに参加している各法人の職員たちが工夫を凝らして、地域に合ったイベントを実施しようとしている姿でした。工夫しながら、少しずつでも実施し、少しずつでも地域の方たちに知ってもらっている姿は、これからの期待を大きくしてくれる取組みという印象です。そして、他の法人への波及効果として、職員が集える機会をもう少し増やせていけたらいいのではないかと思いました。



清野哲男
府中市地域包括
支援センターあさひ苑

3年連続でWTとして「つなひろ」に参加させて頂きました。1年目「嫌々」「渋々」、2年目「好き好き」そして3年目は、自らと所属法人が知りたい・見たいという活動を積極的に見学させていただきました。子ども食堂の見学は本当に、自分にとってすてきな時間となりました。「社会福祉法人は地域のために何もしていないなんて、もう誰にも言わせない。」これからも、この活動を通じて、繋がっていきたいと思います。



樋熊さとみ
偕生園

「つなひろ」のワーキングチームとして参加させていただき3年になります。最近では、キャンペーンに不参加の施設の方でも、「あ～つなひろね」と言ってくださることも多くなり、この3年間で着実にひろがっていると実感しております。私自身、このキャンペーンを通じて、地域の中で、地域と共に、私たちは何をすべきなのか、何を発信していくのかという視点を学ばせていただき、たくさんの気づきを得ることができました。



野崎勝也
東京都社会福祉協議会
民生児童委員部

「つなひろ」の1番の特徴は、高齢者福祉施設の自主性にあるのかなと思います。地域のさまざまな団体や住民の方と一緒に活動をしていくことで、お互いの関係性が作られ、やがては利用している人にも還元される、素晴らしい取り組みがいくつも今年も行われていました。福祉の仕事がしたい、ソーシャルワークや地域社会に興味があるなど、これからの未来の福祉を担う方々にも、この報告書を手取ることで大いに取り組みに興味を持ってもらえると幸いです。



齋藤千映子
東京ボランティア・
市民活動センター

キャンペーンとして実施していることで、他の施設の事例を見て、「自分たちの施設でもやってみよう！」と取り組みが連鎖してきていると思いました。またボランティアの活躍も多く、施設と地域とのつながりをつくる上で地域のボランティアの存在はやはり大きいと感じました。始めはちょっとした取り組みでもそこから地域とのつながりができていきます。つなひろの取り組みがさらに広がっていくことを期待しています。

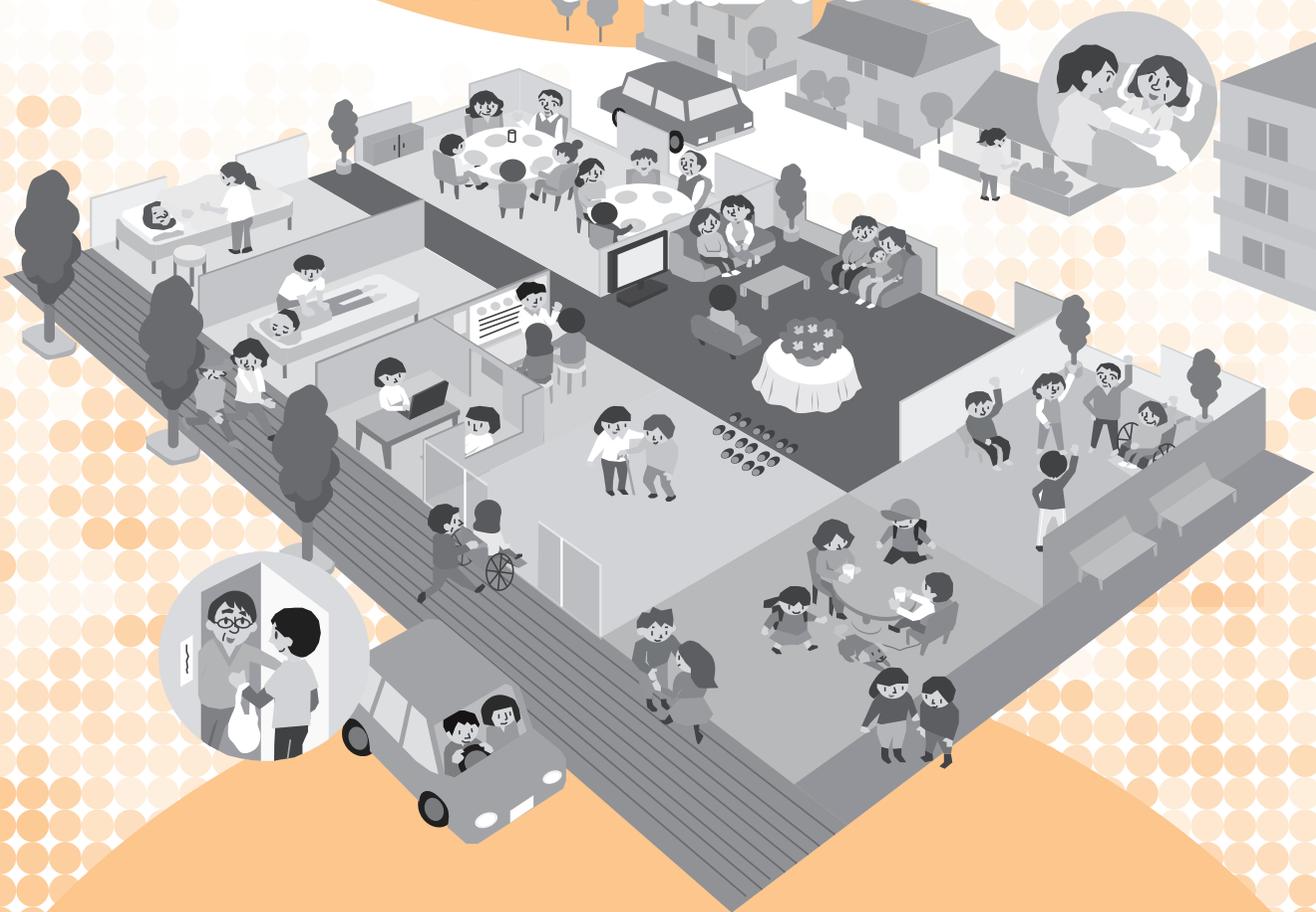


今裕司
あすなるみんなの家

30年度も多くの方々のご協力・ご参加を頂いて「つなひろ」が進められたことを、嬉しく思っています。ワーキングチームも新しい仲間が加わり、今まで以上に熱気があり、かつ和気あいあいとしながら活動が出来ました。ワーキングチームやキャンペーンを通じて、つながること、そのつながりが広がっていくことの大切さを、私自身が再認識した1年でした。この活動に関わって下さったすべての皆さんに感謝します。

Ⅳ

きっとみつける！ あなたのまちの「ちいきの輪」 ～キャンペーン取組みレポート～



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 実施施設・事業所一覧

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
三宅村	1	学びの機会	特養	社会福祉法人三宅島あじさいの会	理学療法士から学ぶ、日常生活からできる腰痛予防と介助方法について	37
中央区	2	地域交流	特養	社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホームマイホーム新川	①ボランティア入門講座 ②ボランティア体験会	38
品川区	3	認知症	複数施設共催	社会福祉法人若竹大寿会 品川区立社松特別養護老人ホーム	のんきの日&まなび庵	39
	4	カフェ・居場所	複数施設共催	社会福祉法人品川総合福祉センター 品川区立中延複合施設	喫茶 セせらぎ	40
	5	地域団体との協働	その他	社会福祉法人品川総合福祉センター 旗岡八幡宮氏子町会(協力:品川区立中延特別養護老人ホーム)	旗岡八幡宮例大祭	41
	6	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人品川総合福祉センター	しなふく紅葉フェスタ	42
渋谷区	7	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団 渋谷区あやめの苑・代々木	地域フェス・あやめ ～みんなで体操～	43
	8	地域交流	特養	社会福祉法人パール	パールよろず博	44
新宿区	9	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 特別養護老人ホーム原町ホーム	Café memory原町	45
	10	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホーム原町ホーム	原町バスクラブ	46
文京区	11	地域団体との協働	複数施設共催	アクティブ介護30実行委員会	アクティブ介護30	47
北区	12	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人光照園 王子光照苑	創立30周年記念 王子光照苑祭	48
	13	地域交流	特養	社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑	新町光陽苑 秋祭り ～秋の音楽会 音でつなぐ地域の輪～	49
	14	地域団体との協働	その他	北区高齢者福祉施設施設長会 北区高齢者福祉施設施設長会	きたく介護あんしんフェア2018	50
豊島区	15	認知症	特養	社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム菊かおる園(協力:区民ひろば西巣鴨運営協議会)	友遊まつり	51
	16	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム風かおる里	そよかぜカフェひまわりの“敬老会”	52
	17	その他	その他	社会福祉法人フロンティア	夢を応援「茜パン」	53
	18	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人フロンティア 特別養護老人ホーム養浩荘	顔見て食べよう会	54
	19	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人フロンティア デイサービス長崎いずみの郷	いずみサロン	55
	20	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人フロンティア 高齢者在宅サービスセンター山吹の里	仄仄(ほのぼの)カフェ	56
	21	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人七代会 特別養護老人ホーム千川の杜	杜のカフェ	57
	22	地域交流	特養	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホームゆたか苑	地域交流バザール	58
	23	地域交流	その他	カフェ桜(協力:社会福祉法人小茂根の郷)	キッズサービスデー	59
	24	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人みその福祉会 特別養護老人ホームケアタウン成増	子ども食堂 たんばぼ	60
台東区	25	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人至誠学舎東京 板橋区立特別養護老人ホームみどりの苑	認知症カフェ(グリーンカフェ)	61
	26	地域交流	特養	社会福祉法人聖風会 特別養護老人ホーム台東	ふれ愛♡たいとう祭り	62
	27	介護予防・高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人台東区社会福祉事業団 みのわ高齢者在宅サービスセンター	みんなで歌おう会	63
	28	介護予防・高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人台東区社会福祉事業団 みのわ高齢者在宅サービスセンター	いきいきご近所体操	64
荒川区	29	学びの機会	デイサービス	社会福祉法人東京都福祉事業協会 荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター	介護者教室	65
足立区	30	地域交流	特養	社会福祉法人聖風会 花畑あすか苑 あすふえす実行委員会	あすかフェスティバル Power of Smile ～笑顔の力で	66
	31	介護予防・高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人愛寿会 紫磨園在宅サービスセンター	トレーニングマシンの地域解放	67
	32	地域交流	特養	社会福祉法人敬仁会	社会福祉法人敬仁会 ふれあいあはとまつり in Tokyo	68
	33	地域団体との協働	特養	社会福祉法人足立邦栄会 いちかポケットの会(協力:特別養護老人ホームさくら)	子ども食堂いちかランチ(餅つき会)	69
葛飾区	34	地域団体との協働	特養	社会福祉法人三幸福社会 癒しの里 青戸・亀有	第30回かつしかボランティアまつり	70
墨田区	35	地域交流	その他	社会福祉法人賛育会 墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム	たちばな祭	71
	36	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホーム 東京清風園	さんいくフェスタ	72
	37	地域交流	特養	社会福祉法人寿山会 特別養護老人ホームケアホームズ両国	ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア	73
江戸川区	38	地域交流	特養	社会福祉法人江戸川豊生会 特別養護老人ホームみどりの郷福楽園	第10回 みどりの郷まつり	74

Ⅳ きっとみつかる！あなたのまちの「ちいきの輪」

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
江戸川区	39	その他	その他	社会福祉法人江東園	エドガワスマイルコミュニティまつり	75
	40	地域交流	特養	社会福祉法人三幸福社会 特別養護老人ホーム癒しの里西小松川	ちよっと よりみち 癒しの茶店	76
	41	認知症	特養	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	若年性認知症専門デイサービス「あしたば」作品展示・相談会	77
	42	地域交流	特養	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	なぎさ和楽苑介護の日「地域とともに支えあう福祉のまちづくりを目指して」	78
江東区	43	地域交流	特養	社会福祉法人あそか会 特別養護老人ホームあそか園	第7回 あそか園地域交流まつり	79
中野区	44	地域交流	特養	社会福祉法人中野区福祉サービス事業団 特別養護老人ホームしらさぎホーム	いきいきしらさぎフェスタ2018	80
	45	地域交流	その他	社会福祉法人フロンティア グループホームおさたけ	みんなのランチ	81
杉並区	46	地域交流	特養	社会福祉法人真松之会 特別養護老人ホーム和田堀ホーム	動物とふれあえる♪わくわく納涼祭！！	82
	47	地域交流	特養	社会福祉法人浴風会 南陽園、第二南陽園、第三南陽園	さかきの木作品展	83
	48	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人浴風会	浴風会つながるフェスタ	84
	49	介護予防・高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター	ももの木トレーニング	85
練馬区	50	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム	虹のカフェ大泉 ～子供からお年寄りまで、楽しく心地よい居場所～	86
	51	地域交流	特養	陽だまり会（協力：社会福祉法人泉陽会 光陽苑）	喫茶 陽だまり	87
	52	地域交流	その他	社会福祉法人芳洋会 大泉西小学校応援団（協力：サンライズ大泉）	大泉西小学校応援団まつり	88
	53	地域交流	特養	社会福祉法人泉陽会 第二光陽苑	「秋の音楽祭」	89
大田区	54	地域交流	特養	社会福祉法人キングス・ガーデン東京 特別養護老人ホーム練馬キングス・ガーデン	やきいもホクホクDAY2018	90
	55	学びの機会	養護	社会福祉法人東京蒼生会 大森老人ホーム	高齢者体験	91
	56	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人響会	ひびき ほっとサロン	92
	57	アウトリーチ	デイサービス	社会福祉法人善光会 老人デイサービスセンターフローズ東根谷	過疎地でのボランティア活動	93
目黒区	58	地域交流	特養	社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム中目黒	夏祭り	94
	59	相談・家族支援	複数施設共催	社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム東が丘・中目黒・東山	3つの高齢者施設見学会	95
世田谷区	60	学びの機会	特養	社会福祉法人敬心福祉会 特別養護老人ホーム千歳敬心苑	介護技術に触れてみよう！	96
	61	地域交流	特養	社会福祉法人大三島育徳会	第二回 だんだんまつり	97
	62	地域交流	デイサービス	社会福祉法人大三島育徳会 デイサービス博水の郷	地域の高齢者・障がい者向けの多摩川での芋煮会	98
	63	地域交流	特養	社会福祉法人友愛十次会 砧ホーム	ふれあい祭り	99
八王子市	64	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人一誠会 社会福祉法人多摩養育園 社会福祉法人清心福祉会	八王子介護フェア	100
	65	その他	養護	社会福祉法人多摩養育園 養護老人ホーム植の里	除夜の鐘	101
	66	地域交流	特養	社会福祉法人清明会	もみじ祭り	102
	67	地域交流	その他	社会福祉法人アゼリヤ会	アゼリヤ会地域交流（大根堀り）	103
日野市	68	その他	デイサービス	社会福祉法人マザアス日野	マザアス多摩川苑 配食サービス	104
	69	地域交流	地域包括支援センター	社会福祉法人 マザアス 日野市地域包括支援センター多摩川苑	たまカフェ	105
	70	地域交流	その他	日野市役所文化スポーツ課（協力：日野市地域包括支援センター多摩川苑）	日野ウォークフェスタ	106
	71	地域交流	デイサービス	社会福祉法人寿優和会 浅川苑サービスセンター	シルバーピアたかはた交流会 おやつ（どら焼き）作り	107
	72	カフェ・居場所	地域包括支援センター	社会福祉法人寿優和会 日野市地域包括支援センターあさかわ	おしゃべりカフェ	108
	73	地域交流	特養	社会福祉法人寿優和会 特別養護老人ホーム浅川苑	あさかわ祭り	109
町田市	74	地域交流	特養	社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホーム清風園	にこにこ清風食堂（こども食堂）	110
	75	地域団体との協働	複数施設共催	社会福祉法人賛育会 第二清風園	ハロウィンフェスティバル	111
	76	地域交流	特養	社会福祉法人十字架 特別養護老人ホーム友愛荘	ゆうあいマルシェ（ゆうあい広場）	112
多摩市	77	地域団体との協働	その他	KAOFES実行委員会（協力：愛生苑）	KAOFES	113
稲城市	78	地域交流	軽費（ケアハウス）	社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉	地域交流イベント 第6回ハーモニー松葉「歌の祭典」	114
三鷹市	79	地域交流	その他	社会福祉法人東京弘済園	東京弘済園まつり（地域の力・施設の力）	115
	80	地域交流	特養	牟礼東町会（協力：社会福祉法人桜栄会 特別養護老人ホーム恵比寿苑）	牟礼東町会秋祭り 太鼓巡行	116
調布市	81	カフェ・居場所	デイサービス	公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 調布市国領高齢者在宅サービスセンター	①だれでもカフェこくりょう ②だれでもカフェぶらぼあん	117
	82	カフェ・居場所	地域包括支援センター	社会福祉法人常盤会 調布市地域包括支援センターとさわぎ国領	地域交流カフェ「とさわぎCafé Green」	118
府中市	83	学びの機会	その他	社会福祉法人多摩同胞会	しらとり学習サポートサロン	119

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
府中市	84	防災	その他	社会福祉法人多摩養育園府中市立介護予防推進センター	いきいきプラザ合同防災訓練	120
国分寺市	85	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームミンナ	ぶらっとなみき	121
国立市	86	地域交流	特養	社会福祉法人弥生会 特別養護老人ホームくにたち苑	くにたち苑バザー	122
立川市	87	地域交流	特養	社会福祉法人恵比寿会	第6回フェローホームズ秋祭り	123
	88	カフェ・居場所	その他	社会福祉法人恵比寿会	立川オールディズ物語カフェ	124
	89	カフェ・居場所	地域包括支援センター	社会福祉法人恵比寿会 立川市南部東はごろも地域包括支援センター	立川オールディズ物語カフェin羽衣	125
昭島市	90	地域交流	特養	社会福祉法人同胞互助会 特別養護老人ホーム愛全園	愛全園福祉フェスティバル(文化祭)	126
	91	アウトリーチ	特養	社会福祉法人同胞互助会 ふれあい食事サービス	高齢者向け弁当配食サービス	127
	92	介護予防・高齢者支援	複数施設共催	げんき食実行委員会(協力:特別養護老人ホーム愛全園)	げんき食フェスティバル	128
	93	相談・家族支援	地域包括支援センター	社会福祉法人同胞互助会 昭島市西部地域包括支援センター愛全園	家族介護者教室	129
	94	地域団体との協働	複数施設共催	社会福祉法人同胞互助会 社会福祉法人ゆいのもり	すずらん喫茶 手作りパン販売	130
	95	地域交流	特養	恩賜財団東京都同法援護会 特別養護老人ホームフジホーム	①納涼祭 ②地域のカフェなどへの参加	131
東大和市	96	学びの機会	特養	社会福祉法人多摩大和園	地域講演会「地域共生について考える～認知症になっても最期まで安心して暮らせる街を目指して～」	132
	97	学びの機会	特養	社会福祉法人多摩大和園 やまと苑	地域懇談会	133
武蔵村山市	98	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人村山福祉会 特別養護老人ホーム伊奈平苑	地域高齢者を招いてのアフタヌーンコンサート	134
武蔵野市	99	地域団体との協働	その他	吉祥寺南町コミュニティセンター(協力:社会福祉法人武蔵野 ゆとりえデイサービスセンター)	親子広場	135
	100	地域交流	特養	社会福祉法人とらいふ 関前コミュニティセンター(協力:特別養護老人ホーム とらいふ武蔵野)	関前コミセン祭り	136
小平市	101	認知症	地域包括支援センター	社会福祉法人黎明会 小平市地域包括支援センターけやきの郷	オレンジカフェ	137
東村山市	102	その他	複数施設共催	東村山市高齢者福祉施設連絡会	お年寄りの手作り作品展	138
	103	学びの機会	その他	東村山市内社会福祉法人連絡会	東村山市内社会福祉法人連絡会パネル展	139
	104	その他	その他	東村山市内社会福祉法人連絡会	市民に向けたイベントの開催	140
	105	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人はるび	①ふらっとカフェ ②つなひろランチ	141
	106	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人白十字会 白十字ホーム八国山フリーマーケット実行委員会	第6回 八国山フリーマーケット	142
	107	その他	その他	東村山市内社会福祉法人連絡会	施設・事業所の市民オープン見学会	143
東久留米市	108	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人マザアス マザアス東久留米	オレンジカフェ「和」(なごみ)	144
	109	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人マザアス マザアス東久留米	歌声マザアス	145
	110	介護予防・高齢者支援	施設連絡会	東久留米市介護サービス事業者協議会	東久留米福祉フェア2018 11月11日は「介護の日」～考えてみよう家族の介護、広げていこうオレンジの輪～	146
	111	地域交流	特養	社会福祉法人マザアス マザアス東久留米	とも・いきマザアスバザー	147
	112	地域交流	特養	社会福祉法人三育ライフ	シャローム祭	148
清瀬市	113	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム、聖ヨセフ老人ホーム	ふれあいバザー	149
瑞穂町	114	地域交流	デイサービス	社会福祉法人常盤会 高齢者在宅サービスセンターみずほ	くりの里サロン	150
	115	介護予防・高齢者支援	特養	社会福祉法人瑞仁会 特別養護老人ホーム良友園	ふれんどサロン	151
青梅市	116	防災	特養	社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホームやすらぎの家	施設と地域の相互行事とおした災害連携	152
羽村市	117	学びの機会	特養	社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホームやすらぎの家	ときわ学級と利用者の交流とボランティア活動	153
あきる野市	118	地域交流	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	武蔵野小学校タウンワークス	154
	119	地域交流	デイサービス	社会福祉法人秋川あすなろ会 あすなろみんなの家	ふれあいお茶飲み会	155
	120	防災	特養	社会福祉法人さくらぎ会 特別養護老人ホームこもれびの郷	地域防災訓練	156
日の出町	121	地域交流	特養	社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム	こどもランチ in ひのでホーム	157
	122	アウトリーチ	特養	社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜	配食サンキュー弁当	158
	123	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人芳洋会 特別養護老人ホームひのでホーム 社会福祉法人道心会 特別養護老人ホーム藤香苑 社会福祉法人ほうえい会 特別養護老人ホーム栄光の杜	産業まつり de つながれ ひろがれ 日の出町の輪	159
福生市	124	認知症	特養	社会福祉法人福陽会 特別養護老人ホーム第2サンシャインビル	認知症オレンジカフェ	160
日の出町	125	地域交流	特養	社会福祉法人福陽会 特別養護老人ホーム第3サンシャインビル	施設の食事を知ろう	161
あきる野市	126	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人福信会 特別養護老人ホーム 麦久保園 社会福祉法人湊流会 特別養護老人ホーム 草花苑	Ori Cafe (オリカフェ)	162

三宅村

特養

学びの機会

社会福祉法人三宅島あじさいの会 理学療法士から学ぶ、日常生活からできる 腰痛予防と介助方法について

- 開催日程 11/24 9:30~11:00
- 参加団体 公益社団法人三宅村シルバー人材センター、東京都三宅村役場
- 参加人数 14名

実施の目的

地域の方々と職員とがともに学ぶ機会を持ち、日常生活や介護の業務、それぞれの立場で活用できる知識と方法を千葉大の非常勤の理学療法士の先生と常勤職員の理学療法士との話から学び腰痛を予防していく。

当日の様子

講師の関係で土曜日の午前に開催する。外部の方は10名の所4名、職員が9名（内1名が理学療法士の講師）、外部講師1名の計13名であった。少人数のため2台のベッドで、職員、外部の方でそれぞれ講師の理学療法士が付き実技を行えたので、車いすとベッドとのトランス時はフットレストやひじ掛けの着脱可能な車いすが有効である点など、学習の成果があったとの感想をいただく。メイン講師の千葉大の先生からスライドとペーパーベースの資料での説明で、腰痛の原因をボデイメイカニクスから説明いただいたのは理解しやすかった。

地域の課題

三宅島の人口は2,491名（11月1日現在）で高齢化率39%となり、介護事業者が社協の訪問介護、当法人の特養、ショートステイ、デイサービス、宅配サービス、地域包括支援センターとなり、独居高齢者が多く、身元引受人が島以外の都内と島内に分散しているなど、東京都でも大きく状況が異なり、今後の地域支援は慎重に検討しつつ実践していきたいと考えている。それに対して、島内3地区にサロン（介護予防教室）が立ちあがっている。また、村、社会福祉協議会、シルバー人材センター、当法人四者での「三宅村社会福祉関係事業所調整会議」が毎月実施され、島内の連携も少しずつ進めることが出きている。

社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホームマイホーム新川

① ボランティア入門講座 ② ボランティア体験会

■開催日程 ①11/11 10:00~12:00

②11/17 13:00~15:00

■参加人数 14

実施の目的

ボランティアに興味を持った方が、本講座を受講することで、ボランティア活動に必要な知識や情報を習得し、ボランティア活動のきっかけとしてもらう。また、施設主体で実施することで、高齢者施設を身近に感じてもらう。

当日の様子

高校生から働く世代まで、幅広い世代が参加した。

高齢者理解や車いす体験、トロミ食体験、そして、実際にボランティアをされている方の生の声を届けることができ、ボランティアの意味ややりがい、高齢者についての理解が深まった様子だった。

地域の課題

ボランティア活動に興味はあるものの、その始め方がわからない方は多くいると思われる。そのきっかけ作りができたことは非常に有意義であった。人口増加が進む中央区においては、高層マンションが多く立ち並び、顔が見える関係性が構築しにくい地域性となっている。地域で活躍するボランティアがネットワークを結び、そのネットワークを広げることで、地域で孤立している人たちへのアプローチが可能になると考え、ネットワーク作りを少しずつ進めながら、地域の福祉ニーズに応えていけるようにしたい。

品川区

複数施設共催

認知症

社会福祉法人若竹大寿会 品川区立杜松特別養護老人ホーム のんきの日&まなび庵

- 開催日程 のんきの日 毎月第3水曜 13:30～15:30
まなび庵 毎週火曜・金曜 10:00～15:00
- 参加人数 840名

実施の目的

のんきの日は、①地域住民の交流②地域内資源のネットワークの構築③地域による見守り活動の支援。

まなび庵は、認知症啓発活動を目的とし、認知症に関する正しい知識を伝えるとともに認知症になっても暮らしやすい地域づくりを目指す。

当日の様子

毎回、テーマにあった講師に依頼し、地域に今必要と考える情報を発信し、地域で行えることを考えるきっかけ作りの場となっている。また、参加者同士の情報交換の場ともなり、皆さま率先してお茶を配っていただきながら話に花を咲かせている。

地域の課題

様々な講座などを通じて住民同士のつながりができてきたが、自ら団体を立ち上げようとする動きにつながらない。

社会福祉法人品川総合福祉センター 品川区立中延複合施設

喫茶 セセラギ

- 開催日程 毎月第3木曜 13:00~16:00
- 参加団体 傾聴ボランティアクローバーの会
- 参加人数 300名

実施の目的

外出の機会が限られている特別養護老人ホームの入居者や近隣に住む高齢者などが簡単に出かけてホッとできるスペースをつくり、誰かと少しでも会話できるひとときを定期的に設けることを目的としている。



当日の様子

複合施設1階ロビーの普段は自由に利用できるテーブルに、テーブルクロスを掛け、喫茶店調に変化させた。特別養護老人ホームと在宅介護支援センターの職員が、ウェイトレスに扮し、コーヒーとパンのセットを提供している。傾聴ボランティアの方々が、訪れた方のお話しの丁寧な相槌を打ち、誰でも温かくホッとするひと時を過ごせるよう努めている。リピーターの方も多く、施設としても居場所を提供できる機会を生み出せている。

地域の課題

年に2回程、施設の運営に関して近隣の町会との懇談会を開いている。町会長よりセセラギ喫茶は良い評判をいただいております、町会も広報活動に積極的に協力していただいている。施設の入居者と近隣の方々のために、ボランティアの支えとともにこれからもこの活動を継続していきたい。

品川区

その他

地域団体との協働

社会福祉法人品川総合福祉センター 旗岡八幡宮氏子町会
 (協力：品川区立中延特別養護老人ホーム)

旗岡八幡宮例大祭

- 開催日程 9/8 18:00~20:00
- 参加団体 旗岡八幡宮氏子町会、品川区立中延特別養護老人ホーム
- 参加人数 200名

実施の目的

連合町会で例大祭を開催しており、盆踊りの会場に当特別養護老人ホームの駐車場を提供している。地域交流の観点から地元町会に協力しつつ、入居者にも祭りの雰囲気を感じていただくことを目的としている。



当日の様子

当日の夜は、秋風がそよぐ中、施設の駐車場に太鼓を置き、地元町会や近隣の方々を中心に盆踊りを踊っていた。当特別養護老人ホームからも入所者の方々が職員に付き添われて盆踊りに参加した。「品川音頭」「品川甚句」「炭坑節」と往年の唄が流れると皆、太鼓に合わせて手が動き、入所者の方々にとっても地域の方々と交流できるひとときとなった。施設側では、かき氷やポップコーンを振る舞いお祭りに花を添えた。クライマックスはお神輿が神社から町会へ戻って来た時、参加者全員で「よいしょ！よいしょ！」とかけ声を発していた。

地域の課題

地域との交流はとても大切だと考えている。9月は例大祭、10月はお祭り、12月は餅つきと、秋から冬にかけて様々な催しものを計画している。これらを通して、地域の方々に施設のことを少しでも知っていただければと思っている。また、これらの行事のために、町会の協力もたくさんいただいております。今後も近隣との良い関係が構築されるよう取り組みたい。

社会福祉法人品川総合福祉センター しなふく紅葉フェスタ

■開催日程 10/28 10:30~14:30

■参加団体 プルデンシャル生命保険品川第一支社、社福) 福栄会、社福) げんき、スマイルサポート、明るい選挙推進委員会、関東電気保安協会、品川児童相談所、八潮自治会有志、マルダイ大塚好雄商店、しなちるママ、品川区青少年地域貢献役立ち隊、品川区職員被災地支援団体みっこ隊、つながろう八潮（支えあいホットステーション、デイサービス八潮陽だまり、認知症グループホームミモザ、小規模多機能けめともの家、けめカフェ）、あえるレインボーハーモニー、しながわ学院エンタ部、3ガガヘッズ、森のひかり

■参加人数 860名

実施の目的

利用者の文化的な活動の促進や質の向上を目指すとともに、地域の方と施設利用者の交流、施設に対する理解を深めてもらう場をつくる。

当日の様子

今回から新しく生まれ変わったフェスタでは、駐車場にステージを設置し、利用者のアールブリュット（美術の知識や技術を持たない方たちによる独創性のあるアート）の作品が飾られた。ステージでは子どもたち、高齢者、障がい者、地域の方々が、ゲームに参加したり、歌やファッションショーに参加し、フェスタを楽しみ、大いに盛り上がっていた。また、つながろう八潮のコーナーでは、八潮地区の福祉施設と一緒にスタンプラリーに参加し福祉のネットワークの強化を図った。

地域の課題

八潮地区が品川区で一番高齢化がすすんでいる地域となっており、認知症になっても、安心して住める地域づくりが課題である。当法人でもオレンジカフェなどを開催しているが、八潮地区の外れに位置しており送迎が必要な高齢者が多い。来年度のフェスタの開催では、より多くの地域の方々に参加していただけるように、より一層、地域交流を深めていけるための工夫を検討していきたい。

渋谷区

特養

介護予防・高齢者支援

社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団 渋谷区あやめの苑・代々木 地域フェス・あやめ ～みんなで体操～

■開催日程 10/28 11:00～13:00

■参加団体 あやめの苑・代々木特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、代々木三丁目町会、児童合唱団、協力企業7社、極真会館空手

■参加人数 150名

実施の目的

渋谷区の介護予防事業の趣旨「住み慣れた地域の中でいきいきと自分らしい暮らしができる」ことを目指して、若返るダイヤモンド体操とフィットネス体操で身体を動かし、地域の方々の生活機能の維持・向上を図る。

当日の様子

若返るダイヤモンド体操は、渋谷区が全区的な普及を目指している体操のため、参加者が多かった。また、模擬店、バザー、協力企業の健康維持食品の配布や、児童合唱団や歌のおねえさん、空手道の演武もあり、盛りだくさんの内容に来場者は喜んでいた様子であった。

地域の課題

今年度は、6月と10月のイベントの実施に向けて、それぞれ内容を検討した。6月は、地域の子どもとお年寄りの交流の場、10月は、身体機能維持体操の場と目的を設定し実施した。今後も地域の方々と共催の形式で、地域に開かれた施設を目指していきたい。

社会福祉法人パール パールよろず博

■開催日程 11/16 10:30~15:00

■参加団体 ながやどハーモニカクラブ、(株)東基、ハンドケア・ビューティケア赤十字奉仕団

■参加人数 50名

実施の目的

利用者家族や地域住民、福祉の同業者の方向けに社会福祉法人パールおよび福祉事業についてのPRを行う。



当日の様子

前回は祝日開催し、地域の事業者の来訪が少なかったため、今年は平日開催としたところ倍の方々が来訪した。特養・デイ等を見学していただく施設案内ツアーを始め、介護相談、福祉用具体験、体力測定、福祉車輛乗車体験、配食サービス試食会、バザー、クイックマッサージ、ハンドケア、パール美術館、ファンダフル・レクリエーション、ハーモニカ演奏会、認知症サポーター研修など、総力をあげてのプログラムを展開した。特に居宅サービススタッフによる、あつあつ！おでん大会は大好評で楽しい地域交流ができていた様子だった。

地域の課題

昨年に引き続き、2回目の開催。前回よりも地域の事業者や利用者への広報を強化したため、関係者の来場者数は増えたが、近隣住民などの参加が見られなかった。地域に開かれた施設を目指すためには、このような方々の集客が課題となっている。

まずは、現在介護サービスを受けている方も受けていない方も、施設のことをより知っていただくことが大切と考え、今後は将来に対する不安やいざという時にどうすればよいかなどの心配事に対応できるように、継続して楽しく気軽に足を運んでいただける地域のコミュニティスペースづくりを目指していきたい。

新宿区

特養

カフェ・居場所

社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会
 特別養護老人ホーム原町ホーム
Café memory原町

- 開催日程 毎週木曜 14:00~15:00
- 参加団体 新宿区、新宿区社会福祉協議会、榎町高齢者総合相談センター、原町小規模多機能居宅介護センター、原町グループホーム
- 参加人数 255名

実施の目的

都市型の新しい活動を通じて地域とつながり、高齢者や介護者の方が気軽に交流できる場を提供。

当日の様子

近隣にお住いの高齢者、原町ホーム・原町高齢者複合施設を利用する高齢者の方々が集まり、毎週の様々な活動に参加し、交流を深めた。

普段言葉を発す機会の少ない方が、積極的に話をしたり、フロア内をずっと歩き続けていた方が1時間集中して活動に取り組む事ができていた。

近隣の参加者からも「家にいても一人だから」「人と会えるきっかけになっている」とのお話が聞かれた。スタッフが専門職で構成されていることから、介護等についての相談もあった。

地域の課題

今後も認知症の本人や家族が安心して生活・活動・相談できる場として、地域にお住いの方々の認知症への理解を深め、早期からの相談に繋げる場として継続性をもって活動していきたい。

社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会
特別養護老人ホーム原町ホーム
原町ベストクラブ

- 開催日程 毎週火曜 14:00~15:30
- 参加団体 原町小規模多機能型居宅介護センター
- 参加人数 0名

実施の目的

地域の高齢者に対し、地域包括ケアの環境を形成する。

地域に開かれた場、現在の社会福祉制度に関する情報の提供を行うとともに高齢者福祉に関わる専門職によるレクチャーや相談支援が受けられる地域に開かれた場を提供する。

当日の様子

参加者なし。

地域の課題

地域福祉の拠点と連携を取りながら広報活動を行い、継続していく。

文京区

複数施設共催

地域団体との協働

アクティブ介護30実行委員会

アクティブ介護30

■開催日程 1/16 10:00~16:00

■参加団体 文京区役所、文京区社会福祉協議会、文京くすのきの郷、文京白山の郷、文京千駄木の郷、ゆしまの郷、洛和ヴィラ文京春日、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京くすのき高齢者在宅サービスセンター、文京向丘高齢者在宅サービスセンター、文京白山高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター、文京本郷高齢者在宅サービスセンター、文京千駄木高齢者在宅サービスセンター、ケアワーク弥生、ユアハウス弥生リハビリ道場、老松ケアサービス、トチギ介護サービス、小石川医師会居宅介護支援事業所、ローズケア、アドワンスサポートコスモス、小石川みやびの郷、アリア文京大塚、ミニケアホームきみさんち、パナソニックエイジフリー介護チェーン城北、社の癒しハウス・文京関口、音羽えびすの郷、ネクサスコート本郷、アズハイム文京白山、東京都理学療法士協会文京支部

■参加人数 622名

実施の目的

区民及び次世代の介護を担う人に対して、取り組みを通して、たとえ高齢で要介護状態、認知症であっても安心して地域で生活できることを知っていただき、介護のイメージ向上を図る。



当日の様子

1階会場は、介護予防目的にて健康講座、体力測定と福祉用具の展示体験を実施。337名の参加となった。2階小ホールでは、漫画ヘルプマンの作者である「くさか里樹」先生の講演、若年性認知症の母親を介護するフリーアナウンサーの岩佐マリ氏をコーディネーターに区内事業所の若い介護職員とくさか先生とのトークセッションで次世代への情報を発信。吉本興業のコラボであるある体験隊でおなじみのレギュラーさんにご登場いただき、介護あるあるでポジティブな介護の世界をPRしていただいた。定員300名中285名とほぼ満員で、盛況であった。

地域の課題

今回はアクティブ介護21から数えて10回目の節目でもあり、イベントの内容も工夫をした。参加事業所から選出したスタッフが前日準備から当日の運営を担う状況であったが、人員体制が厳しく、今後安定的に継続していくためには、イベント内容の工夫や学生ボランティアへの協力体制を整備していく必要がある。特にボランティアの協力は準備段階から学生や住民との関係を構築し、介護業界への橋渡しになると考えている。次年度のスタッフ体制とあわせて、この課題も検討していきたい。

社会福祉法人光照園 王子光照苑 創立30周年記念 王子光照苑祭

- 開催日程 11/18 10:00~14:30
- 参加団体 EYEビリーヴ、株式会社明治、株式会社ヘルシーフード、日清医療食品株式会社、王子2丁目町会、王子3丁目町会、王子4丁目町会、東十条1丁目町会、光照園後援会
- 参加人数 200名

実施の目的

地域に密着した施設として、施設開放し活動内容や気楽に相談していただけるような仕組みを紹介する。また、利用者その他、近隣の方の作品を展示し交流を図る。

当日の様子

当日は、10時より開場。職員やボランティアによる演芸ショーも好評で、常に満席状態であった。入場者は200名を超え、大盛況のうちイベントは終了となった。アンケート回収率は、プレゼント進呈効果もあり80%を超えた。

地域の課題

地域の方々への協力依頼やポスター配布などを行うことで、施設と地域が一体となって実施することができた。今後も続けていきたい。

北区

特養

地域交流

社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑

新町光陽苑 秋祭り

～秋の音楽会 音でつなぐ地域の輪～

■開催日程 10/28 10:00～14:00

■参加団体 株式会社あおいの杜（障害者グループホーム及び生活介護事業所）、社会福祉法人山鳥の会 障害福祉サービス事業所 ワークショップやまどり、傾聴ボランティアハッピー、DIS及びZZK（中学校跡地卒業生バンド）

■参加人数 200名

実施の目的

毎年実施している6回目の秋のお祭り。地域になじみのある団体による演奏会を一日実施し、地域の方々や入居者との交流を図る機会とする。



当日の様子

ゆったりとした雰囲気の中、馴染みのある選曲のもと、となっており、演奏を聴いたり歌ったりと地域の方、入居者、家族が楽しそうに過ごしていた。

普段は離床制限のある入居者でも会場に来て演奏を聴き、気分転換していた様子が伺える。

昼頃には、隣の体育館を利用していた子どもたちも模擬店に訪れ、賑やかな様子も見られた。

地域の課題

中学校跡地にできた施設で、1階の会場は地域の交流スペースとなっており、演奏者と地域の方々も知り合い同士となり、入居者や家族も交わり交流できるイベントとなっていた。また、普段、苑内の掃除を業務委託している障がい者の団体の利用者に模擬店の店舗運営を依頼し、援助者のサポートのもと滞りなく実施されていた。ここでの活動が就労につながるきっかけとして、今後も継続できればと考えている。

北区高齢者福祉施設施設長会 北区高齢者福祉施設施設長会 きたく介護あんしんフェア2018

■開催日程 11/11 10:40~16:00

■参加団体 北区（長寿支援課、高齢福祉課、介護保険課）、北区医師会、東京都北
区歯科医師会、東京都滝野川歯科医師会、北区薬剤師会、北区鍼灸師
会、北区訪問鍼灸マッサージ師会、北区柔道接骨師会、北区ケアマネ
ジャーの会、北区サービス提供責任者の会、北区訪問看護ステーショ
ン連絡協議会、北区地域密着型サービス事業者連絡会、北区リハビリ
ネットワーク、北区通所サービス事業者連絡会、北区高齢者福祉施設
長会、北区福祉用具事業者の会、北区高齢者あんしんセンター、北区
社会福祉協議会、東京家政大学、北区介護予防リーダーの会、北区介
護予防自主活動グループ

■参加人数 800名

実施の目的

介護の日にちなんで、住み慣れたまちで自分らしい生活がいつまでも送れるよう、介護・介護予防・認知症について区内介護事業者や医療関連事業団体からの発信し、認知症や介護について相談などを気軽に行える機会とする。



当日の様子

来場者が各ブースに楽しみながら立ち寄れるようにクイズに答えるとプレゼントがもらえるスタンプラリーの進呈、介護を経験したアナウンサーの方の記念講演などが実施された。来場者はそれぞれの目的によって思い思いに過ごしている様子が伺えた。

地域の課題

今後もこのようなイベントを通じて、区民の方に広く介護にまつわる情報提供や取り組みの紹介などにより介護のイメージアップを図っていく機会としていきたい。

豊島区

特養

認知症

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム菊かおる園
 (協力：区民ひろば西巣鴨運営協議会)

友遊まつり

■開催日程 9/22 13:00~16:00

■参加団体 巣鴨地区民生児童委員協議会、西巣鴨小PTA、西巣鴨小PTA有志、第一地区青少年育成委員会、大正大学、西巣鴨新田町会、庚申塚町会、西巣鴨共和会、子どもスキップ西巣鴨、銀河鉄道クラブ、区民ひろば利用者、職員

■参加人数 700名

実施の目的

地域住民と共にまつりを楽しみ、世代間交流及び、区民ひろば西巣鴨運営協議会の活動を広く周知し、地域における施設の存在感を高めていく。

当日の様子

当日は13時から特養の玄関ピロティで地域の来賓の方を迎え、開会式を行った。前日から不安定な天候であったため、屋外での企画を予定通りに実施できるかどうか懸念されたが、時間の経過とともに天候が回復し、鉄道模型やボール投げゲーム、軽食(フランクフルト・チョコバナナ・ソースせんべい)など様々な企画を実施できた。イベントの中ほどには豊島区長もお越しになり、盛況な状況に驚かれていた。祭りは今回で13回を迎え、地域に根付いたイベントとなり、地域住民の交流はもちろん、施設としての役割を理解していただける催しとなっている。

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム風かおる里

そよかぜカフェひまわりの“敬老会”

■開催日程 9/10 12:45~14:00

■参加団体 豊島区社会福祉協議会、大正大学、豊島区事業団傾聴ボランティアステーション

■参加人数 25名

実施の目的

日ごろよりこのカフェに参加いただいている方々に対して、ゲームを行ったり、プレゼントをあげたりして楽しんでいただき、感謝の気持ちと長寿の祝いをお伝えする。



当日の様子

当日は地域の方々と見学に来ていた大正大学の学生や社会福祉士および介護福祉士の実習生の参加があった。フルーツのデザートに好きトッピングをしていただき、喫茶そよかぜのコーヒーなどと味わい、和やかな雰囲気だった。また、ビンゴゲームを行い、景品とともに、感謝の気持ちを書いたカードをプレゼントした。さらに、カラオケを行い参加者も学生も歌い、大変盛り上がる”敬老会”であった。

地域の課題

施設周辺は閑静な住宅街で人が集まりにくいですが、ここ最近は10人前後のメンバーが定着している。加えて、参加者が口コミで友達を誘って来てくれるようになった。今後の課題としては、「認知症カフェ」として、地域にいる認知症の方も気軽に参加できるような場にしていくことがある。学生にも積極的な参加を促し、カフェの活動幅を広げていきたい。

豊島区

その他

その他

社会福祉法人フロンティア 夢を応援「茜パン」

- 開催日程 9月～11月 平日15:00～16:00
- 参加団体 いけぶくろ茜の里
- 参加人数 不明

実施の目的

障害者就労支援事業所「いけぶくろ茜の里」利用者による手作りのパンを、豊島区役所と連携の上、登録の学習支援事業所の子どもたちへ無償配布を行う。

当日の様子

事前に学習支援事業所より必要個数の連絡を受け、受取日午前中に焼いた手作りのパンやお菓子を手渡ししている。その際に、子どもたちが喜んで食べている様子をお聞きしている。9月から11月の間に7事業所、延べ2,227個をお渡ししている。

地域の課題

地域の方々からのご支援、ご協力に支えられて、茜パンはできている。皆さんにおいしく食べていただけるよう、これからも腕を磨き、茜パンを介して、地域と障がい者をつなぐ架け橋となれるよう、利用者と一緒に子どもたちへ笑顔を届けていきたい。

社会福祉法人フロンティア 特別養護老人ホーム養浩荘 顔見て食べよう会

- 開催日程 ①10/19 11:00~13:00
②11/16 11:00~13:00
- 参加団体 いけよんの郷地域包括支援センター、養浩荘高齢者在宅サービスセンター、養浩荘ホームヘルプステーション、いけよんの郷ケアプラン相談センター
- 参加人数 121名

実施の目的

月に1回食事会を開催し、閉じこもり予防、栄養改善、社会的交流を目的とした「集う場」を提供する。

当日の様子

デイサービスで行っている、脳トレクイズや早口言葉、体操など、食事以外でも楽しめる工夫があり、参加者も笑顔がたえない様子。固定メンバーが定着しているので、誰かが休むと心配する声もあがるようになった。参加者からは、「温かく、カロリー計算された食事が大勢できて嬉しい」との声が多い。

地域の課題

食事について10食の用意が限度であり、メンバーが固定されがち。こちらに来れる方が対象となるため、足の悪い方などが参加しにくい。夏の暑い日は、デイサービスの送迎車を利用したが、悪天候時などの対応が必要である。スタッフについては、通常業務もあり日程調整が難しいこともある。またボランティアの方が現在1名であり、ボランティアの増員が望まれる。地域ケア会議で今後、いろいろな地域での開催ができないか、外出できない方への対応ができないかを話し合っている。

豊島区

デイサービス

カフェ・居場所

社会福祉法人フロンティア デイサービス長崎いずみの郷 いずみサロン

- 開催日程 毎月第3日曜 14：00～16：00
- 参加団体 要サロン、本多歯科、アロマ、ピアノ伴奏ボランティア
- 参加人数 180名

実施の目的

認知症の方やその家族・地域の皆さんが、自由にお茶を飲みながら楽しく交流できる場をつくる。

当日の様子

お茶を飲みながらの交流と「としまる体操」は毎回行っているが、ときどき、ゲストを呼んでイベントを実施している。

5月「みんなで歌おう（ピアノ伴奏ボラ）」、8月に「お口の健康が長生きの秘訣（本多歯科医院長）」、11月に「みんなで歌おう（ピアノ伴奏ボラ）」、12月に「アロマテラピー」と、それぞれのボランティアの方の協力のもとイベントを実施。事前にチラシを配布することで興味のある方の参加を促しているため、顔ぶれもその都度に代わり、どんどん新しいちいきの輪ができています。

地域の課題

チラシ配布のほかに、地域の方が声をかけあって誘ってくることも多くなり、少しずつ周知されてきている。相談ごとがあつて足を運ばれる方はまだ少ないため、今後は「ちょっと気になる・・・」と思った方が気軽に立ち寄って相談できる場にしていきたい。

社会福祉法人フロンティア 高齢者在宅サービスセンター山吹の里 仄仄（ほのぼの）カフェ

- 開催日程 11/19 13:30~15:00
- 参加団体 ベストリハ訪問看護ステーション高田馬場支店
- 参加人数 6名

実施の目的

認知症カフェを通じて、誰もが安心して参加できる居場所と地域のつながりをつくる。

当日の様子

毎月、第3月曜日に定期開催しているが今回初の試みとして、地域の訪問看護ステーションの協力により、「便秘について」の講習会を実施。いつもとは違う講師をお招きした。参加者は6名と少なかったが、真剣に聴講していた。前半は認知症と便秘の関係や便秘の原因、対応方法など分かりやすく解説していた。後半は予防法として体操を実施。笑顔で身体を動かす参加者の姿がみられた。



地域の課題

地域の方々の認知症予防に対する意識は高まっているが、まだまだ周囲に気軽に聞けたり、カフェに入りやすい雰囲気や周囲に伝わっていないため、来年度に向けて様々な試みを続けていくことで改善していきたい。年間を通して地域の方々に親しまれる居場所になるよう、今後も継続して実施する予定である。

豊島区

特養

カフェ・居場所

社会福祉法人七日会 特別養護老人ホーム千川の杜 杜のカフェ

■開催日程 ①9/1 10:30~12:00

②10/6 10:30~12:00

■参加人数 30名

実施の目的

地域の高齢者や介護者等の憩いの場として、情報交換の機会を提供する。また、福祉の力を必要とする方を見逃さないよう、相談支援も行う。必要な方には、在宅での見守り活動を提供する。



当日の様子

日々新しいことを学びたいという気持ちと、これからの不安や高齢者の福祉の制度についての疑問などを解決することを目的として、毎回テーマを決めて講義形式で行なっている。9月には「ケアマネージャーって何してくれるの？」10月は「いろいろな介護保険以外のサービス」、11月は「食べやすい食事、健康補助食品」というテーマで開催した。参加者は茶菓子をいただきながらのんびりとした雰囲気の中、メモを取ったり、時間いっぱいまで質問したり、それぞれの思いを発表したりと盛り上がった。

地域の課題

当地域は、高齢者のみの世帯が多い地域である。豊島区の高齢者支援は介護保険外サービスも多く、充実しており、新たな種類のサービス提供よりも現在あるサービスの拠点を増やすことが望ましく、その一端となれるようなサービス展開を今後検討し、実施していきたい。

社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

特別養護老人ホームゆたか苑

地域交流バザール

- 開催日程 10/13 10:00~15:00
- 参加団体 小茂根福祉園、駒込福祉作業所、魚政、KFC大山店、フリーマーケット出店希望3組
- 参加人数 150名

実施の目的

地域住民によるフリーマーケット、バザー、模擬店を通して地域住民との交流を図る。

当日の様子

当日の天気予報は雨であいにくの天気だったが、職員やボランティアの想いが天にも届いたようで、前日の天気予報では「くもり」の予報に変わり、当日を迎えることができた。地域商店の商品や協賛品、近隣住民・家族からの寄贈品販売、小茂根福祉園のコーヒー販売、駒込福祉作業所焼菓子販売、KFC出張販売などを通じて終日大盛況であった。地域交流バザールでの売上金は、地域公益活動として地域の皆様を対象にした体操教室などの運営活動費に充当した。



地域の課題

開設当時から継続している地域交流バザールだが、毎年来場している方々の高齢化を目の当たりにすると、地域の高齢化問題が顕在化していると感じる。今後はそのような方々が住み慣れた街で安心して暮らせる支援や介護予防の啓発活動を今後も継続するとともに、福祉の街づくりに努めていきたい。

板橋区

その他

地域交流

カフェ桜（協力：社会福祉法人小茂根の郷）

キッズサービスデー

■開催日程 毎月最終土曜 9：00～11：00

■参加人数 11名

実施の目的

地域の子どもたちが気軽に集まり、安価で食事が摂れることを目的とした食事会を実施。幼児から小学6年生までの児童を対象に1食100円の食事を提供する。子育て支援を視野に入れた福祉ニーズを引き出すきっかけとしたい。



当日の様子

4月実施時には、知人の紹介で来たという親子連れ10名（子ども8名）が参加した。ランチメニューを美味しそうにほお張り、とても楽しそうにしていた。

地域の課題

地域の保育園、幼稚園、小学校とチラシを配布したがなかなか浸透せず、とても苦戦している。昨今、子どもたちも習い事や部活動に忙しくなっている現状にあわせて、開催曜日、時間帯や提供メニューなどを見直し、立て直しを図りたい。

社会福祉法人みその福社会 特別養護老人ホームケアタウン成増 子ども食堂 たんぽぽ

■開催日程 毎月第2水曜 17：45～20：00

■参加人数 44名

実施の目的

近隣に住む子どもたちがひとりにならず、地域の中で安心して食事ができる環境づくりを目指している。

当日の様子

法人の厨房で作った夕食、地域のボランティアの方々の協力を得て作ったデザートを提供。また、ボランティアによる読み聞かせや学習支援も行っている。女子栄養大学の学生さんから当日のメニューについて、大きな食材の絵を使って分かりやすく栄養に関する話をしたり、アンケートで一番人気のアイスクリームを使ったパフェを食後のデザートに作ったりと参加した子どもたちは楽しいひとときを過ごしている様子だった。



地域の課題

平均参加人数は17人だが、現状提供可能な食事数は25食と限りがあるので、ねらいとしている地域の貧困の子どもたちへ情報を届ける必要がある。平成31年1月からは毎月2回の開催となることから1回200円と設定している参加費を減額し、参加者の負担を軽減できないか、検討している。

板橋区

デイサービス

カフェ・居場所

社会福祉法人至誠学舎東京
板橋区立特別養護老人ホームみどりの苑
認知症カフェ（グリーンカフェ）

■開催日程 ①9/10 10：30～12：00

②10/15 10：30～12：00

③11/19 10：30～12：00

■参加人数 45名

実施の目的

認知症になっても住みなれた地域で暮らせることを実現するために、認知症予防を目的とした地域の方の交流の場をつくる。

当日の様子

お菓子を食べ、コーヒーを飲みながら、感染症予防や火災についての問題をクイズ形式にして出題した。利用者は、クイズに答えたり、地域包括支援センターの看護師からの説明を聞いたりしていた。その後は、昭和時代の回想も取り入れながら、簡単な脳トレーニングを行った。参加者は、笑顔でクイズに答えたり、時には大笑いをしたりして楽しんでいた。

地域の課題

認知症カフェの地域住民への周知が、まだ不足していると考えられる。今後の広報活動をどのようにしていくかが課題である。参加者からの期待度は高いため、今後も地域住民のために継続して行っていけるようにしたい。

社会福祉法人聖風会 特別養護老人ホーム台東

ふれ愛♡たいとう祭り

- 開催日程 10/28 10:00~15:00
- 参加団体 台東子ども家庭支援センター、たいとう寮、うえの高齢者在宅サービスセンター、特別養護老人ホーム蔵前
- 参加人数 200名

実施の目的

地域の方々に施設を知ってもらう。また、地域交流の一環として、子ども・障がい・高齢者といった幅広い層の方々との交流を図る。



当日の様子

当日は、天気にも恵まれ、小さな子ども連れの家族が多く参加した。今年は、複合施設の特徴を生かし協働で、各施設が目玉となるブースを作った。子どもブースとして、仮装ハロウィンフォトコーナー、障がいブースとして、フィールドワーク（箱庭・お絵かき）、高齢ブースとして、ホーム喫茶・鉄道模型・コンサート・落語・朗読・ゲームと様々な催しを企画した。他にも、企業に協力を依頼し、コンサートの演奏者を招いてもらったり、日用品を安く提供いただいた。このイベントをきっかけに、施設内の各事業所と連携することができた。

地域の課題

当日は、近所の小学生のバスハイクのイベントがあり、想定よりも来場者が少なかった。来年度は、町会などの行事を確認した上で、日程調整を行いたい。また、今年はイベントが多かったため中止にした野菜販売について、色々な方から「楽しみにしていたのに実施していなくて残念」といった意見を多くいただいた。

今後は、各事業所との連携を生かし、より多くの方の来場を目指していきたい。

台東区

デイサービス

介護予防・高齢者支援

社会福祉法人台東区社会福祉事業団 みのわ高齢者在宅サービスセンター みんなで歌おう会

- 開催日程 ①10/24 13:30～14:30
②11/21 13:30～14:30
- 参加人数 100名

実施の目的

地域に開かれた施設づくりの一環として、地域の方々が無料で参加できる音楽プログラムを行う。

当日の様子

職員が司会役となり、ボランティアの伴奏に合わせて、季節の歌や懐メロなどの大合唱を行い、皆さん楽しまれている様子だった。

地域の課題

今後もたくさんの地域の方々が足を運び、楽しめるようなプログラムを考えていきたい。

社会福祉法人台東区社会福祉事業団
みのわ高齢者在宅サービスセンター
いきいきご近所体操

- 開催日程 ①10/4 13:30~13:30
②11/1 13:30~13:30
- 参加人数 30名

実施の目的

概ね60歳以上で、健康維持に関心のある台東区民の方々に対して、運動習慣を持っていただくために、自宅でもできる体操を一緒に行い、継続的に運動を行う機会をつくる。

当日の様子

参加者の多くは健康に興味のある方なので、指導者の指導のもと真剣に運動を行っていた。また、自宅で行う際などの質問もあり、活発な様子だった。

地域の課題

いきいきご近所体操に参加された方々が、自宅でも継続的に運動ができるようなプログラムを今後も行っていきたい。

荒川区

デイサービス

学びの機会

社会福祉法人東京都福祉事業協会 荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター 介護者教室

- 開催日程 5/18、6/23、7/18、8/23、9/20、10/10、11/16
毎月1回1時間程度
- 参加人数 40名

実施の目的

地域の高齢者福祉施設として、施設利用者家族をはじめ地域住民へ向け、高齢者の衣食住に関わる知識や介護の技術などの教室を開き、高齢者福祉の地域力を高める。

当日の様子

1教室あたりの参加人数は少ないが、参加者からは高齢者と関わる上での参考になったとの声が寄せられている。

地域の課題

1教室あたりの参加人数を10人以上となるよう、事業開催のPRを強め、事業実施の効果を高めていきたい。

社会福祉法人聖風会 花畑あすか苑 あすふえす実行委員会

あすかフェスティバル Power of Smile ～笑顔の力で

- 開催日程 ①11/3 10:00～15:00
②11/4 10:00～15:00
- 参加団体 花畑地域学習センター、花畑住区センター、桜花亭
- 参加人数 300名

実施の目的

ふれあいまつり（地域学習センター）、花畑住区まつり（花畑住区センター）、および桜花亭と合同開催することにより、花畑地域一帯での連携をはかる。地域住民や入居者に楽しんでいただくと同時に施設をPRする場としていくことを目的とする。



当日の様子

地域のお祭りに参加させていただくようになってから2年目を迎えた。昨年より内容をパワーUPし、模擬店や取組みを充実させた。

その中で、病院や施設を訪問しているケアクラウンを招いて、地域のお子さんや入居者にバルーンアートやシャボン玉を楽しんでいただいたり、職員が通っているクレープ屋を招いたり、東武動物公園の出張動物園を招いたり、各所との「つながり」を大切にプログラムを実施した。

施設職員が、流行りのDA PUMPの曲「USA」を披露したりと、地域の方や入居者に対し、年齢関係なく楽しんでいただくことができた。

地域の課題

このお祭りに関してはこれからも継続し、あすかカフェの運営を通じて地域の方に花畑あすか苑のことを知っていただきたい。

また現在でも、地域の介護者教室に講師役として参加したり、お祭りにも参加したりといった活動を行っているが、地域情勢を把握し、ニーズに貢献していくための活動を今後も展開していきたい。

社会福祉法人愛寿会 紫磨園在宅サービスセンター トレーニングマシンの地域解放

■開催日程 毎週月・水・金曜 17:00~18:00

■参加人数 1031名

実施の目的

地域の方の健康作り

当日の様子

毎回12~15名程度の地域の方が参加していた。

ハイグレードなトレーニングマシン（テクノジムキネシスサーキット）4種類の他、平行棒、階段昇降台、バランスボールを使用して、1時間のトレーニングを和気藹々と楽しんでいる。

トレーニングの効果として、「信号を楽に渡れるようになった」「買い物が、楽に回れるようになり楽しみになった」という声が聞かれた。

地域の課題

- ①取組みに対する定期的な効果測定の実施
- ②指導者の育成
- ③自主グループ化

社会福祉法人敬仁会

社会福祉法人敬仁会 ふれあいはあとまつり in Tokyo

- 開催日程 10/13 10:00~15:00
- 参加団体 パークタウン東綾瀬自治会、(社福)奥戸福祉館、嬉泉会(特定非営利活動法人)、夢太鼓、ぴいこ音楽隊、日本障がい者ダンス推進会、NPO法人キッズドア、社会福祉法人敬仁会(ル・ソラリオン葛飾、ル・ソラリオン西新井、ル・ソラリオン綾瀬、あやせババール園)
- 参加人数 400名

実施の目的

社会福祉法人として「地域」に支えられていることに感謝し、より一層地域の一人ひとりのつながりや、コミュニティ活性化の一助となることを目的に実施。

当日の様子

当日は天候に恵まれ、メインステージでは和太鼓演奏、音楽演奏、障がい者ダンスで盛り上がり、保育園児の遊戯には多くの方に喜んでいただいた。屋外は施設の敷地を使って、キッズコーナー、障がい者施設によるパンや肉まんが販売する屋台などがあり、地域周辺から多くの来場者があった。また、ボランティアをはじめたくさんのご協力をいただき、まつりをきっかけに地域の方々と施設、施設利用者の交流を図ることができ、有意義な交流イベントとなった。

地域の課題

足立区東綾瀬の施設周辺には団地が多くあり、高齢者数、児童数も多い状況であるため、世代を超えた交流が必要である。当法人が持っている機能(高齢者事業、保育事業)を活かし、ボランティア活動の活性化、次世代の人材育成、高齢者の行きがい・介護予防につながるよう地域貢献を目指したこのようなイベントを通じ、社会資源として知ってもらおう努力が今後も必要である。

足立区

特養

地域団体との協働

社会福祉法人足立邦栄会 いちかポケットの会

(協力：特別養護老人ホームさくら)

子ども食堂いちかランチ（餅つき会）

■開催日程 9/8、10/13、11/24 12：30～16：00

■参加団体 協力：いちかポケットの会、谷在家団地サロンいろり、キッズドア（足立区西部居場所学習支援）、足立区立鹿浜第一小学校PTA、足立区立鹿浜第一小学校開かれた学校づくり協議会、社会福祉法人邦栄会（特別養護老人ホームさくら）

協賛：セカンドハーベストジャパン、パルシステム東京足立、小林商店、下山畜産（株）、足立区NPO活動支援センター、都市農業公園、江戸餅つき屋

後援：足立区社会福祉協議会

■参加人数 177名

実施の目的

近年、様々な家庭の状況から「子どもの孤立」「食の偏り」問題が懸念されている。「みんなで楽しく食べられたら、もっとおいしくなるよね。」を、運営スタッフの合言葉とし、小中高校生を中心とした食育と交流の拡大を行う。

当日の様子

この月のメニューはシンプルに、おにぎりとスープ、食後のコーヒーだった。乳幼児連れの若いママ、小中学生、高齢者が世代を超えたグループを作り、食事とゲームを楽しんだ。子どもたちのボードゲームを高齢者が覗いて、明るい会話と笑い声が弾んでいた。乳幼児コーナーでは、ママ友たちが会話をしながらの食事をしていった。山積みされたおにぎりはすぐに無くなり、子どもたちがスープのおかわりを求めていた。参加した高齢者からは、「月1回のこの時間が楽しい。」、ママ友たちは、「子どもから目を離せないが、ここに来れば、準備も片付けもなく、楽しく食べられる。」、小学生たちは、「今度はいつあるの?」といった声が寄せられた。

地域の課題

こども食堂への期待と要望は日々大きくなっており、「月1回の開催では、足りない。」との声が多く寄せられる。小中学校の長期休業期間の昼食や普段の朝食を求められることも多々ある。開催回数を増やすためには、開催場所の確保、地域との連携、スタッフの質の向上、ボランティアの増員、運営資金の確保など課題が多い。まずは、昼食月2回、夕食月2回の実施を目指すことと、小中学校の長期休業期間での昼食開催と居場所づくりを目標としていきたい。

社会福祉法人三幸福社会 癒しの里 青戸・亀有

第30回かつしかボランティアまつり

■開催日程 11/18 10:00~15:00

■参加団体 葛飾区内ボランティア団体、障害者施設作業所、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなど

■参加人数 5000名

実施の目的

「みんなで参加 ふれあい広場 ~あなたとわたしの思いやり~」をテーマに、区内で活動しているボランティアの方々の活動発表を通じて交流の場をつくる。



当日の様子

当日は天候にも恵まれ、模擬店22店舗、体験PRコーナー15団体、舞台発表10団体、バザー3会場にわたり、開場前から大勢の来場者が訪れていた。初参加の当施設は施設で活躍しているボランティアの様子を冊子にまとめたものを配布し、「高齢者施設でボランティアをはじめよう」という呼びかけを行った。多くの来場者が足を止め、冊子を手に取り、特養での活動に興味を持った様子であった。他の団体との情報交換や交流などもでき、施設を地域にアピールする良い機会になった。

地域の課題

すでにボランティア活動をしている団体を新たに施設に招いたり、個人的に施設ボランティアに興味を持った地域住民の方々をスムーズに参加できるように、受け入れ体制窓口の整備が必要だと感じた。「なかなか施設内の様子が分からない」「施設に気軽に入りにくい」という声に対しては、常時アピールする方法も検討していきたい。

墨田区

その他

地域交流

社会福祉法人賛育会 墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム たちばな祭

- 開催日程 たちばな祭 10/28 10:45~14:00
作品展 10/25~10/28
- 参加人数 150名

実施の目的

年1回のオープンハウスとして、利用者、地域の方の作品展や模擬店、ライブなどを開催。地域の方とお祭りを楽しみながら施設を知り交流を図っていく。

当日の様子

入所者、デイサービス、ケアハウスの利用者作品、地域の方の作品展示では手芸や書道、絵など力作の数々が展示され、多くの方が会場を訪れ、素晴らしい作品に感嘆の声を上げていた。最終日は模擬店でおなかを満たし、イベントとして太鼓やチアダンス、合唱、プロミュージシャンのコンサートと盛りだくさんの内容に地域の方、利用者、家族と一緒にになって楽しんだ。日ごろ活動しているボランティア、近隣中学生ボランティアなど多くの方の協力もあり大盛況だった。

地域の課題

年に1度の開催を楽しみにしている方がいる反面、初めて来たという方もいた。より多くの方に施設の存在を知ってもらえるよう、開催を継続していく。

社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホーム 東京清風園 さんいくフェスタ

■開催日程 9/30 11:00~14:15

■参加団体 賛育会病院、たちばなホーム、はなみずきホーム、マイホーム新川、地域包括支援センター、立花南町会、立花一丁目団地自治会、ダイキン工業株式会社、グットフェローズ

■参加人数 250名

実施の目的

地域の方々に向け、社会福祉法人賛育会が医療事業・高齢者事業・保育事業と社会ニーズに応じて活動してきたことを紹介を行う。楽しいイベントを通じて施設職員と地域住民が顔見知りとなり、交流することを目的とした。

当日の様子

当日は台風24号の接近によりその影響が懸念されたため、予定していた内容を一部縮小して実施したが、大勢の地域の方々が来園した。地元町会の方々が中心となって実施される模擬店や下町の保健室、介護体験講演会、高齢者相談コーナー、マッサージコーナー、子ども向けゲームコーナー、利用者の手作り作品バザー、職員による合唱などを催した。模擬店、ゲームコーナー、下町の保健室、マッサージコーナーは開始直後から行列ができ、子どもから年配の方まで幅広く楽しんでいた様子だった。

地域の課題

法人地域にあり続けていくことへの基盤である「地域に仕える」ことを見つめ直し、地域・社会貢献活動を更に強化すべく、地域町会との合同防災訓練や地元商店街の街づくりイベントへの協力をを行い、区内企業の新人職員研修も積極的に受け入れてきた。

今後の活動として、地元の町会や自治会とイベントや防災訓練などを行うことを通じて相互関係をさらに強固にし、医療・福祉・保育の専門集団として地域に貢献できる様々な機会を見出していきたい。

墨田区

特養

地域交流

社会福祉法人寿山会 特別養護老人ホームケアホームズ両国 ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア

■開催日程 10/8 10:30~11:30

■参加人数 60名

実施の目的

施設内で好評であった企画を地域の方たちにも発信し、この企画を通して施設の存在を知っていただくとともに、交流を図る。

当日の様子

掲示板やポスターを見て、小さな子どもを連れた親子連れが何組か来場した。犬・猫・モルモット・アルマジロが来てくれ、動物1匹に対して学生が1人付き添っているため、安心して動物たちとふれあう事ができた。マンションでペットが飼えないため、この企画を楽しみに来た地域の家族連れが、動物たちとのふれあいに笑顔で喜んでいた様子が印象的だった。入居者はもちろんのこと、少数ではあったが、地域の方が参加し、楽しんでもらえたようだった。

地域の課題

小さな施設でスペースの問題があるため企画内容が限られてしまうが、ご入居者だけでなく、地域の方も参加できる企画を検討・実施し、地域情勢の把握・貢献するための活動へと繋いでいきたい。

社会福祉法人江戸川豊生会 特別養護老人ホームみどりの郷福楽園

第10回 みどりの郷まつり

- 開催日程 11/4 10:00~15:00
- 参加団体 なぎさ虹の会、アーヌエヌエ、警視庁第二機動隊、シルバーとっぷ、みどり会、コープみらい、江戸川区商店街連合会
- 参加人数 450名

実施の目的

地域の方に施設を開放し、社会福祉施設として社会資源を地域に還元するためにイベントを通して地域の方との交流を深める。また、新たなボランティアの拡充もねらいとしている。



当日の様子

恒例のもちつきでは、第二機動隊が力強い餅つきを披露。屋内ではフラダンスショー、マリンバ演奏、オレンジカフェも出店した。バザーでは掘り出し物も多く販売した。屋台は焼き芋、牛すじカレー、ひつつみ汁、焼きそば、ドリンク、新鮮野菜も用意し、完売した。綿あめを無料で提供したところ、予想以上の反響があった。遊び屋台は1回10円、こちらも大好評で景品が品切れになった。最後は江戸川区商店街ヒーロー「エドレンジャー」ショーで、子どもから大人まで一緒に楽しむことができた。地域の協力により、このような盛大なおまつりを開催することができた。

地域の課題

親子連れの参加者が多く、楽しく過ごせたという感想を多くいただいた。初めて来園される方も多く地域への宣伝、広報活動の必要性を感じた。

江戸川区

その他

その他

社会福祉法人江東園

エドガワスマイルコミュニティまつり

■開催日程 10/28 10:00~15:00

■参加団体 エドガワスマイルコミュニティ委員会（江戸川共栄商店会、江戸川一丁目町会、江戸川二丁目町会、江戸川二丁目都住自治会、東部第一地区民生児童委員協議会、東婦会、青少年育成瑞江地区委員会）、東都生協、日清医療食品、元明館、プレジール、やすらぎ夢ショップ、ぽこぽこ、ただいまプロジェクト、カームハート、ハンドリフレTAMAKI、アシストデイサービス、なごみの家瑞江

■参加人数 1200名

実施の目的

すべての世代が積極的に関わりを持ち、支えあいながら暮らすことができる地域社会「エドガワスマイルコミュニティ」の実現。



当日の様子

当日は約1200人の来場者数。今年は江戸川共栄商店会の「味覚まつり」となごみの家瑞江「ハロウィンパレード」ともに共催したことで昨年に比べ、大幅に来場者数を増やすことができた。

江東園からは、認知症サポーター養成講座（小学校高学年向け、一般向け）、体力測定、脳トレなどを企画し、実施した。

地域の課題

地域リーダー（町会の後継者など）の発掘。今年度は中学生と高齢者の対話の会「地域会議」、おやこで認知症を理解する「おやこ映画会」、認知症のある方に声をかける「認知症声かけプロジェクト」の3つもを行い、引き続き地域づくりを行う。

社会福祉法人三幸福社会 特別養護老人ホーム癒しの里西小松川 ちょっと よりみち 癒しの茶店

- 開催日程 10/13 13:00~16:00
- 参加団体 柏会、ザ・マジック、就労支援B型事業所エスプリドゥ（パン屋）
- 参加人数 90名

実施の目的

地域住民を施設に招き、入居者とともにボランティアのパフォーマンスを楽しんでいただくことで地域住民と入居者、職員との交流の機会とする。また、地域の方と直接的にお話をする機会を得ることから、地域ニーズの聞き取りを図る。

当日の様子

初の地域への施設開放にも関わらず、開始時間以前より来場者が訪れ、地域住民からの参加者は20人を超え、入居者とともに2つのボランティア団体によるパフォーマンスを楽しんでいただいた。また、参加住民より、「施設内部の見学はできないか」との声が多くあがったため、急遽の施設見学を実施。「こういうイベントを毎月やってほしい」「ずっと施設の中を見てみたかった」などの声が聞かれ、終了時のアンケートからも感謝の言葉を多くいただいた。茶店では、近隣事業所によるパンの販売も行われ、完売するほどの盛況となった。

地域の課題

参加された地域住民は高齢の方が多く、施設に対して高い関心が見受けられたが、今まで足を運ぶ機会がなかったとの話が多かった。これからの生活への不安が大きい様子もあり、介護等の知識の普及が行き届いていない現状を感じた。また、外に出る機会が少なくなり、家に引きこもりがちになってしまっている高齢者も近隣にいるといった話もあった。今後もイベントなどを通じて、足を運びやすい施設を目指しながら、地域との関係性を強めることで、介護知識の普及や閉じこもり高齢者の外出のきっかけづくりにも携わっていきたい。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑
**若年性認知症専門デイサービス
 「あしたば」 作品展示・相談会**

- 開催日程 ①9/20 10:00~15:00
 ②9/21 10:00~15:00
- 参加団体 江戸川区役所介護保険課事業者調整係職員、江戸川区内熟年相談室、
 認知症地域支援推進員
- 参加人数 188名

実施の目的

若年性認知症の啓発活動の一環として実施。若年性認知症への社会資源が少ない中、江戸川区では唯一の若年性認知症専門デイサービスを開いている。江戸川区役所の一部を使用して情報発信し、区職員をはじめより広く来館者への周知につなげる。



当日の様子

あしたば利用者が会場での作品販売と無料で配布した缶バッジ、キーホルダー作りに関わり、来館者から作品の評価や応援の声をダイレクトに聞くことができ、本人たちのモチベーションもアップした様子である。臨床美術「あしたばアート」にも関心が多く寄せられ、展示作品に興味を持った来場者も多くいた。家族会からは利用者の家族自らが相談窓口に着席し、チラシを配るなど職員とともに啓発活動を実施した。その他、活動実績などを記載した掲示物についても多くの方の目にふれる機会となっていた。

地域の課題

開催場所として江戸川区役所という立地の良さもあったが、区役所に出向く方々はそれぞれの目的があるため、今回の展示のために当日会場へお越しいただいた方は多くはなかった。若年性認知症についての相談に直結することはほとんどなかったが、まだ必要な支援につながっていない方々に対しても引き続き発信続けることでつながっていく可能性があると考えている。今後もより当事者、家族同士の関わりの中で相談ができる機会を大切にしつつ、引き続き実施をしていきたい。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑

なぎさ和楽苑介護の日

「地域でともに支えあう福祉のまちづくりを目指して」

■開催日程 11/11 10:00~15:30

■参加人数 316名

実施の目的

11月11日を「介護の日」として介護への理解と認識を深め広く国民への啓発を重点的に行う日となっている。当苑においても日頃介護や福祉に関わりの少ない方々に関心を持ってもらう機会となるようイベントを実施する。本年度10周年となる。



当日の様子

副題に「みんなでつなぐ めくもりのバトン」として「地域共生社会」をテーマとした。ユニバーサルスポーツに関する講演、高齢者の昔話を聞く語り部の企画等、世代・障がいの有無の枠を超えてともに時間を過ごすことができた。「10周年記念」のロゴを用い、雰囲気も高めイベントの歩みも振り返られるような掲示も行った。学生ボランティアの参加も多く、ボランティア活動とともに高齢者に触れながら介護への関心も高めることができた。来場した子どもたちには着ぐるみのキャラクターやスタンプラリーで楽しみながら、福祉に触れる機会となっていた。

地域の課題

10回目を迎えても、今回が初めての参加であったり、初めて知ったという参加者もあり、継続して発信していくことの必要性を改めて感じている。高齢者だけでなく世代を超えて同じイベントに参加することで、互いを理解し関心を持ってもらう良い機会となっている。地域の方々が気軽に足を運べる施設として今後もイベントの発信をしていきたい。また、福祉や介護を次世代へつなぐ活動として来年の介護の日のイベントのみならず、今後の地域活動にもつなげていきたい。

社会福祉法人あそか会 特別養護老人ホームあそか園

第7回 あそか園地域交流まつり

■開催日程 9/30 11:00~15:30

■参加団体 日清医療食品（株）、ヤマシタコーポレーション、深川第四中学校、深川第七中学校、ボランティア（両国高等学校）

■参加人数 100名

実施の目的

社会福祉法人に対する社会貢献活動の一環として、あそか園を地域交流の場として開放する。地域の一員として、様々なイベントを開催し、施設を身近に感じてもらう。



当日の様子

台風の上陸が予想されたため、特設ステージは中止とし、施設内で開催した。悪天候が懸念されたが、午前中から近隣の住民や保育園児が来所し、福祉体験やゲームコーナーを楽しまれていた。午後には毎年恒例のバザーを開催し、多くの方の来場があった。また、昨年同様に近隣の中学生が作成した俳句（色紙）や習字などを展示するスペースを設けることで、地域の学生の生きがい活動の促進に貢献できたという手ごたえを得た。

地域の課題

社会福祉法人として、専門性を地域へ還元し、施設と地域住民の方が暮らしやすい街づくりに尽力していく必要がある。また、福祉の担い手の後進育成の観点から、今後も小・中学生が少しでも福祉に興味を持っていただけるように近隣の学校や児童会館などのへのアプローチを継続していきたい。

今後の活動においては、地域交流まつりに加え、定期的に自施設を地域住民に開放し、将来的にはサロンとして使用するなど、あそか園が地域福祉の核となることを目指していきたい。

社会福祉法人中野区福祉サービス事業団
特別養護老人ホームしらさぎホーム
いきいきしらさぎフェスタ2018

- 開催日程 ①10/27 13:30~14:30
②11/3 10:30~15:00
- 参加団体 (株) すりいでい (福祉用具販売店)、(株) 明治ナイスデイ (明治グループ)、宅配COOK123 (宅配弁当)、東京都消費生活総合センター (出前寄席)
- 参加人数 40名

実施の目的

11月10日の「介護の日」にちなみ、地域の方を対象に介護をより身近なものに感じてもらおう機会とするとともに、交流を通してしらさぎホームの事業を広く周知する。

当日の様子

第一部開催の音楽会 (97歳のヴァイオリン弾き) においては、地域貢献活動に取組まれている方を招き、その活躍している姿に参加者一同感銘を受けた様子だった。第二部開催では出前寄席 (消費者問題がテーマ)、健康測定会、宅配弁当試食、介護職のサンプル展示、福祉用具展示・販売、介護相談窓口を実施した。地域の参加者との交流を通して楽しむ機会を作れた。また、健康測定会や福祉用具展示・販売、介護相談窓口では、直面する介護についての不安や悩みを聞くことができ、地域との繋がることの重要性を改めて実感した。

地域の課題

来訪した地域の方と施設や参加団体のスタッフとの交流を通して、介護サービスの話や介護相談を行うことができ、とても良かったとの意見をいただいた。また、出前寄席や音楽会といったイベント内容を楽しむ以外にも消費者問題への意識向上、地域活動の有効性を感じられる良い機会になっていた。今後も在宅生活支援の拠点として、地域の一員として積極的に関わりを持ちながら、地域の方々と交流し、関係機関との連携や情報共有できる機会をつくり、より地域貢献に取り組んでいきたい。

中野区

その他

地域交流

社会福祉法人フロンティア グループホームおさたけ みんなのランチ

■開催日程 毎週火・木曜 12:30~14:00

■参加人数 不明

実施の目的

「食を楽しむ」をコンセプトに、様々な要因を抱え、食べる気力を失ってきている方に、少しでも「食べる楽しさ」を提供していく。人が生きていく上で「食」の大切さを伝えながら、地域の社会資源の一環になることも目指していく。



当日の様子

参加者は、グループホームで生活する利用者と軽く体操をして、目の前で調理したでき立ての食事を提供した。食後のお茶とともに、他者との会話を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごしている様子だった。おさたけでの食事は、「熱い物は熱く」「堅い物は堅く」一般家庭の「普通の食事」にこだわったもので、ボリュームもあり、参加者も喜んでいた。また、利用者は参加者をお客様として対応し、施設外の方との関わりの中で社会性を保つ機会となった。

地域の課題

地域の方の協力のもと、「みんなのランチ」をひろめているが、まだまだ取組みが認知されていないと感じる。また1度参加されても、継続して参加される方が少ない。理由として、希望者がいても施設まで自力で足を運ぶことができない人がいる現状がある。この活動には職員の人手も必要であるため、今後できる範囲で継続していきたい。

社会福祉法人真松之会 特別養護老人ホーム和田堀ホーム 動物とふれあえる♪わくわく納涼祭！！

■開催日程 8/4 12:00~14:00

■参加団体 和田堀ホーム指定居宅介護支援事業所、デイサービスセンター和田堀ホーム、短期入所生活介護

■参加人数 17名

実施の目的

- ・地域の方に和田堀ホームを知ってもらい、利用者と地域の方の交流をはかる。
- ・納涼祭自体ではなく動物園にきてもらう。



当日の様子

職員の人員不足のため、時間を区切り地域の方の参加は外の動物園だけとしていたが、通りすがりの方も興味を示してくださり、当初の時間以外でも動物と触れ合っていた。そのため、利用者と地域の方が同じ時間をともに過ごすことができ、交流につながった。



地域の課題

普段施設の前を通っている方々であるが、和田堀ホームに行くことはハードルが高い様子で開かれた施設づくりが必要である。

今後の活動としては、動物園は好評だったので、次年度は地域の方も納涼祭自体に参加できるよう対応を考えていきたい。

社会福祉法人浴風会 南陽園、第二南陽園、第三南陽園

さかきの木作品展

■開催日程 10/20 10:00~16:30

■参加人数 244名

実施の目的

機能訓練で製作した作品の展示や手作り体験などを通じ、利用者の日常生活に意欲を持っていただくとともに、地域も含めた多くの方との交流を行う。



当日の様子

作品を製作した利用者は、「披露されるのは少し恥ずかしかったが、たくさんの方が関心をもって接してくれた」と満足気に話していた。また、趣味としてもものづくりの機会が少なかった利用者や地域の方などに興味を持っていただくため、作業の工程を説明したり、手作り体験などを設けた。バッグの手作り体験には、利用者の他にも地域の小学生や保育園児が多く参加し、完成したバッグを職員や家族に嬉しそうに披露していた。作品が他者とのコミュニケーションを深めるだけでなく、感情を動かすきっかけにもなることを実感した。

地域の課題

来場者は延べ244名。そのうち7割は地域の住民方であり、初めて来たという方も多かった。地域の方からは、「幅広い年代が楽しめることをもっと行ってほしい」などの意見を多く伺った。高井戸地区は独居の高齢者が多いとされており、外出する機会をどのようにつくっていくかが課題となっている。地域全体で支援を行っていく上で、作品展のような事業を定期的に開催し、地域交流の場として活用していくことも重要な役割であると考えていた。

社会福祉法人浴風会 浴風会つながるフェスタ

■開催日程 10/20 10:00~16:00

■参加団体 協賛：AIEN合同会社、(株)魚耕ホールディングス、エームサービス(株)、(有)エルバ、(株)大塚商会、(株)オオノプラザ薬局、(株)クリニック、(株)グリーンハウス、(医)恵安会 日大通り歯科、ケンコーマヨネーズ(株)、(株)光洋-ディスパース、(有)サガミ・ミート、三陽自動車(株)、(有)新日本総合インテリア、(有)新和印刷、(株)杉田フューネス、第一生命保険(株)、太陽化学(株)、ダスキンまるたま、東京パック(株)、(福)東京リハビリ協会、東洋羽毛首都圏販売(株)、(株)トーカイ、(有)内藤電気商会、日本エンゼル(株)、白十字(株)、箱根植木(株)、(株)ピアノ、(医)プラスアルファ、HONGKONG DINING 彩、ミサワホーム(株)、三井住友信託銀行経営企画部サステナビリティ推進室、(株)明治、(株)ユリクリエイト、(株)ランダルコーポレーション、(株)レイトロン、(一財)労働衛生協会 (50音順)

協力：(福)いたるセンター パン工房PukuPuku・阿佐谷福祉工房、井の頭管弦楽団有志、都立永福学園、(福)かたつむり会ワークショップ・かたつむり、工房ラルゴ(とうふ屋らるご)、(福)JHC板橋会 JHC赤塚・JHC志村、下北沢一番街やっこ連、杉並区スポーツ推進委員チーム井の頭線、杉並区成年後見センター、杉並区立富士見丘中学校吹奏楽部、TAKANIチアダンス、(福)同愛会 あすなる作業所、東京沖縄県人会エイサー隊、NPO法人 障害者就労支援センター どんまい福祉工房、認知症介護家族会よくふう語ろう会、(学)古屋学園(二葉ファッショアカデミー・二葉栄養専門学校・二葉製菓学校) (50音順)

■参加人数 550名

実施の目的

法人理念でもある「地域との協働と社会貢献」を踏まえ、誰もが安心して暮らせるまちを目指し、医療や介護に関する情報を地域住民に発信し、地域包括ケアに向けて地域との架け橋になることを目的にイベントを開催する。

当日の様子

当日は天候にも恵まれ、最新の情報が学べる講座や企業展示のテントでは、熱心に説明を聞く来場者の方々が印象的であった。模擬店やバザー、地域住民によるフリーマーケットにも大勢の方が立ち寄っていた。ステージイベントでは、小・中学生などのボランティアや専門学校の学生に出演いただいた。特別養護老人ホームでは、利用者の作品を展示した。他にも、じゃんけん大会、子ども向けの食育講座、健康測定、見学会など、地域の方々とともに、子どもから大人まで楽しめる手作りのアットホームなイベントとなった。

地域の課題

協賛・協力企業の方々からも、「社会貢献事業として、とても有意義だった」とご意見があったことから、地域の方々へ向けた、顔の見える関係作りに結びついているのではないかと感じている。年々、地域の方にも浸透してきており、楽しみに待っている方も増えてきている。

これからも、浴風会が地域の拠点となり、交流の場となるよう、そして、誰もが安心して暮らしていけるために、法人の力を集結して地域貢献に邁進していきたい。

杉並区

デイサービス

介護予防・高齢者支援

社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター ももの木トレーニング

■開催日程 毎週水曜・土曜 13：30～16：30

■参加人数 500名

実施の目的

筋トレマシンを利用した地域在宅高齢者の転倒予防と、集いの場提供による外出の促進。

当日の様子

当施設の機能訓練室を解放し、利用者間での交流を楽しみながら6台のマシンを使って自由にトレーニングができる場を開いている。多い日には30名程度来園し、それぞれ自身のペースでトレーニングを楽しんでいる。また、終了後には施設のロビーでお茶を飲みながら、他の活動などの情報交換、近況報告など、集いの場としても活用している。初めての方には職員がマシンの使用方法などをご説明しているが、2回目以降は利用者間で助け合う場面が多く見られ、自助互助の環境が自然と作られている。

地域の課題

当施設近隣にはひとり暮らしの高齢者が多く生活されている。運動を好む方・苦手な方、外出が多い方・少ない方と様々であり、当法人の活動を知らない方や、知っているも運動を行う活動であると聞くとおっくうになるという話を聞く。介護予防の場としてだけでなく、友達に会いに行くついでに運動をやってみようかな、と感じられるような雰囲気作りを目指していきたい。また一人で通うことが困難だが本人の楽しみとして続けたいというケースもあり、家族や友人の協力体制づくりも課題のひとつとして挙げられる。

社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム

虹のカフェ大泉

～子供からお年寄りまで、楽しく心地よい居場所～

- 開催日程 毎週水曜 14:00～16:00
- 参加団体 虹のカフェ大泉（ボランティア団体）
- 参加人数 1335名

実施の目的

子どもから高齢者まで多世代が、情報交換や認知症予防、手工芸、コンサートなどを通じて交流し、気軽に立ち寄れる場として、地域の連携を図る。

当日の様子

乳幼児、幼児、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加している。高齢者は子どもの顔やしぐさを見て笑顔で接している。子どもは高齢者と一緒に手工芸やカルタ取りなど一緒に楽しみ、和気あいあいとしている。子どもの母親たちも顔見知りとなり、情報交換を行っている。時には、ピアノコンサートや紙芝居などイベントも行っている。

看護師や助産婦、学校の先生、介護支援専門員といったボランティアの方々には、母親相談にも対応していただいている。

平成30年4月には、練馬区「まちかどカフェ」の提携カフェとして登録された。

地域の課題

□コミで広がり、多くの方に来ていただいて顔見知りの関係となった。今後、各世代に必要な情報をどのように発信していくかを課題としたい。

練馬区

特養

地域交流

陽だまり会（協力：社会福祉法人泉陽会 光陽苑）

喫茶 陽だまり

- 開催日程 毎週土曜 13：30～16：00
- 参加団体 特別養護老人ホーム光陽苑入居者・家族、第三光陽苑いずみ、地域のグループホーム、その他
- 参加人数 50名

実施の目的

地域の方が気軽に立ち寄れ、特別養護老人ホーム入居者とふれあい、楽しいひと時を過ごすことを目的とする。

当日の様子

毎週土曜日の午後のひとときを入居者の皆さんは楽しみにされている様子。コーヒー、紅茶、お菓子、饅頭、ビールにおつまみなど、それぞれの好みにあわせたメニューをたのみ、近隣の方も加わって、ワイワイにぎやかに過ごしていた。



地域の課題

練馬区が協賛している街かどケアカフェとしても実施している。地域の方がより集まりやすいようなメニューや様々な企画など実施していく予定である。

社会福祉法人芳洋会 大泉西小学校応援団(協力：サンライズ大泉)

大泉西小学校応援団まつり

■開催日程 10/20 10:00~13:30

■参加団体 ひばり野球部、ハリケーンサッカー部、大泉西小PTAバレー部、大泉西小ワイーンズ、八丈太鼓、父親ソフトバックス、スワンベーカーリー、サンメイト(卓球)、剣友会(剣道)、Candy新体操、練馬区緑化協力員、おむすび座(人形劇)、大泉西小テニス、サンライズ大泉

■参加人数 183名

実施の目的

「笑顔でつながろう大西小」をテーマに、学校応援団事業および青少年事業をより多くの子どもたちや地域の方々知ってもらうための交流の場をつくる。本事業に関わる方々すべての協力のもと行っていく。



当日の様子

サンライズ大泉で教室を1つお借りして「介護体験ブース」を開催し、小学生を中心に車いす体験(自走・リクライニング型・電動など)、高齢者体験、介護ロボット体験などを実施した。

参加者は、183名(複数回体験している子もおり、実際にはもっと多い)で、「次は違う種類の車いすに乗ってみたい。」と何度も繰り返し体験する小学生や「まさかわが子に車いすを押してもらうなんて。将来に向け良い体験になりました。」と親御さんからの感想が聞かれ、介護に触れる貴重な機会となった。

地域の課題

施設のイベントというと、どうしても閉鎖的で地域の方には参加しにくいイメージがある。また、職員も地域との繋がりも希薄になってしまいがちである。

そうした中で、今回で4回目となる応援団まつりをはじめとした大泉西小学校生徒との交流(出張授業・見学会・交流会)、介護予防講座「サンライズcafé」(練馬区出張型街かどケアカフェ事業)の開催や地域のお祭りへの参加を引き続き積極的に行っていくことで、地域に開かれた施設、地域に必要なとされる施設を目指していきたい。

社会福祉法人泉陽会 第二光陽苑

「秋の音楽祭」

- 開催日程 10/21 13:30~16:00
- 参加団体 関中学校ウインドアンサンブル部、関北ハーモニー（小学校ママさんコーラス）、MUMA（音楽大学学生さんによるユニット）、やすらぎの杜
- 参加人数 200名

実施の目的

音楽祭を開催し、秋の爽やかな午後の時間を地域住民とともに楽しむ。この機会を通じて、社会福祉法人への理解と交流を深める。



当日の様子

コーラス・バイオリン・ピアノ・ギター四重奏、吹奏楽の演奏会を実施。ドリンクやお菓子を販売し、飲食しながらくつろいで演奏を楽しめる喫茶コーナーも設けた。また、季節感を出すために会場では、ハロウィンをモチーフとした華やかな装飾を行い、職員も扮装し楽しい雰囲気づくりに努めていた。

初の試みであったが、地域の方や入居者が多く参加し、盛況な様子であった。

地域の課題

業務負担が大きくなるような形で今回、音楽祭を企画実施し成功することができた。このような催しで地域貢献を図るほか、近隣の学校や幼稚園との交流、緑地清掃などを通じて引き続き「ちいきの輪」をひろげていく。

社会福祉法人キングス・ガーデン東京
特別養護老人ホーム練馬キングス・ガーデン
やきいもホクホクDAY2018

■開催日程 11/24 14:00~15:30

■参加団体 東京都立練馬工業高等学校、NPOホサナ（ホサナショップ、シンプルライフ）

■参加人数 400名

実施の目的

地域住民の方々との楽しいイベントを通して、子どもからお年寄りまで多世代による親睦を深め、出会いの場、楽しむ場をつくる。あわせて、地域交流、地域貢献、次世代育成、福祉教育、地域づくりの機会とする。



当日の様子

寒空の中、焼き芋には開始前から100名を超える長蛇の列ができ、中庭では果物を採る方、ブランコ、ハンモックで遊ぶ子どもたち、コーヒーを飲みベンチで親睦を深める方たちであふれていた。また、施設の中では折り紙やお絵かきをお年寄りにプレゼントしてお菓子をゲットするゲームに盛り上がる子どもたちと笑顔になるお年寄りと世代を超えた楽しい交流の場がつくられていた。特に工業高校の生徒がこのイベントを大いに盛り上げてくれた。手作りの焼き芋の焼き機は昭和の屋台風であり、作りからしてユーモアに満ち、電動機関車は子どもたちに大好評であった。

地域の課題

延べ400名を超える来場があった、また、その多くが小学生や、未就学児の子どもがいる若い家族、お年寄りと幅広い世代であったことから、多世代が集える場を求めている地域だと改めて認識した。子どもとお年寄りが触れ合うゲームを企画したが、期待以上の盛り上がりがあり、「世代間の交流は貴重である」といった感想も多く聞くことができた。工業高校の生徒たちの活躍、大学生のボランティアの活躍が目立ち、若い世代が積極的にイベントを盛り上げる姿もあったため、若い世代の活躍の場の提供といった意義も大きいイベントにもしていきたい。

社会福祉法人東京蒼生会 大森老人ホーム 高齢者体験

- 開催日程 ①6/25
②11/4
- 参加団体 大田区地域包括支援センター平和島
- 参加人数 不明

実施の目的

近隣の小中学校および高等学校にて、職員による高齢者体験授業を行い、近隣の福祉施設、高齢社会について理解を含めてもらう。また、近隣の地域包括支援センターと連携し、小学生向けに認知症サポート講座の企画提案・当日までの調整を行う。

当日の様子

6月に行ったホーム職員による高齢者授業は、高齢社会について日本と外国を比較し説明を行いました。高齢者体験では白内障ゴーグルをつけながら、教科書を読む、財布からお金を出すなどの体験を行い、車いすの基本操作を学んでもらいました。小学生からは「高齢社会を変えていきたい」「高齢者の気持ちが変わった。声かけを工夫していきたい」「自分もいつか高齢者になることに気づいた」などの感想がありました。

11月に行った、地域包括支援センターによる「認知症サポート講座」では、物忘れに対する声かけのしかたを学んでもらいました。

地域の課題

これからも、近隣の小中学校および高等学校にて、高齢者体験等を行っていきたい。加えて、昨年より地域包括支援センターと連携し、小学生に福祉の学びの場を提供できるようになった。これからも企画などを一緒に行い、各学校で展開していきたい。

社会福祉法人響会 ひびき ほっとサロン

- 開催日程 ①9/16 10:30~12:30
②11/18 10:30~12:30
- 参加人数 75名

実施の目的

地域住民に対して、高齢者福祉などについての啓発活動を行いながら、当法人を知っていただくきっかけづくりを目的とする。ひとり暮らし、または高齢者のみの世帯の方の交流・懇談の場を提供し、地域で孤立した高齢者を把握や必要な支援を行う。



当日の様子

9月16日は「特養の施設見学」、11月18日は「血圧の話」をテーマに講座を実施。参加者は熱心にメモを取り、質問も多くあがった。毎回行う体操は皆、楽しく参加し、体に痛みがある方は無理がないように力を調整しながら参加していた。「ここは食事がとてもおいしい。」と何人もの方から声を聞き、食事が一番の楽しみであると感じた。また、このサロンで知り合い同士になった方もおり、色々な方と話す機会にもなっている。帰りの際、多くの方が「楽しかった」と声をかけていただき、好評であったと実感した。

地域の課題

講座のなかで、特養について「入居金がかかるの?」という質問が聞かれ、介護保険に関わる情報を正しく知らない高齢者がいることが分かった。体操の時間は積極的に参加されており、元気な方から体力的に心配な方まで幅広く対応できる内容で行う必要があると考えた。毎回新規参加者があるので、交流の場としてこの事業を継続し、地域で孤立しがちな高齢者が、介護予防・福祉施策などの知識を得ることで、安心して地域で暮らせるように支援していきたい。

大田区

デイサービス

アウトリーチ

社会福祉法人善光会 老人デイサービスセンターフローズ東糀谷

過疎地でのボランティア活動

■開催日程 7/11、8/28、9/11 13:00~16:00

②9/26 13:00~16:00

■参加団体 茂木町役場、神流町役場保健福祉課、茂木町社会福祉協議会、社会福祉法人善光会、茂木町民生委員、茂木町地域ボランティア

■参加人数 77名

実施の目的

高齢化がすすんでいる地域は、財政の逼迫により十分な行政のサービスが受けられていない状況がある。そうした社会問題に目を向け地方および国家財政の負担軽減に社会で取り組むべくボランティアの普及活動を行っている。



当日の様子

茂木町での活動においては、今年度より地元住民本人や地域の民生委員の方に加え、親戚や友人がボランティアとして活動に参加している。家中のゴミの片付けや分別、家の周囲の草刈りを行った。最初は、様子を伺っていただけの地元住民の方が活動に参加されたり、部屋に引き篋もっていた方が職員との雑談に応じたりする姿が見られた。

神流町では毎年活動を受入れてくださるリピーターの方も多く、掃除や片付けをしながら、若い年代の職員とのおしゃべりを楽しみにしている様子が伺えた。「また来年もお願いしようかな」との声もいただけた。

地域の課題

活動の中で、「毎日、話し相手もいなくて寂しいんだよね。」というお話を聞くことがある。また、生活スペースの清掃や整理整頓なども、体が不自由であったり気力がなくなったりすることで手つかずの状態に陥るケースも多くあると聞く。地域や行政でできる対応にも、様々な制約があり、サービスが行き届かない状況が続いている。法人全体としてボランティア活動を継続することはもちろん、地域での高齢世帯への取り組みを活性化するとともに、当法人の思いに賛同し、ボランティア活動を共に行っていただく個人、団体を増やしていきたい。

社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム中目黒 夏祭り

- 開催日程 9/1 10:30~15:00
- 参加団体 中目黒5丁目町会（共催）、かみよん工房、東が丘福祉工房、油面児童館、花柳周泉社中
- 参加人数 180名

実施の目的

利用者が祭りに参加して季節感や賑わいを感じ、楽しい時間を過ごす場とする。多くの方に施設に来ていただき、地域と利用者や施設との交流の機会とする。

当日の様子

地域住民の方も多く来所される盛大な祭りで、模擬店では中目黒五丁目町会の方が焼きそばや焼き鳥を、職員がチョコバナナ、かき氷などを出店した。利用者は好きなものを買って、美味しそうに食べていた。ボランティアが担当するゲームコーナーでは地域の子どもたちと利用者が一緒にボーリングや的入れを楽しんでいた。午後は、油面児童館の子どもがフラダンスと和太鼓を披露した。一生懸命な姿に、たくさんの拍手や応援の声があがった。最後は恒例の盆踊り。利用者、ボランティア、職員で大きな輪を作り踊った。笑い声と笑顔あふれる一日となった。

地域の課題

夏祭りでは関係機関に協力をいただき、世代を超えた多くの方が訪れた。また、施設では地域の方の居場所となる活動も行っているため、ひとり暮らしや高齢世帯の方にとって、身近な施設として足を運んでもらえるように、各種イベントの内容や開催方法を検討し、関係機関と連携して、広くPRを行っていきたい。

目黒区

複数施設共催

相談・家族支援

社会福祉法人目黒区社会福祉事業団
特別養護老人ホーム東が丘・中目黒・東山

3つの高齢者施設見学会

- 開催日程 11/20 13:30~16:30
- 参加団体 特別養護老人ホーム東が丘、東山、中目黒
- 参加人数 23名

実施の目的

実際に施設を見学し、特別養護老人ホームとはどういう所なのか理解を深めていただくとともに、申し込み方法などの情報を提供する場として毎年「介護の日（11月11日）」に合わせて実施している。



当日の様子

参加定員を15名として募集したが、数日で定員に達し、最終的には送迎車両を増便して参加者は23名となった。

特養東が丘にて全体的な説明、見学をした後、車で特養中目黒、特養東山へと移動して3施設の見学を行った。

ご自分が将来、入所するかもしれない特養を、元気なうちに見ておきたいという思いから参加された方が多く、当日は「利用料金」や「申し込み方法」などの具体的な質問が多くあった。参加された方はご高齢の方も多く、少しお疲れの方もいたが、満足していただけた見学会となった。

地域の課題

介護サービスを受けず、周りに関わりを持たない方が地域にはたくさん埋もれている状況がある。そのため、地域の高齢者の方の「寄り合い処」として「地域交流スペース」を特養の中に新たにつくっているところである。

現在はそのスペースを活用して、「会食サービス（昼食の提供）」とその前後の時間を「地域交流サロン」として週1回開放することを開始した。また、そのスペースを地域の活動クラブに貸し出すことも始めている。

今後は、利用者へのサービス提供をしながら、地域の方にも活用していただける、地域の中の特養を目指していきたい。

社会福祉法人敬心福祉会 特別養護老人ホーム千歳敬心苑 介護技術に触れてみよう！

■開催日程 9/9 13:30~15:30

■参加人数 25名

実施の目的

地域の福祉啓発と、特養で長く経験を積んだ介護職員による介護技術の還元。また地域住民の交流の場とする。

当日の様子

当日は、地域の方、他事業所の介護職員、ケアマネジャーなど25名の方が参加してください、大変盛り上がった。当施設の介護副主任による介護技術講座は「とても分かりやすかった」「技術も大事だが、まず相手を思いやる気持ちが大切なことが分かった」などの感想をいただいた。カフェスタイルで行ったので、コーヒーを飲みながら楽しい空間で実施することができた。

地域の課題

今回参加してくださった方達は、一般の方も含めて介護や福祉に関する意識の高い方たちだった。地域に福祉啓発していくためには、もともと意識の高い方ではなく、興味・関心の薄い方たちに参加していただくことが望ましく、そういった方たちを巻き込んでいくためには、どのようにアナウンスしていけば良いか、課題がある。

社会福祉法人大三島育徳会 第二回 だんだんまつり

- 開催日程 10/28 10:30~15:00
- 参加団体 法人内9拠点15事業所、コンサート会場演者2団体、近隣小学校・中学校、イベントブースボランティア2団体、おまつり模擬店模擬店ボランティア7団体、福祉学校生徒法人後援会、他
- 参加人数 500名

実施の目的

「だんだん」とは、法人名に由来する大三島地方の方言で「ありがとう」を意味する。法人祭りを開催し、法人を支えてくださった利用者、利用者家族、地域の方々、関係者各位に「ありがとう」の思いを伝える。

当日の様子

当日は、秋晴れの中、開催した。今回も、法人各事業所が日頃協力いただいている地域のボランティアとともに、模擬店を担当し、会場を盛り上げた。

和太鼓チームによる太鼓と篠笛、ピアノのコンサート、幼稚園から高校生まで活動するチアリーディングチームのショー、職員によるショーなど、子どもから高齢者まで多くの方が楽しまれた。

今年は、近隣町会回覧板や保育園、小学校の他、コンビニやドラッグストアにもポスターを掲示した成果か、子ども連れの来場者が多く、昨年より200名増え、約500名の来場があった。

地域の課題

今回から地域の団体からの協賛を募り、2個人、5団体より協賛をいただいた。

近隣のコンビニやドラッグストアなどにもポスターを掲示し、昨年以上に広報活動を強化した結果、多くの来場があった。来年も更に工夫していきたい。

また、法人が行っている取組みを可視化して掲示するなど、「福祉施設とはどういうところなのか、どういう活動を行っているのか」が分かるような工夫も今後取り入れていきたい。

社会福祉法人大三島育徳会 デイサービス博水の郷 地域の高齢者・障がい者向けの多摩川での芋煮会

- 開催日程 11/4 10:00~14:00
- 参加団体 多摩川癒しの会、特別養護老人ホーム博水の郷、世田谷区立玉川福祉作業所、訪問介護事業所二子のわたし
- 参加人数 40名

実施の目的

高齢になったり、障がいを持つことで安心して地域に出られない方に、なじみのある多摩川の雰
囲気を感じていただく機会とする。



当日の様子

二種類の芋煮（醤油味、味噌味）を作り、皆でいただいた。理学療法士による体操を
実施し、多摩川でたくさん体を動かすことができた。特に、知的障がい者の方とキャッ
チボールを行い、充実した様子だった。

地域の課題

11月は少し風があり寒いことも多く、開催時期を見直してもよいと感じた。地域向
けのイベントであるが参加団体が少ないので、周知活動をもっと増やしていきたい。近
隣で他の「芋煮会」も開催しているので合同開催しても良いかもしれないとの意見も
あった。

世田谷区

特養

地域交流

社会福祉法人友愛十次会 砧ホーム ふれあい祭り

- 開催日程 10/7 10:00~15:00
- 参加団体 友愛十字会後援会、砧町町会、TMC通り商店街、ボーイスカウトボランティア、ガールスカウト東京都連盟第61団
- 参加人数 1200名

実施の目的

地域の方々との交流を深めるために、毎年「友愛ふれあい祭り」を開催している。今年度も、利用者の方々の作品の展示や、山野小学校の生徒やボランティアの方々に合唱や演奏等の披露のほか、町会の方々・利用者・職員による模擬店など、楽しいひとときを地域の皆様と力を合わせて創っていく。



当日の様子

天気にも恵まれ、地域団体のコンサートや町会、関係機関から協力いただいた模擬店は大盛況だった。また、近隣の三峰神社の例大祭も開催しており、和響太鼓の皆様の勇壮な太鼓とともにお神輿を迎えることができた。

地域の課題

福祉関係機関や、保育園、小学校をはじめ、交流のある業者の方の来園も多く、昨年度よりもいっそう賑やかに開催することができた。今後も、より「法人の特色」をアピールし、地域に根差した行事を開催したい。

社会福祉法人一誠会 社会福祉法人多摩養育園
 社会福祉法人清心福祉会
八王子介護フェア

■開催日程 10/6 10:00~14:30

■参加団体 偕楽園ホーム、多摩特養老人ホーム、ファミリーマイホーム、高齢者あんしん相談センター左入、ファミリーイン堀之内、高月病院、三愛病院、相武病院、登芙喜心成苑、大塚製薬株式会社、株式会社トーカイ、酒井薬品株式会社、パラマウントベッド株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、サポートセンターなないろ、西都ヤクルト販売株式会社、フローガーデンSORA、Poco a Poco

■参加人数 275名

実施の目的

介護の日にちなみ、地域の方々に介護を身近に感じていくことを目的として開催をした。

当日の様子

実施プログラム：宮下囃子によるお囃子の披露、開会式、記念講演、高齢者体験コーナー、模擬店、わらべ唄（八王子センター元気）「からだスッ

キリ☆みんなニッコリ！ 八王子けんこう体操」、八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会啓蒙活動セミナー、出前コント「うしろの林太郎！」（高齢者を狙う悪徳商法撃退術）、介護職員等による介護の魅力発信をするためのパネルディスカッション、東京ケアリーダーズ、たき坊&ザ・レインボーズのパフォーマンス（歌と踊り）、東京都立八王子北高校吹奏楽部による演奏



地域の課題

介護に関する関心や不安など、地域の参加者との会話から聞き取ることができた。身内で介護が必要となったときに困らないように、予防から要介護状態において、地域のなかにある社会福祉法人をはじめとした福祉施設をどう活用したらよいか、幅広く理解につながるようにPRしていく必要がある。

介護フェアの開催により、社会福祉法人による取組みを知っていただき、今後の介護を支えるのは、社会福祉法人であろうということを地域の方々へ伝える機会となった。今後も、より多くの方へ取組みを認知していただくためにも継続した開催が必要である。

八王子市

養護

その他

社会福祉法人多摩養育園 養護老人ホーム櫛の里 除夜の鐘

■開催日程 12/31 23:00～1:00

■参加人数 80名

実施の目的

年の変わり目であり日本古来からの伝統行事である除夜の鐘を、櫛の里入居者、地域の方とともにつくことで、施設への理解と交流を図る。

当日の様子

多くの入居者と地域の子どもから大人まで、多くの来場者を迎え、それぞれが思い込み、ゆく年への感謝をし、くる年への期待を込めて鐘をついている様子だった。

お汁粉やポップコーン、ミカンなどを用意し、ひとつのテーブルで紅白歌合戦を見ながら、和やかな時間を過ごした。

昨年は、普段から交流のある保育園の園児や卒業生などは、入居者と同じテーブルにつき、談笑している姿が見られた。

地域の課題

地域の方が集える場所としての施設の役割を果たすために、普段から学校帰りに立ち寄る子どもたちと入居者との交流を更に発展させていきたい。

社会福祉法人清明会 もみじ祭り

- 開催日程 11/9 11:00~15:00
- 参加団体 社会福祉法人 清明会 清明園、浅川ホーム
- 参加人数 56名

実施の目的

利用者家族、地域の方々との交流を深め、施設を身近に感じていただく。

当日の様子

当日は雨が降り、少し肌寒い日であったが、利用者家族や地域の方がたくさん来園があった。模擬店、茶会、午後からはクラブ発表、ボランティアによるピアノ・フルートの演奏が行われた。模擬店では、今回初めて咀嚼が難しい方も食べられる「おかゆ大福」を販売し、参加者から「おいしい」と好評だった。職員だけでなく、ボランティアの方々にも協力いただいたこともあり、地域の方、利用者、利用者家族から「楽しかった」との声が多く聞かれ、大盛況であった。



地域の課題

今回の行事の他にも様々なイベントを開催しており、その都度地域の方にも施設へ足を運んでいただいている。当施設利用者も、地域で行っているイベントへの招待があり、参加している。今後はイベントだけでなく、日常的に地域の方々が気軽に入力りできるような取り組みや、施設の雰囲気作りを行っていきたい。また、地域で行われる行事などにも積極的に参加し、より交流を深めていきたい。

社会福祉法人アゼリヤ会 アゼリヤ会地域交流（大根堀り）

- 開催日程 11/11 13:00～15:00
- 参加団体 救護施設優仁ホーム、養護老人ホーム美山苑、特別養護老人ホームみやま大樹の苑、通所介護施設美山デイホーム
- 参加人数 106名

実施の目的

救護施設の入居者が育てた大根の収穫や、豚汁の無料サービス、牛乳パックを利用した箸おきやブーメラン作成、喫茶、グラウンドパターゴルフ、救護施設入居者手作り作品の販売・作成を通じて、地域交流を企画した。

当日の様子

この交流会も4年目を迎え、地域の方々にも少しずつ浸透している印象であった。当日は天気にも恵まれ、大根堀り体験では参加者がどの大根にしようか迷いながら、収穫していた。200食用意し、無料で提供した豚汁も全てなくなり、「美味しいね」と好評だった。グラウンドパターゴルフは子どもから年配の方まで気軽に楽しんでいる様子だった。喫茶コーナーでは、養護老人ホームの入居者が作成したホット梅ジュースを提供。取組みを通じて入居者のやりがいにもつながったようだ。

子どもたちは、牛乳パックで作った個性豊かなブーメランを秋の空めがけて投げている、元気な声が響いた。

地域の課題

移動手段がない独居高齢者などへの参加支援の工夫が課題である。

このイベントを通じ、法人と地域のつながり以外にも、「久しぶりね。元気にしてた？」など地域住民同士が交流する場面を目にすることができた。今後も地域の方の声を聞き、集まれる場を提供していきたい。

社会福祉法人マザアス日野 マザアス多摩川苑 配食サービス

- 開催日程 年中無休（1/1のみ休み）
- 参加団体 日野市社会福祉協議会
- 参加人数 5088名

実施の目的

安否確認が必要で食事作りにお困りの高齢者に栄養バランスの整ったお弁当（昼食）を届ける。

当日の様子

マザアスの厨房で調理し、保温容器に入ったお弁当を配食ボランティア（有償）の方が日野市一円に配達をする。あわせて安否確認も行う。安否確認ができない利用者に関しては、再度連絡を入れたり、再度訪問をしたりする。センター長が利用者家族や担当ケアマネジャーに連絡することもある。配食コーディネーター（有償ボランティア）は配達員の連絡を受けて、指示をする。それでも解決できない場合はセンター長に申し送る。

地域の課題

独居高齢者をはじめとする高齢者世帯では自らが買い物に出かけることが難しくなり、調理ができなくなるなど、食事を摂取することが困難になってきている。また、安否確認も大切な課題である。実際に配達に行くと、倒れて意識がないという例もあった。今後も継続して365日（1/1を除く）の配食サービスを通じて地域に貢献していく。

社会福法人 マザアス 日野市地域包括支援センター多摩川苑 たまカフェ

■開催日程 11/23 14:00~16:00

■参加団体 えんこらしょ、マザアス日野、小規模多機能ホームみなみだいら、ふれあい、小規模多機能ホーム日野、ひだまりサロン、谷仲山婦人会、スターバックスコーヒー、日野社会福祉協議会、日野警察署、日野市役所、日野市地域包括支援センターいきいきタウン、下田自治会、新石自治会、下田団地自治会

■参加人数 90名

実施の目的

世代や分野を越えてつながる「ユニバーサルカフェ」を開催し、地域で交流を深める。

当日の様子

地域の方、介護サービスを利用されている方、サービス事業者など、予想以上に多くの方に参加いただき、スターバックスさん提供のコーヒーが足りないくらい大盛況だった。えんこらしょさんの取組み紹介から、地域で障がい者、高齢者、低所得者への支援を一体的に行っていることを知る機会となった。また、地域の方にとって大きな支えとなり、今後の活動のヒントとなった。さらに、日頃関わりのない方同士で顔見知りになることもでき、施設入居者の方も含め地域の交流を深めることができた。

地域の課題

多摩川苑周辺地区は高齢化率が低く、15歳以下の若年世代が多いという特徴がある。若い世代に高齢者のことに興味をもっていただき、支え手となっていただくことが重要としており、多世代・多機関でつながることで誰もが住みやすい地域を作ることが目標である。

日野市役所文化スポーツ課

(協力：日野市地域包括支援センター多摩川苑)

日野ウォークフェスタ

- 開催日程 10/27 9:00~14:00
- 参加団体 日野市役所、住友不動産、実践女子大学、JA東京みなみ、東京ヴェルディ、日野レッドドルフィンズ
- 参加人数 500名

実施の目的

日野市の自然資源である多摩川を活用し、市民の自主的なウォーキング活動やスポーツを通じた地域コミュニティの活性化を促す。多摩川苑で、普段高齢者に関心の低い人々へのアプローチの場とする。

当日の様子

曇り空の下だったが、延べ500人程の参加があった。多摩川沿いをウォーキングする方、メイン会場で体力測定やボルダリング等する方と子どもから大人までそれぞれが楽しんでいる様子だった。多摩川苑で取組んでいる障害者就労支援事業で製造しているジャムの試食・販売を行った。地域の方も喜んでいた様子で、日頃高齢者のことに関心がないような方にも地域包括支援センターのことを周知する機会となった。

地域の課題

多摩川苑地区は高齢化率が低く、15歳以下の若年世代が多いという特徴がある。若い世代に高齢者のことに興味をもっていただき支え手となっていただくことが重要としており、多世代・多機関でつながることで誰もが住みやすい地域を作ることが目標である。

日野市

デイサービス

地域交流

社会福祉法人寿優和会 浅川苑サービスセンター

シルバーピアたかはた交流会 おやつ（どら焼き）作り

■開催日程 11/16 13:30~15:00

■参加人数 8名

実施の目的

もともとシルバーピアたかはたでは、住人を対象に毎月1回交流会を開いているが、対象を近隣住民にも拡大し、交流を試みる。

当日の様子

シルバーピアたかはたの管理人と住人のほかに1名、同じ敷地にある団地の方の参加があり、交流する機会となった。ホットプレート2台でどら焼きの生地を作り、あんこを挟んでもらった。普段の交流会では、主に工作やカラオケなどを行っているが、食べ物を作るのは久しぶりなこともあり、参加者の人数は少なかったが和気あいあいと楽しく行うことができた。90歳代の男性は、「薄いクレープのようなどら焼きを作るんだ」と言って、自ら一生懸命焼く様子も見られ、おいしく作ることができた。

地域の課題

毎月の交流会では、今後もシルバーピアの住人だけではなく、地域の方へも積極的に開催を案内して参加してもらえるよう働きかけていきたい。

また、ひとり暮らしで地域との交流が少ない方々へ、月に1回でも気軽に話し合える場づくりに努めたい。

社会福祉法人寿優和会 日野市地域包括支援センターあさかわ おしゃべりカフェ

- 開催日程 ①9/15 13:30~16:00
②10/20 13:30~16:00
- 参加人数 47名

実施の目的

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目的に、認知症の方や家族、地域の方がゆったりと過ごせ、専門職を交え、認知症のことを知りたい地域の方々の情報交換の場を開く。

当日の様子

- ・認知症の当事者やその家族、認知症の介護経験のある方、地域住民の方が参加し様々な情報交換や話をして楽しんでいた。また、占い師、ボードゲーム研究者、ネイル師、リフレクソロジー施術者の協力もあり、参加者からは笑顔が見られた。
- ・高校生ボランティアの参加もあり、参加した高齢者からは「若者と話すと元気をもらえる」といった言葉も聞かれ、多世代交流の場ともなっている。
- ・途中30分程度、体操を行い体をほぐした。
- ・コーヒーやスムージーを飲みながら、各テーブルで話が盛り上がっていた。

地域の課題

- ・丘陵地帯に居住している高齢者が多いため、自力で外出が困難になるケースが多い。できるだけ近隣に居場所づくりが必要だと考える。
- ・今後、講師や歌手を呼んでのイベントを計画している。また、今後は若い子育て世代にも参加していただけるように地域住民や自治会等と連携を図っていきたい。

社会福祉法人寿優和会 特別養護老人ホーム浅川苑 あさかわ祭り

- 開催日程 10/21 10:00~14:00
- 参加団体 地域包括支援センターあさかわ、浅川苑サービスセンター、ケアマネジメントセンター浅川苑、介護ショップりんりん
- 参加人数 100名

実施の目的

地域の方との交流を図り、困った時には利用していただく。浅川苑を知ってもらう。

当日の様子

38名のボランティアの協力により、屋台、バザー、演芸（地元出身のシャンソン歌手による唱歌・童謡、三味線などの演奏）、作品展が行われた。いつものようにバザーには開店前から地域の方が並んでいた。屋台はボランティアだけで切り盛りしていて、楽しんでいる様子だった。地域の方たちの交流の場として根付いていることを感じた。

地域の課題

近所に保育園や小学校があるにも関わらず、祭り開催の声がけをしてこなかった。今後は、子どもたちも参加し、楽しみにしてもらえるような祭りとして工夫していきたい。今後、改修工事が予定されているが、できるだけ継続し、地域の方に当施設を知ってもらう努力を続けていきたい。

社会福祉法人賛育会 特別養護老人ホーム清風園 にこにこ清風食堂（こども食堂）

- 開催日程 毎月第1、3木曜 17:00~19:00
- 参加団体 清風園、地域ボランティア
- 参加人数 180名

実施の目的

地域の居場所づくりを目的に、高齢者と子どもとの夕食を通じた交流や学生ボランティアによる宿題や遊びの支援を行っている。

当日の様子

未就学児から小学校高学年まで、毎回30人以上の子どもたちが参加。17時から18時までは学生やボランティアと遊びの会、18時からは参加者みんなで食事を楽しんだ。

十五夜では、月見をしながらお団子を食べ、ハロウィンではカボチャのランタン作りや仮装をした。中庭で綱引きをしたり、かけっこ、ボール遊びをしたりして元気に走り回っている子どもの顔が印象に残る。食事後には、絵本の読み聞かせの会や、グループホームの高齢者との交流も行った。

地域の課題

にこにこ清風食堂では、いわゆる貧困家庭の子どもをメインにした子ども食堂ではなく、広く地域の方の居場所となるように運営している。参加する子どもが置かれている環境は様々であり、「地域で困っているのは高齢者だけではない。」という地元の民生委員の言葉に表れていると思う。また、地元の課題に地元の人たちと一緒に取り組んでいく上でボランティアの力は欠かせないものとなっている。

町田市

複数施設共催

地域団体との協働

社会福祉法人賛育会 第二清風園 ハロウィンフェスティバル

■開催日程 10/28 10:00~15:00

■参加団体 ダイキン、赤い屋根、スワンベーカーリー、真光寺ヒデ、SPATS TNAI 5、子育てサロンポップコーン、法政大学アカペラサークル、音楽団町田、キリン、野津田高校吹奏楽部、やくし台自治会子供会、鶴川やってみる会、絵画クラブ、鶴川第1高齢者支援センター、学生ボランティア（野津田高校、武蔵野大学、法政大学、日本女子大学）

■参加人数 300名

実施の目的

周辺自治会の方々や近隣住民、小中学生との交流を深める。多世代の住民や入居者にも余暇の一環として楽しんでいただきながら、その様子を地域内へ発信し、施設の認知度向上を図る。



当日の様子

施設内1階と屋外駐車場を利用して地域の団体を招き、ハロウィンイベントを行った。特養利用者も見学し、音楽団町田によるオープニング演奏時には、楽しんでいる様子が見られた。また、ボランティアに学生が関わるなど、多世代による交流ができた。来場者の中には、仮装をした方が見られ、施設側だけでなく、来場した方々と一緒にイベントが作られていることを実感した。カボチャの仮装をした子どもを連れた家族も多く来園され、子どもたちが楽しそうに家族と一緒に走る姿も見られた。

地域の課題

来年度以降も、地域の方との交流を深めることのできるイベントを企画していく予定である。今回は来場者数を500名と見込んでいたが、それを下回る結果となり、午後には来場者が少なくなってしまった。要因としては広報不足と、他の地域行事と重なってしまったことが挙げられる。

企画の段階で、他の行事と重ならない日程で行い、チラシの配布範囲を広げることで対応していきたい。

社会福祉法人十字会 特別養護老人ホーム友愛荘 ゆうあいマルシェ（ゆうあい広場）

- 開催日程 10/6 10:00~12:00
- 参加団体 ころもみ(椎茸)、町田お菓子の家(お菓子)、スワンベーカーリー(パン)、ぐりーんハウス(駄菓子)、友愛荘家族会(バザー)、寿(和太鼓)、シナモン(コミュニティハウス)、友愛荘利用者
- 参加人数 95名

実施の目的

地域住民が気兼ねなく立ち寄り、開かれた施設づくりを目指すとともに、施設利用者が地域と交流する機会を増やすことを目的に開催。

当日の様子

前日の雨も上がり、早朝より園庭整備と会場設営を行った。天気が良くマルシェ開催日和である。和太鼓、キッズフラダンス、相撲甚句、踊りなどのボランティアより、「外で行えて気持ち良かった」「次回もまた呼んで欲しい」との声も聞かれた。事前に配布したチラシを持参し、プレゼントを引き換えていた方々もおり、広報の効果も見られている。昼食前の開催であったため、パンや駄菓子の人気が高い様子だった。コミュニティハウスのシナモン管理者より、「今度合同で地域交流のイベントを友愛荘の園庭を利用して開催したい」とのお話も出ている。

地域の課題

天候に恵まれたが、予想を超える暑さで、日陰を作るなどの対策が十分でなかった。近隣の運動会や、地域の防災訓練などと重なってしまったので、周辺のイベントと重ならないよう、事前に確認をする必要がある。また、近隣施設(有料老人ホームや、保育園等)にも積極的に案内をしていきたい。今後、夏祭りから秋祭りへと、地域交流の大きなイベントとして開催しても良いのではないかと検討している。

多摩市

その他

地域団体との協働

KAOFES実行委員会（協力：愛生苑）

KAOFES

■開催日程 9/16 10:00~20:00

■参加団体 赤枝医院、多摩市、多摩商工会議所、トヨタ西東京カローラ株式会社、COCOFIT、特別養護老人ホーム愛生苑、武井小児科、chou-chou、223、cafe GARDEN、株式会社大塚設備、ホームテック株式会社、株式会社調布清掃、聖蹟桜ヶ丘OPA、株式会社TRUST、京王電鉄株式会社、TAMA CITY RIDERS、ヤマト運輸株式会社、ネコサポ、日本アニメーション株式会社、朝日新聞、啓光福祉会、桜ヶ丘商会連合会、多摩中央警察署、多摩消防署、京王聖蹟桜ヶ丘SC、京王ストア、多摩ニュータウンサービス、スタジオ ソラ、UBRIACO、龍輝、TSP太陽株式会社、多摩信用金庫、東都生活協同組合、生活協同組合コープみらい、スポーツクラブNAS株式会社、Seiseki farmers meeting、バオバブ保育園、小山商店、多摩青年会議所、東京都水道局多摩給水管理事務所、大妻女子大学 井上ゼミ、多摩大学（奥山ゼミ、丹下ゼミ、野坂ゼミ）、株式会社ゆたか、フィット鍼灸整骨院、木下畜産、（有）平澤商店、多摩興運、一般社団法人LCS、ドキわくランド聖蹟桜ヶ丘店、りょう歯科クリニック、魚虎食堂、ウィズチャイルド、相模原商事、SAKENOWA 六吉、防衛省 自衛隊 東京地方協力本部 府中分駐所、書韻会、あいフィットネスサロンさくら、斎藤工務店、株式会社カイトー、レストラン神谷、鼎's (Din's) by JINDINROU、ダ・ルチアーノ、武ん家

■参加人数 15000名

実施の目的

子どもたちが「遊び」「学び」「仕事」を経験し、自分たちで考えながら街を創りあげていく場をつくる。

当日の様子

20のワークショップ、26の職業体験の他、縁日、20の屋台の出展があった。特設ステージでは子どもたちのダンスや歌などの発表があり、夜には花火が上がった。来場者数も15000名と過去最高の人数で、NHK・朝日新聞・スポーツ報知・多摩TVなどメディアでも多く取り上げていただいた。

地域の課題

多摩市のビックイベントとして定着しつつある。社会福祉法人として参加し、多くの人に認知されるよう活動を継続していきたい。

社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉

地域交流イベント 第6回ハーモニー松葉「歌の祭典」

- 開催日程 10/23 13:30~15:30
- 参加団体 社会福祉法人正吉福祉会 やのくち正吉苑、そんぽの家 稲城矢野口
- 参加人数 120名

実施の目的

当施設にて3か月に1回、入居者・利用者および地域住民、昭和歌謡曲や唱歌を皆で歌うことを通じ、利用者や入居者と地域住民の交流や再会、コミュニティー機能を促進する。



当日の様子

入居者・利用者をはじめ、地域住民や近隣施設のやのくち正吉苑およびそんぽの家稲城矢野口の入所者計120名が参加された。施設長のギター演奏と歌に合わせ、「湖畔の宿」や「高原列車は行く」など懐かしの昭和歌謡曲や唱歌16曲を歌い、「とても楽しかった」「元気になった」と参加者は満足な様子であった。芋煮会も行い、秋の味覚である芋煮汁に舌鼓をうちながら、入居者・利用者と地域住民の交流や再会を促進できた。

地域の課題

当施設は、稲城市のコミュニティーソーシャルワークのモデル地区に所在し、地域包括支援センターや自治会、民生児童委員や老人会などが連携し、会議や地域フォーラムを開催しているが、ひとり暮らしの高齢者や子育て世代など地域との繋がりが無い方も増えており、地域共生での課題となっている。現在、当法人を含む地域3法人共同で子ども食堂を実施しており、入居者もボランティアで参加するなど地域貢献と自立支援を結び行っている。今後も地域に信頼される施設となり、職員もやりがいを持って働けるように取組んでいきたい。

社会福祉法人東京弘済園

東京弘済園まつり（地域の力・施設の力）

- 開催日程 11/3 10:30~14:30
- 参加団体 近隣学校の吹奏楽団、ダンス部、介護予防・心肺蘇生サークル、福祉作業所（2カ所）、慶応落研OB、ボランティア
- 参加人数 800名

実施の目的

まつりを通して地域の方々と交流し、当事業の理解を深めていただく。当法人の職員とボランティアと地域の方々のつながりも深める機会とする。



当日の様子

近隣学校の若さ溢れるダンスから始まり、子どもリトミック（リズム遊び）、福祉セミナー、体力測定、介護予防、多世代の多くの方々楽しんでい。やきそば・ちまき・豚汁などの模擬店での食事も、満席で賑わっていた。爆笑の渦に包まれた落語、吹奏楽団コンサートでの合唱等、楽しいひと時となった。芝生広場でのゲームコーナー、バルーン体験、革細工のもの作りでは親子で楽しむ姿もあった。「合唱楽しかった！」「体力測定、体が思っていたより曲がった！嬉しい」「上手くできた！」「美味しいね」様々の嬉しい声も聞こえてきた。

地域の課題

東京弘済園まつりは、毎年恒例のイベントとして地域に定着してきており、多くの高齢者の方々や親子の来場がある。当法人の持つ、様々な機能を活かして、介護、医療、子育てなどより広く地域の方々の役に立つ情報を発信していきたい。

牟礼東町会（協力：社会福祉法人桜栄会 特別養護老人ホーム恵比寿苑）

牟礼東町会秋祭り 太鼓巡行

■開催日程 10/7 12:20~13:00

■参加人数 120名

実施の目的

施設が所属している町会の秋祭り太鼓巡行の際に、施設に立ち寄っていただき、地域住民の方々と利用者の交流の場をつくる。

当日の様子

今年は、太鼓巡行の到着する時間が少し早かったため、太鼓を叩く時間が多く設けられた。例年よりも多い10名を超える利用者が太鼓を叩くことができた。また、対応できる職員の数が少なかつた中、各職員が連携を上手く行い、例年同様に30名程の利用者の誘導が行え、太鼓巡行を楽しんでいただいた。地域の子どもたちが大勢来たときには利用者も嬉しそうに眺めていた。地域の子ども、お囃子、獅子舞、太鼓など、その空間を楽しまれている利用者の笑顔を見ることができ、地域との交流を実施して本当に良かったと感じた。

地域の課題

課題は、施設の昼食と太鼓の巡行の時間が重なっていることだが、太鼓の巡行コースの問題もあり、大幅な変更が難しい状況である。町会の方々とともに相談をしながら、来年度の開催について検討したい。今までは、地域の方に来ていただいて、施設利用者を楽しませていただいている状況のため、施設利用者から住民に向けて何かできないことがないか、あわせて検討していきたい。

調布市

デイサービス

カフェ・居場所

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 調布市国領高齢者在宅サービスセンター

①だれでもカフェこくりょう

②だれでもカフェぷちぽあん

■開催日程 9/23、10/28、11/25 12:00~15:00
②10/13 10:00~12:00

■参加団体 地域包括支援センターゆうあい、地域包括支援センター仙川、地域包括支援センターつつしが丘

■参加人数 141名

実施の目的

認知症の方、家族、専門職、だれもが参加・交流できるカフェ。また、認知症や介護について「相談したい」「話したい」「聞いてほしい」という思いの方も参加していただくカフェ。毎月1回定期的に行っている。



当日の様子

だれでもカフェこくりょうでは、男性の介護者の方が介護の大変さなどを話せる場として「男性介護者のつどい」を13時から別室で開催している。男性参加者が増え、参加の半数が地域の男性の回もあった。ボランティアによるフットマッサージや、地域包括支援センターによる体操「10筋体操」を展開し、日頃の介護の疲れを解消する効果が見受けられた。だれでもカフェぷちぽあんでは、バザーを同時開催し、近隣の方が多く参加した。施設の中に設置した折り紙コーナーでは、親子連れの参加者が多く、若年代へ施設の存在等を知っていただくきっかけとなった。

地域の課題

月1回開催することで、地域近隣の高齢者の方への周知は進み、一定数の方が参加し定着してきていると思われるが、認知症の当事者や、若年性認知症の方の参加が少ない。活用していただくため、地域包括支援センターや病院等の関係機関へのPRを継続的に行っていく必要がある。また、ケアラー（介護などケアをする人）支援の側面として、市内のケアラーの居場所を運営する団体から、情報交換会を開催してほしいとの意向がある。各団体と連携を図り、開催を検討したい。

社会福祉法人常盤会 調布市地域包括支援センターときわぎ国領 地域交流カフェ「ときわぎCafé Green」

- 開催日程 ①9/21 13:30~15:00
②11/23 13:30~15:00
- 参加人数 20名

実施の目的

地域の高齢者がお茶を飲みながら気軽に話ができて、介護をはじめとするの情報共有を行える場所をつくる。また、地域包括支援センターの周知と理解を促し、住民の「困ったら包括へ」という意識を高め、問題の早期発見や適切なサービス利用へ結び付けることを目的とする。



当日の様子

9月の回では包括職員（保健師）が中心となり、住民主体の介護予防の取組みとして現在、調布市が推し進めている「10の筋力トレーニング」の説明を実践を交えながら行った。前半は実際に身体を動かし、後半はお茶を飲みながら、トレーニングの感想や介護予防についての情報交換を行った。11月の回では近隣薬局の薬剤師の方に来ていただき、薬についての悩みごとや不安、かかりつけ薬剤師等について話題提供を行った。各回とも少人数ではあったが、和気あいあいとして穏やかな雰囲気があり、どの参加者からも質問や意見があがっていた。

地域の課題

本事業は特養の利用者が週1日お茶を楽しむカフェに付随しており、地域の方向けには2カ月に1回開催し、無料でコーヒーや小菓子を提供している。過去には、「福祉用具」や「消費者被害を防ぐ」といったテーマでも開催した。毎回10人前後ではあるがリピーターも多く、介護・福祉の情報や工夫を学べる場として浸透しつつある。今後はリピーターだけでなく、テーマや周知方法を工夫し、60~70代で仕事を引退され、今後介護のこと準備していく世代、また40~50代で親の介護を考える世代も募り、地域包括支援センターのPRを図っていきたい。

府中市

その他

学びの機会

社会福祉法人多摩同胞会 しらとり学習サポートサロン

- 開催日程 学習支援：毎週月曜（祝日を除く）17：30～20：30
余暇活動支援：10/8
- 参加団体 母子生活支援施設 白鳥寮
- 参加人数 38名

実施の目的

家庭環境などの理由により、学力その他の面で課題を持つ中高生への学習支援と余暇活動支援

当日の様子

交流と、学習に対するモチベーションの向上をねらいとして、宿題や期末テスト勉強、受験勉強を子どもたちそれぞれのペースに合わせて個別対応で進めた。子どもたちにとって安心できる居場所になるよう、関係づくりも重要視している。

また、余暇活動支援として外出もした。池に足を突っ込みつつも最後までアスレチックをやり遂げ、楽しむ様子が見られた。

地域の課題

定員に余裕があるため、関係機関への周知を図り、必要としている世帯へのつながりが増えるといいと感じた。今後は周知のための広報活動を行っていきたい。

また、毎週月曜の学習会を継続し、子どもたちの進学・進級に向けて支援しながら、定期的に外出や食事会を開きたい。

社会福祉法人多摩養育園府中市立介護予防推進センター いきいきプラザ合同防災訓練

- 開催日程 11/5 10:00~11:30
- 参加団体 光明高倉保育園、分梅高倉自治会、府中市消防署分梅出張所
- 参加人数 185名

実施の目的

災害時に備え、地域や複合施設との訓練を実施する。

当日の様子

高齢者の通所施設、保育園、地域が一体となり、万が一の災害に向けて近隣消防署の協力を受けながら、訓練を実施した。避難訓練、通報訓練の後、消火訓練、職員の自衛消防隊による放水訓練、消防署による逃げ遅れを想定した救出訓練を行った。その後、年長組と職員、近隣市民を対象にLED体験をし、園児は消防車の見学と撮影会を行った。天気にも恵まれ、交流を深めながらの実施訓練となった。

地域の課題

「地域自治会の高齢化が進み、防災訓練を単独で行うことが難しくなっている」との声をきっかけに、合同訓練を行うようになった。消防署の稼働可能日に合わせて開催日を決定する必要があるが、地域と複合施設の開催希望曜日が異なるため、日程調整が課題であり、今後検討していく必要がある。

社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームミンナ

ぶらっとなみき

■開催日程 9/22 14:00~15:30

■参加人数 40名

実施の目的

介護予防運動指導員の指導による介護予防体操や、地域包括支援センターからの保健・福祉・医療に関する情報提供などを通じ、地域で生活する高齢者が互いに語り合い、心身ともに健康な生活を継続するためのよりどころをつくる。



当日の様子

桜美林大学大学院より講師を招き、高齢期における「うつ」についての講演会を行った。特徴的な症状や気付きのサイン、治療の方法について、また、身近な人が「うつ」となった時の対応などについて詳しく話していただいた。

当日の参加者はお元気な方が中心でしたが、「うつ」と診断を受けていなくても症状をお持ちの高齢者が多数いるという話に、自分や家族に照らし合わせて熱心に耳を傾けていた。その後、参加者全員で恒例の介護予防体操を行い、会を締めくくった。

地域の課題

この事業は「この近所には皆がぶらっと立ち寄って話をしたりする場所がない。」という近隣に住む高齢者の方々から寄せられた声から生まれた。それから9年間、皆さんのよりどころとなるべく事業を継続中である。

現在、企画・運営は併設の地域包括支援センターが中心となっているが、今後は参加者にもそこに携わってもらうなど、住民主体の活動へとシフトチェンジしていくことを検討中である。また、高齢者のみならず、子どもや学生など世代を超えた事業になればとも考えている。

社会福祉法人弥生会 特別養護老人ホームくにたち苑 くにたち苑バザー

- 開催日程 10/14 11:00~13:00
- 参加団体 くにたち苑家族会
- 参加人数 150名

実施の目的

地域住民に、くにたち苑の事業や、施設の雰囲気を知ってもらう。

当日の様子

不安定な天候の中、開始の1時間前から会場前にはバザーを楽しみにしている地域住民が列を作り、開始とともにお目当ての品物をかごに入れ楽しんでいた。品物を買った人は、模擬店のたい焼きや焼きそば、フランクフルトなどを食べるなど、楽しんでいた。終始にぎわいのあるイベントとなった。



地域の課題

今年で10回目を迎えた。地域住民にも「くにたち苑」がかなり浸透してきたことが伺える。今後も継続して地域の絆を大切にしていきたい。

社会福祉法人恵比寿会

第6回フェローホームズ秋祭り

■開催日程 10/27 10:30~14:30

■参加団体 特別養護老人ホーム「仲間の家」「森の家」「高松の家」、グループホーム「ヴィラ・フェローホームズ」、富士見町地区「富士見YOSAKOI」「いっしょう太鼓」、地元小中高生を対象としたヒップホップダンスチーム「FAMI」、シャンソン歌手「YU-ME」、ネイル「加藤」

■参加人数 450名

実施の目的

地域の方との交流を含め、利用者や来場した方々に楽しいひとときを過ごしていただけるよう、感謝の気持ちを込めて企画したお祭りを行う。



当日の様子

明け方近くまで降っていた雨も止んで透き通るような秋晴れとなり、施設長の開会の挨拶を皮切りに「えびす焼き」「焼きそば」「綿あめ」などの屋台やバザー品販売コーナーは大賑わいとなった。利用者家族、ボランティア、介護職員に付き添われて会場入りした利用者たちはイベント「いっしょう太鼓」の太鼓の音にビックリしていた。また、「えびす焼き」を食べて恵比寿顔になり、祭り気分を大いに味わっている様子でした。また、初めての試みでフードドライブ（家庭で余っている食べ物を持ち寄って寄付する活動）を実施し、フードバンクを実施している立川社会福祉協議会へ食料品を提供することができた。

地域の課題

高齢化が進む地域の団地での、高齢福祉の拠点づくり、地元自治会や商店会主催行事への相談窓口の出前ブースへの参加など、様々な形で情報共有を行う場をつくり、課題を発掘し解決の糸口につなげていきたい。

社会福祉法人恵比寿会 立川オールデイズ物語カフェ

- 開催日程 毎月第3金曜または第4金曜 14:00~15:30
- 参加団体 主催：恵比寿会法人本部、(株)立川印刷所
後援：立川社会福祉協議会
協力：人生を語り合う会有志
- 参加人数 90名

実施の目的

立川市の昭和の記憶を記録し、次世代に伝え残す場をつくる。また、記録を掘り起こす中で認知症予防につなげていく。



当日の様子

毎月のテーマ「映画」「夏祭り」「芸術の秋」「クリスマス」等に沿って自己紹介をした。その後、スライド写真やDVDの動画を使用して、30年代の立川へトリップ体験を行った。

その後、少人数のグループに分かれて歓談し、最後に特養作業療法士による自宅体操でリラックス。一度も休まずに参加される自治会の方、グループホームの利用者や自宅からタクシーで参加される方など、地域から様々な方が参加し、賑やかに暖かい時間を過ごした。

地域の課題

地域でひとり暮らしの男性高齢者に参加してもらいたいという思いから始めた。ねらい通り男性の参加者の方が多いという結果はでているが、まだまだ地域の中に潜在している方も多い様子。このようなカフェを今後も地域の中で増やしていきたい。

社会福祉法人恵比寿会 立川市南部東はごろも地域包括支援センター
立川オールディズ物語カフェ in 羽衣

- 開催日程 ①9/27 14:00～15:30
②11/29 14:00～15:30
- 参加団体 都営第2アパート自治会、羽衣会
- 参加人数 12名

実施の目的

地域住民が興味を持ち、注目してもらえる認知症カフェとして立川市の懐かしい風景や様子を撮影した写真を修復しスライドにしたものや、高度経済成長期に起こったことをクイズにしたものを参加者で観ながら交流を深め、顔あわせし、参加者も支援者も繋がり、支えあう関係を構築する。

当日の様子

高齢者だけでなく、40～50歳代の参加者もあった。若年性認知症の方も参加されたり、「8050問題（50歳代のひきこもりの子どもを80歳代の親が養うなど、引きこもりの長期化や高齢化から引き起こされる社会問題）」にあたる子ども世代の方も参加され、「認知症カフェ」の機能だけでなく、地域で継続して支援が必要な方へのアプローチにもなっていると感じた。

地域の課題

開催している地区は、自治会や町会活動が比較的盛んなところであるが、支え合いのネットワークづくりにはまだまだ課題が多い様子。

今後、センター周辺で開催している地域の「認知症見守り模擬訓練」に繋がる活動になるようにしていきたい。

社会福祉法人同胞互助会 特別養護老人ホーム愛全園 愛全園福祉フェスティバル（文化祭）

- 開催日程 11/10 10:30~15:00
- 参加団体 社会福祉法人同胞互助会 食工房ゆいのもり
- 参加人数 不明

実施の目的

地域の方との交流を楽しむことを目的に利用者の作品展示販売、模擬店などを開催。また、法人全体の職員が協力し、地域の方を対象に介護体験や福祉に関する情報提供を行う。



当日の様子

当日は雲ひとつない晴天で、法人内の園庭を開放し、「福祉体験学校」と表して、地域の方対象にお年寄りの擬似体験や車いす、介護用ベッドの体験を実施した。屋外ではポカポカ陽気のもと、バザーも開催した。施設内では、愛全園、偕生園の利用者の作品展示や販売を行い、地域の方々や利用者家族も多く来園された。「近くに住んでいて、初めて来園しました。利用者さんの作品は素晴らしいですね」との感想が寄せられた。

地域の課題

11月の開催は、市内で複数の文化祭、産業祭などの催し物があり、地域の方が分散されてしまうため日程調整が難しくはあるが、地域全体があちこち盛り上がるのも活気があって良いと考えている。

昭島市

特養

アウトリーチ

社会福祉法人同胞互助会 ふれあい食事サービス 高齢者向け弁当配食サービス

■開催日程 毎週月～土曜 9：00～18：00

■参加人数 275名

実施の目的

- ・施設の食事サービスのノウハウを活かした地域の方へのお弁当配食サービスの実施。
- ・高齢者及び高齢者世帯に対しての安否確認。



当日の様子

本事業は安否確認を兼ねた配食をおこなっているため、配食の際に感じ取った利用者の違和感や不調の訴えなどを、迅速に関係各所へ報告している。先日も、配食時に配送員へ体調不良を訴えた利用者があり、担当ケアマネジャーへ報告・対応を依頼したところ、命に関わる状態であったことが判明した。些細なことでも多職種で情報共有し、高齢者一人ひとりを支援することにより、安心して在宅生活を送っていただくことができると気づけた。安否確認を兼ねている本事業の意義や大切さを改めて感じることもできた。

地域の課題

今後も地域の高齢者支援・地域貢献の一つとしてサービスを継続し、細やかな食事提供、他事業所との連携による見守り支援をしていく。

げんき食実行委員会（協力：特別養護老人ホーム愛全園）

げんき食フェスティバル

■開催日程 9/29 11:00~15:30

■参加団体 地域管理栄養士ボランティアグループ、昭島病院訪問看護、北部地域包括支援センター、東部地域包括支援センター、西部地域包括支援センター、同胞互助会、健康体操はつらつクラブ、導引養生功

■参加人数 80名

実施の目的

法人の栄養士OBが中心となって地域の方と一緒に実行委員会を作り、各専門職と共に、楽しく健康についての勉強会を開く。



当日の様子

オープニングはピアノ演奏、合唱があり、始めに漢方医の蓮村理事長より、「いつまでも元気に過ごすためには、お口のケアが何よりも大切」「美味しく食べられて、いっぱいおしゃべりすることが健康の秘訣」という講演を行った。その後、6つのグループに分かれ元気食メニューの調理実習をし、皆で試食タイム。昭島市長も参加いただいた。お腹もいっぱいになったところで、各グループで健康に関する悩みなどを話し合い、医師、歯科衛生士、管理栄養士、ケアマネなどの専門職からアドバイスを行った。

地域の課題

長年継続してきたこの委員会だが、地域の実行委員やボランティアさんの高齢化によって、今まで通りの開催が難しくなってきている。今回は、同胞互助会の施設を会場に使用していただいたが、今後は準備段階から職員も参加し、スムーズな運営ができるよう一緒に携わっていきたい。

昭島市

地域包括支援センター

相談・家族支援

社会福祉法人同胞互助会 昭島市西部地域包括支援センター愛全園 家族介護者教室

- 開催日程 9/12 10:00~12:00
- 参加団体 昭島市役所、昭島市地域包括支援センター（北部、中部、東部）、同胞互助会栄養ケアステーション
- 参加人数 35名

実施の目的

昭島市内の地域包括支援センターが合同で、地域の中で介護する人に知って欲しい基礎的な知識、料理や薬の知識に関する勉強会を開催する。



当日の様子

2部形式で、第1部は管理栄養士による講義「介護する人に知ってほしい栄養の基礎知識」、第2部では、嚥下・咀嚼機能に合わせた調理の工夫と簡単に作れる料理の調理実習と試食会を行った。参加者からのアンケートには、「ちょっとした工夫で簡単にできることを知ることができてよかった」「このような勉強会があればまた参加したい」などの意見があった。

地域の課題

地域で介護をしている人たちは、基本的な知識や情報を得る手段が乏しく、地域からも疎遠となり、孤立してしまう傾向にある。このような介護者向けの教室を定期的で開催することで、孤立化を防ぎ、地域の中でのつながりを広げられるように支援していきたい。

社会福祉法人同胞互助会 社会福祉法人ゆいのもり

すずらん喫茶 手作りパン販売

- 開催日程 毎週火曜 11:00~15:00
- 参加団体 社会福祉法人ゆいのもり福祉協会「食工房ゆいのもり」、社会福祉法人同胞互助会
- 参加人数 80名

実施の目的

地域の障害者作業所「食工房ゆいのもり」の就労支援の一環として、施設の場所を提供し、天然酵母のパンとコーヒーの販売を行い、障がい者と高齢者と地域住民の交流の場をつくる。

当日の様子

毎週火曜日は「パンの日」、と施設の利用者も職員も楽しみにし定着している様子。天然酵母のパンや地元の食材を生かした季節限定のパンが並び始めると、玄関前までパンの香りに包まれて、気持ちが和む、と家族や地域の方にも好評である。

また、販売が一段落した頃、常連の利用者が集まり、コーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しんでいた。



地域の課題

これからも、同じ地域の中にある、違う分野の法人がつながることで、互いの利用者や地域の方の満足につなげていきたいと考えている。

昭島市

特養

地域交流

恩賜財団東京都同法援護会 特別養護老人ホームフジホーム

①納涼祭 ②地域のカフェなどへの参加

■開催日程 7/26 18:00~20:00

■参加団体 東京都同胞援護会昭和郷内施設、昭和郷複合施設さくらガーデン、グループホームかえで、ボランティア

■参加人数 30名

実施の目的

納涼祭は年に1度行う地域のお祭りで、地域の人々と施設の利用者や職員が交流する機会として行う。加えて、地域のカフェのお手伝いを通じて、ボランティアと交流し、関係性をつくる。地域の参加者と話し、介護で困っていることについて相談を受け、福祉サービスにつなげていく。

当日の様子

納涼祭は年に1度のイベントで、高齢者や地域の子もたちが一緒になって盆踊りを踊り、楽しんでいた。

「さくらカフェ」のお手伝いでは、ボランティアとカフェのお手伝いをすることで、交流を深めることができた。慣れない店員の仕事だが、現役主婦の方々も多く、慣れてくるとときばきと楽しんでカフェの仕事に取り組んでいた。ときどき介護の相談を受け、特養のサービスについて、説明することもあった。

地域の課題

昭島市中神町を拠点とする昭和郷は地域で求められる多くの福祉ニーズに対応できる多様なサービスを展開しているが、地域の方々には存在は知られているものの、詳細やサービスの利用方法を知っている方は少なかったように感じる。福祉に携わる職員が、サービス内容や利用方法を知ってもらえる機会をつくれば、より円滑な福祉サービスの利用につながるのではないかと考えている。今回の事業参加で多くの課題に気づくことができたので、今後は一つずつ、地域のニーズに応えていきたい。

社会福祉法人多摩大和園

地域講演会 「地域共生について考える～認知症になっても最期まで安心して暮らせる街を目指して～」

■開催日程 10/7 14:00～16:00

■参加人数 300名

実施の目的

「認知症」にスポットを当て、地域講演会を開催した。もし、自分や家族が認知症になったらどうすればよいのか、認知症のことを学び、正しく理解し、よりそい、心を通わせ、地域で支えていくための礎を築きたいという思いを活動として反映していく。

当日の様子

前半は、「認知症の方が不利益を受けない社会をつくること」を理念に活躍する認知症専門ナースケアマネの市村幸美さんを迎え、基調講演「少しの知識と勇気と優しさ」の講演を行った。後半は、認知症の方を介護する家族の方が登壇し、実体験を踏まえた話をしてくれた。参加者からは、「認知症という病気が身近なものになった」「自分に何ができるのか考える機会になった」などの感想をいただいた。

地域の課題

次年度の開催に向けて、テーマや講師などについて検討を進めている。

東大和市

特養

学びの機会

社会福祉法人多摩大和園 やまと苑

地域懇談会

- 開催日程 ①11/24 10:00～12:00
②12/15 10:00～12:00
- 参加団体 狭山自治会、清水自治会、多摩湖畔自治会、湖南自治会、東邦分譲地自治会、東大和マンション自治会、清水福寿会、湖畔の集い、湖畔いきいきクラブ、家族会パウラ
- 参加人数 150名

実施の目的

地域の方の希望を踏まえ、地域に役立つ内容をテーマに掲げた懇談会を実施。いつでも気軽に声をかけ合えるような顔なじみの関係を構築し、地域力を高めることを目的としている。

当日の様子

地域の方々や法人のスタッフを交え、様々なテーマから積極的な意見交換が行われていた。参加型の会として一緒に身体を動かしたり、頭を使ったりしながら、学びを深めるとともに和やかで活気あふれるひと時となっている。ランチタイムではワンコインの食事を食べ、にぎやかにおしゃべりを楽しんでいる様子だった。

地域の課題

毎月、定期的集う場があることにより、お互いになじみの関係が構築され、地域で安心して暮らすことができる環境づくりの一助となっている。今後も末永く活動を継続することが重要と考えている。

社会福祉法人村山福祉会 特別養護老人ホーム伊奈平苑 地域高齢者を招いてのアフタヌーンコンサート

- 開催日程 10/13 14:00~15:10
- 参加団体 中原自治会、中原寿会
- 参加人数 30名

実施の目的

施設近隣にお住まいの高齢者などを招待したコンサートを通じて、地域のニーズや課題を知る。

当日の様子

参加者は、円卓のテーブルに座っていただき、お茶とお菓子とともに、午後のひと時をリラックスした気持ちで音楽を聴いていただいた。

コンサートはヴォーカル、ヴァイオリン、ピアノのアンサンブルユニットのプロの音楽家を招いて、クラシック、ミュージカル、映画音楽、歌謡曲などジャンルを問わず幅広い曲の演奏があり、大変よい雰囲気であった。

歌謡曲については事前に歌詞を配布したため、参加者が歌を口ずさむ場面も多く見られ、好評な様子であった。



地域の課題

併設の地域包括支援センターとも協働して、地域でひとり暮らしや日中ひとりで暮らしている高齢者等にも参加していただけるような企画内容をさらに検討していく必要があると感じた。

武蔵野市

その他

地域団体との協働

吉祥寺南町コミュニティセンター

(協力：社会福祉法人武蔵野 ゆとりえデイサービスセンター)

親子広場

- 開催日程 毎月第2金曜 11:00~11:30
- 参加団体 吉祥寺南町コミュニティ協議会、ゆとりえデイサービスセンター
- 参加人数 150名

実施の目的

地域に住む子育て中の親子（乳幼児の親子）に、地域の高齢者福祉施設に足を運んでいただき、デイサービス利用者（高齢者）と交流を図る。また、親同士子育て談義を通して交流を深める。

当日の様子

当日は吉祥寺南町コミュニティ協議会の親子広場担当4名が参加し、運営のサポートをしていただいた。

毎回、5組程度の乳幼児親子が参加し、デイサービス職員が進行役となり、歌や手遊びなどのプログラムを実施した。

デイサービス利用者の中にはリピーターの子どもの名前を覚え、毎回会うのを楽しみにしていられる方もいる。乳幼児との交流では、デイサービス利用者の笑顔があふれ、ふれあいを通して子どもの新たな一面を見た親が喜び、和やかな雰囲気の中で時間を過ごしている。

親同士の交流も深まった。

地域の課題

今後も、毎月第2金曜日の活動を継続していく。

高齢者と過ごす機会の少ない子どもたちと独居で乳幼児と過ごすことがない高齢者との交流の場となっている。また、若い世代の親にデイサービスセンターのことを知ってもらう良い機会としていきたい。

社会福祉法人とらいふ 関前コミュニティーセンター (協力：特別養護老人ホーム とらいふ武蔵野)

関前コミセン祭り

- 開催日程 ①11/10 13:00~16:00
②11/11 10:00~15:30
- 参加団体 特別養護老人ホームとらいふ武蔵野、特別養護老人ホーム武蔵野館、桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター、グループホーム光風荘、関前福祉の会、シルバー人材センター、関前地区青少協
- 参加人数 1000名

実施の目的

新旧住民の交流や世代間交流を深めより一体感のある地域活動ができる基盤をつくる。複数の高齢者施設と共同でブース展示を行い、施設への理解と地域住民との交流を深める。

当日の様子

この時期にしては暑いくらいの陽気で、例年より2割近く多い来場があった。これまでブース展示に参加していなかったグループホームにも声を掛け、利用者の作品を展示して盛大な高齢者施設ブースを作りあげている。各施設の利用者も職員に付き添われブースを訪れた際には、「こんな風にみんなに見てもらえるならもっといい物を作らなきゃ」と来年に向けての意欲をみせていた。102歳の利用者は会場で振舞われたカレーライスを完食し周囲の人を驚かせていた。

非常に和気あいあいとした「これぞ地域交流！」といったイベントとなっていた。

地域の課題

新しく関前地区に移り住んできた住民、特に若い世代とのコミュニケーションが十分に行われていない状況がある。

また、地域そのものが高齢化していく中、世代間交流が進まず、地域にある諸団体の担い手が不足している。

関前コミュニティーセンターと高齢者施設とのさらなる連携による居場所づくりをすすめ、地域内にある各種団体と連携しながら、世代間のニーズを踏まえた交流をより促進していきたい。

社会福祉法人黎明会 小平市地域包括支援センターけやきの郷 オレンジカフェ

- 開催日程 毎月第4木曜 13:00～16:00
- 参加団体 市民ボランティア（コーラス、楽器演奏等）、民生委員、認知症ボランティア
- 参加人数 120名

実施の目的

認知症当事者やその家族、認知症について学びたい方が集い、認知症に関する知識をともに深め、参加者同士の交流を図る。

当日の様子

ボランティアが実施する演目を楽しんだり、認知症に関する情報について楽しく学習することができている様子。毎回参加している人同士で親しく交流ができ、和気あいあいと楽しい集まりになってきている。

地域の課題

今後も引きこもりがちなひとり暮らし高齢者や、二人世帯高齢者などがいつでも立ち寄ることができる場所になれるよう活動していきたい。高齢者が様々な相談をしやすい居心地の良い場所を提供していく活動として継続していきたい。

東村山市高齢者福祉施設連絡会 お年寄りの手作り作品展

■開催日程 10/11～10/14

■参加団体 東村山市高齢者福祉施設連絡会メンバー

■参加人数 859名

実施の目的

高齢者福祉施設と在宅で生活している高齢者の手作り作品をともに展示し、相互交流の場とする。また、市民に広く高齢者福祉の一端を理解してもらうことも目的としている。

当日の様子

昨年と比較すると来場者は減少した（昨年913名）が、明るくなって見やすくなった、作品を販売してもらえないかなどのご意見をいただいた。

また、作品に対してだけでなく、参加施設に対する質問（どのような施設か、入所はできるのかなど）もあり、広い意味で施設のことを知っていただけたと思う。

今後は、地域の来場者を増やす工夫が必要。

地域の課題

<今後の活動予定>

- ・会員施設栄養士による地域活動（通年）
（高齢者幸せの会主催「おじいちゃん・おばあちゃんの料理教室」協力）
- ・テーマ別研修会
 - ①職員研修（11/14）
 - ②地域向け施設見学会「となりのホーム」（3月）
- ・介護職短期派遣研修（11月）
- ・職員親睦交流会（11月）
- ・栄養士研修

東村山市

その他

学びの機会

東村山市内社会福祉法人連絡会 東村山市内社会福祉法人連絡会パネル展

■開催日程 10/22～10/26

■参加団体 村山苑、緑風会、東村山市社会福祉協議会、山鳩会、天童会、東村山
けやき会、そらの会、はるび、いずみ、土の根会、林檎の木、東京蒼
生会、梨世会、恩賜財団東京都同胞援護会、東京都社会福祉事業団、
七日会、白十字会、東京コロニー、大典福祉会、慈光会、敬愛会

■参加人数 278名

実施の目的

東村山市内の社会福祉法人および社会福祉法人連絡会のPR（施設や事業の紹介だけでなく、暮らしの相談窓口としての社会福祉法人の周知を図る）

当日の様子

1階ロビーでのパネル展のため、市役所に別の用事で来所されている方が、ついでに立ち寄ってみたい質問している様子が印象的だった。市役所1階という好立地もあり、足をとめてパネルをご覧になる方、受付の法人職員に質問をされる方、受付に設置した各法人施設のパンフレットや連絡会のチラシなどを手に取る方など、連日多くの来所があった。

地域の課題

質問の内容は、施設入居や利用に関するもの、健康状況悪化に伴う日常生活の困りごとの相談先に関するもの、仕事をリタイヤした方や精神障がいの方の家族の、日中の居場所を探されている方からの相談など多岐であり、内容も切実であるため、社会福祉法人施設への潜在的なニーズは非常に大きいと感じる。

地域の方に社会福祉法人を身近に感じてもらい、活用してもらうための一助として、来年度はよりわかりやすいパンフレットの作成や、連絡会で取り組んでいる「暮らしの相談ステーション」ののぼり旗の会場設置なども検討し、パネル展の充実を図りたい。

東村山市内社会福祉法人連絡会 市民に向けたイベントの開催

■開催日程 9/1～11/24

■参加団体 (以下全て社会福祉法人) はるび、東京蒼生会、東京コロニー、慈光会、東京都社会福祉事業団、天童会、白十字会、緑風会、土の根会、村山苑、梨世会

■参加人数 800名

実施の目的

市民が気軽に参加できるイベントを開催することで、市内の社会福祉法人やその施設をもっと身近に感じながら、知ってもらう。

当日の様子

18種類の多岐にわたるイベントが市内社会福祉法人連絡会の各法人施設等で開催された。(健康体操教室、親子の広場、フリーマーケット、おはなしコンサートなど)

【八国山フリーマーケット】28団体と個人の出店があり、障がい・高齢・児童と分野を超えて多様な催し物があった。若い世代から年配の方たちまで、地域の多世代の方々が足を運んでくださっている姿が印象的だった。

【AUTUMN FESTIVAL2018】障害者施設「希望の郷東村山」をメイン会場に、模擬店や移動水族館など、地域の方とも触れ合えるお祭りを開催。園の子どもたちと一緒に屋外ステージにて「エビカニ体操」を踊ってもらうなど笑顔と拍手につつまれたお祭りとなった。

【交流サロン】事業所内に喫茶コーナーを設置し、介護にまつわる何でも相談や「脳活性化プログラム」体験コーナー等、地域の方との交流の場となった。

地域の課題

単にイベントを開催するだけでなく、地域の中で分野を超えたつながり、世代を超えたつながりをつくる、地域福祉に着目した活動をしていくことが目的。主催側である事業所の利用者や家族だけでなく、地域の方に事業所や社会福祉法人の存在を知ってもらうために、だんだんとイベントも「皆が楽しめる」ことに主軸を置いて開催されてきている。

イベント自体は数も増えてきているので、より多くの地域の方に参加をいただくためには、次年度以降は広報のやり方や時期が、課題の一つになると思われる。

東村山市

特養

カフェ・居場所

社会福祉法人はるび

①ふらっとカフェ ②つなひろランチ

■開催日程 毎月第3月曜 10:00~12:00
②11/19 12:00~13:00

■参加団体 高齢者見守りネットワーク「秋津あんしんネット」、東村山市社会福祉協議会（まちづくり支援係）、東村山市東部地域包括支援センター、秋津町福祉協力員、東村山市役所（健康増進課）

■参加人数 105名

実施の目的

- ・誰もが安心して暮らせる街づくりの一環として
- ・社会福祉法人や施設のPRとして
- ・認知症高齢者や、MCI高齢者の居場所づくりとして
- ・介護されている家族の情報交換や息抜きの場所として



当日の様子

- ・つなひろのパンフレット経由での参加者はいなかった（自施設のPRによる参加者のみ）。
- ・施設で初のランチ開催であったためか、事前申し込みとしたがすぐに満員御礼となった。
- ・定例のカフェに来たことのない方が、ランチの前のカフェから参加してくれた。
- ・ランチ当日、急遽の申し込みが2名あったが、臨機応変に対応できた。
- ・「普段は家で黙ってひとりでご飯を食べているでしょ、こういう機会があって本当にありがたかったわ」との感想がとても印象的だった。
- ・今年も多くの関係団体と一緒に取り組むことができた。

地域の課題

- ・地域住民が主体の見守り団体と共催している認知症カフェであるため、地域のニーズも把握しやすく、カフェに参加された方へのサロン活動の案内などもスムーズに情報提供ができていた。今後もこの形を継続させていきたい。
- ・初のランチ開催だったが、地域住民のニーズの高さを把握することができた。（申し込み多数にて定員オーバーとなり、お断りした方もいた）今後もそのニーズに対応していきたい。
- ・社会福祉法人の責務として、今後も様々なアイデアをもって、地域活動を続けていきたい。

社会福祉法人白十字会
白十字ホーム八国山フリーマーケット実行委員会
第6回 八国山フリーマーケット

- 開催日程 10/14 10:00~15:00
- 参加団体 民生委員、地域ボランティア、市内障害者関係社会福祉法人、社会福祉法人白十字会他事業所、白十字ホーム
- 参加人数 500名

実施の目的

近隣住民相互の交流や高齢者福祉の理解を深め、住民相互そして施設との連携力の向上と地域の福祉文化を充実する大切な機会とし、安心して暮らし続けることができる町づくりに寄与する。



当日の様子

雨天のため、屋内での開催であった。地元の子どもたちによるお囃子や和太鼓演奏、近隣保育園園児による踊りや父兄によるバンド演奏、障がい者の方によるバンド演奏、近隣中学校生徒によるブラスバンド演奏が実施された。高齢、障がい、児童と他分野による交流や、子どもから高齢者まで多世代による交流もあり、地域の中でつながりをつくる機会となった。ハロウィンの時期ということもあり、仮装をした子どもたちへのお楽しみ抽選会があり、白十字ホーム利用者から抽選に当たった子どもたちにプレゼントが渡され、会場は大盛り上がりとなった。

地域の課題

第6回ということで、地域のなかで徐々に浸透している実感がある。この時期に開催される地域イベントとして、出店への参加や余興への出演を楽しみにしている方も多い。今後も地域の欠かせないイベントとして、地域がつながり、ひろがり、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるような活動にしていきたい。

東村山市

その他

その他

東村山市内社会福祉法人連絡会 施設・事業所の市民オープン見学会

- 開催日程 9/14～11/12
- 参加団体 (以下全て社会福祉法人) いずみ、東京コロニー、七日会、白十字会、村山苑、東村山けやき会、土の根会、慈光会、ユーカーリ福祉会、大典福祉会
- 参加人数 8名

実施の目的

地域に密着した社会福祉法人を目指し、社会福祉法人が運営する施設や事業所および事業をより広く地域の方に、見て、知って、理解してもらおう機会をつくる。

当日の様子

市内14か所の法人施設にてオープン施設見学会を開催。

実際に見学者があったのは、白十字会「白十字ホーム」のオープン施設見学会だけだった。

今年は特別養護老人ホーム「白十字ホーム」、介護老人福祉施設「東京ばんなん白光園」に加え、新たに東京白十字病院も見学施設対象とした。参加者は、すでに家族の介護をしている方や、自身の老後を心配されている方など、身近に介護を感じている方が多く参加していた。

地域の課題

白十字八国山フリーマーケットのチラシに案内を載せ、地域の方に配布した結果、8名の参加希望者があった。

企画全体としてはオープン施設を実施しても見学希望者が集まらない施設が多く、やはり広報が上手くいっていないと感じている。

地域に高齢者が多く、社会福祉法人の施設への需要がないとはいえない状況の中で、いかに施設に足を運んでいただくか、つながりを持っていけるかは、情報発信力によるところが大きいと感じている。次年度へむけて、地域の方への周知の仕方について、連絡会として再検討していきたい。

社会福祉法人マザアス マザアス東久留米 オレンジカフェ「和」(なごみ)

- 開催日程 4月～11月の毎月第4月曜 14:00～16:00
- 参加団体 認知症サポーター、東久留米東部地域包括支援センター
- 参加人数 70名

実施の目的

認知症の有無にかかわらず同じ地域に住む高齢者が気軽に集まり、認知症予防プログラムや介護予防体操などとともに、定期的に開催することで健康的な日常が送れるよう支援する。

当日の様子

11月は、10人の地域在住の高齢者が集まり、11月の歌を歌ってスタートした。メインのプログラムでは、「フラダンス」のボランティアによるダンスを見ながら、一緒に踊った。フラダンスの動きの説明を聞いて真似しながら笑顔で参加していた。歳を取っても踊れる、との話には大変興味を持っている様子だった。その後、交流会となり、お茶とおやつでおしゃべりを楽しんだ後、参加者の方が自作の紙芝居を披露し、最後まで充実した時間だった。

地域の課題

現在10人程度の方が参加されている。参加者が増加する中、特に男性で独居の方の参加が徐々に増えている。定期的開催をしていくうちに、ひとり暮らしの寂しさを訴えた方がおり、参加者の声を聞くことも増えた。オレンジカフェが顔なじみの関係になり、話しやすい場所として地域での必要な取組みとなっていることを感じている。個々の高齢者が抱えている課題を見つけ、新たな支援につなげる役割が果たされるようにしていきたい。

東久留米市

特養

カフェ・居場所

社会福祉法人マザアス マザアス東久留米 歌声マザアス

- 開催日程 4月～11月の毎月第3土曜 14：00～15：30
- 参加人数 56名

実施の目的

懐かしい歌や童謡、新しい歌謡曲までジャンルを超えて歌を楽しみ、声を出すことで脳内のドーパミンを増やし、ストレス発散から認知症予防や脳の若返りを図る。

当日の様子

開始前にコーヒーを楽しみ、音楽療法士と協力の上、歌声喫茶風を実施した。参加人数は少ないが、顔なじみの方が増えている。90分間に18～20曲を歌い、間に休憩や簡単な体操を取り入れている。参加されている方は70～80歳台が中心だが、歌好きな方ばかりで声も大きく、20曲近くをしっかりと歌っていた。毎月、季節に合った歌や参加者のリクエストにも応えており、楽しまれている様子が感じられた。

地域の課題

まだまだ参加者が少なく、アピールする必要があると感じる。地元の高齢者の参加を呼び掛ける機会として、オレンジカフェでの紹介をしたところすぐに参加があった。様々な機会を通して、歌の会の参加を呼び掛けていきたい。

東久留米市介護サービス事業者協議会

**東久留米福祉フェア2018 11月11日は「介護の日」
～考えてみよう家族の介護、広げていこうオレンジの輪～**

■開催日程 11/10 10:00～17:00

■参加団体 協議会：高齢者福祉施設、高齢者保健施設、居宅介護支援事業所、通所介護、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、配食サービス、グループホーム

共催：東久留米市福祉保険部介護福祉課、明治薬科大学附属薬局

■参加人数 290名

実施の目的

11月11日「いい日、いい日」の「介護の日」にちなみ、市内介護サービス事業者や共催団体が、介護にかかわる相談、介護事業の紹介を行い、地域包括ケアシステムが広く市民に浸透するよう、広報活動を行う。

当日の様子

当日は、天気にも恵まれ290名の方に来場していただいた。80歳代以上の方が21名で、幅広い年齢層の来場があった。家族連れも多く、子どもたちのためのキッズコーナーも盛況であった。当日、介護事業の紹介・相談の他に、認知症サポート「はじめての声かけ訓練」のセミナーも行った。これはミニ講座と、模擬体験訓練とからなり、訓練では、職員が、迷っている認知症高齢者に扮し、声かけをしていくということを行った。どの参加者も、真剣に取り組んでいた。アンケートでも、今後も続けてほしいという意見を多数いただいた。

地域の課題

内容のより一層の充実を図り、来年度も11月に開催する予定である。さらに、もっと多くの人に浸透していくよう「介護の日」のイベントの他にも広報活動を行っていく。

東久留米市

特養

地域交流

社会福祉法人マザアス マザアス東久留米 とも・いきマザアスバザー

- 開催日程 10/28 10:00~13:00
- 参加団体 火曜市会、ブレッチェン、モナモナ、ホームケアセンターイワサキ、リーフメディカル、メモリアルヨーコー、東久留米市東部地域包括支援センター
- 参加人数 100名

実施の目的

老人ホームに住む高齢者たちと同じ地域に住む住民や子どもたちとゲームやバザーで交流を行い、地域のつながりを再認識する。

当日の様子

これまで敷地内の屋外開催を実施してきたが、今回の開催より屋内開催とした。天候にも恵まれ、多くの方々が来場した。施設入居者にとって多くの来訪者の賑わいはあまりないことであり、貴重な機会となっていた。

地域の課題

新しい取組みを考えることも大切であるが、バザーを楽しみにされている方々も来所するので、変わらず継続して取組んでいくことも大切であると考えている。このような地域交流の場を継続していきたい。

社会福祉法人三育ライフ シャローム祭

- 開催日程 11/4 10:00~15:00
- 参加団体 社会福祉法人リブリー、社会福祉法人しおん保育園、NPO法人チャレンジジャパン工房モナモナ、三沢かご店、NPO法人高齢者在宅介護支援センタースマイルアーク、社会福祉法人マザアス、なんくるエイサー、東久留米児童合唱団そよかぜ、泉会、東久留米市立南町小学校、子どもセンターひばり
- 参加人数 600名

実施の目的

地域の方々や法人との協力の「輪」で祭りをつくりあげながら、地域の方々が楽しんで交流できる「輪」を広げる。

当日の様子

107歳の利用者の開会宣言で始まり、毎年恒例となった沖縄エイサーの太鼓の音に、近所の方々が集まった。近隣の事業所や近所の方々の協力によるフリーマーケットや模擬店也大盛況だった。また、今年は子どもの来場も多く、子どもコーナー也大盛況であった。着ぐるみのアクティブル君の登場で会場はさらに盛り上がった。屋内イベントでは、児童合唱、民謡、楽器であるライアーの演奏を加え、たくさんの方が鑑賞した。小学生から大人までたくさんのボランティアの協力もあり、肌寒い天候だったが、今までにない程の来場者数で、楽しんで交流できた一日であった。



地域の課題

毎年このお祭りへの出店や参加を楽しみにしてくださっている協力事業者や団体が定着し、こちらからお願いする前に、連絡をいただく事が増え、嬉しく思えた。今後も地域で協力し合うことで、しっかり顔の見える関係で災害時や緊急時にも相互に支え合えることに繋がるのではないかと考えている。

社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム、聖ヨセフ老人ホーム ふれあいバザー

■開催日程 11/3 10:00~14:00

■参加団体 ボランティア（秋津教会、小平教会、東星学園等）、よさこいソーラン清瀬、マ・メゾン光星、どんぐり、ボーイスカウト清瀬第2団、山下花店、ホームケアセンターイワサキ、聖ヨセフ老人ホーム職員OB、河野屋、慈生会本部

■参加人数 400名

実施の目的

バザーを通じて、地域の方々やホームの利用者、家族等の交流を深めながら、2つの老人ホームをはじめとする社会福祉法人慈生会の事業を知っていただく。

当日の様子

当日は青空が広がり、絶好のバザー日和となった。ホームと同一法人が運営する児童養護施設がどんぐり祭を開催し、ベトレヘムの園病院、ベタニア修道女会もふれあいバザーと同時に模擬店などを催す一大行事となっている。

今年は、児童養護施設が新築されて初めての開催となったため、これまでと人の流れや会場の配置が異なり、手探りの部分もあった。

子ども、高齢者、家族連れなど多くの地域の方々が来場され、模擬店の飲食物のほとんどが14時のバザー終了時間を待たずに完売となるなど大変盛況であった。

地域の課題

20年以上続くふれあいバザーだが、今年は会場の配置が新たになった。来場された地域の方々も、少し勝手が違い戸惑う様子も見られたが概ね好評であった。今年は、渋谷清瀬市長も来場され、バザーの活況を感じていただいた。

清瀬市の梅園、竹丘地区は、病院や社会福祉施設が多い地区であるが、それぞれの施設が行うバザーや納涼祭は取組みを通じて地域の方々に定着している。今後も地域のニーズに合わせて、ホームの持つ様々な機能を生かして地域活動に貢献していきたい。

社会福祉法人常盤会 高齢者在宅サービスセンターみずほ くりの里サロン

- 開催日程 11/25 11:00~14:00
- 参加団体 瑞穂町栗原町内会、ボランティアセンター
- 参加人数 27名

実施の目的

親睦を高めるための会食やレクリエーションを行い、地元町内会の概ね60歳以上の方に高齢者福祉施設をもっと身近な存在として理解を得ることに加え、自主的に地域交流活動サロンを展開し、施設職員との共同体を構築することを目的とする。



当日の様子

今回は、けんちんうどん、お稲荷さんをメニューとした調理を行った。リピーターを中心とした女性の参加者は手際よく食材をカットし料理をすすめ、連携をとっていた。対して、男性の参加者は、デイルームにあるマシンでトレーニングを行ったり、マッサージ機を利用したりしていた。ガスコンロの火力が弱く、調理に1時間半程度かかったものの、時間内に会食をすることができた。思っていた以上に食事の量が多く、お腹がいっぱいになった様子だった。会食の後は、カラオケを行い楽しい一日となった。

地域の課題

サロンの開催に伴う主導権が施設中心となってしまう、地域からの要望などが上手く取り入れられないことが課題。今後は、活動について地域の方々と話し合いの場を設け、今後に活かしていきたい。

瑞穂町

特養

介護予防・高齢者支援

社会福祉法人瑞仁会 特別養護老人ホーム良友園

ふれんどサロン

- 開催日程 ①9/18 10:30~12:15
②11/20 10:30~12:15
- 参加団体 良友園職員（ふれんどサロン実行委員会）
- 参加人数 43名

実施の目的

地域住民との交流を通じて、施設を身近に感じてもらい、参加者の健康維持などに貢献する。また、地域の課題を知ることで、今後の地域貢献につなげていく。



当日の様子

機能訓練指導員による健康体操で全身をほぐした後、身体を使ったゲームを行った。うまくいかないことも含め楽しんでいただき、笑い声にあふれていた。

その後、昼食に良友園特製のカレーライスを食べ、参加者や職員との交流を図った。「2ヶ月に1回ではなく毎月行ってほしい」「カレーがおいしい」など好評な様子であった。

地域の課題

当施設以外のサロン活動にも参加されている方も多くなか、このようなイベントがないと外出しにくいとの声も聞かれた。

また、「同居家族も少なく、家庭内での食事量も多くないので、家庭ではあまりカレーライスを作らなくなった」との声もあった。

外出の機会をつくること自体が重要だと分かった。今後も、現在の内容を継続しつつ、参加する方々に喜んでいただく活動を検討していきたい。

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホームやすらぎの家 施設と地域の相互行事をとおした災害連携

- 開催日程 8/5 17:30~19:30
- 参加団体 青梅市吹上自治会、山吹会、嘉志和会、青梅市吹上中ときわ学級、親和会、和楽クラブ、吹上子供会
- 参加人数 150名

実施の目的

施設の夏祭りの準備、運営、片付けなどを全て地域を支える各種団体と協働で行うことにより、施設にある災害時使用できる物品を把握し、日頃から相互連携ができる地域とのネットワークを構築する。

当日の様子

当日は、同じ月に開催する地域の盆踊りの準備として、近隣の運動場の草取りを一緒に行って後、当施設に移動し夏祭りの準備をすすめた。自治会役員は年度で替わることが多く、本年度も新しい役員が当施設の様々な災害に使用できる発電機、テント等の把握を行った。

16時に再度施設に集合し、地域の方による模擬店、老人会による盆踊りを行った。このため、職員と家族は利用者の誘導介助にあたることができ、ほぼ全員の利用者が参加できた。

地域の課題

年々、新しい住宅が建ち、住民は増えているが、自治会加入率は低下していることが課題となっている。また、高齢となり、自治会活動ができなくなると脱退する人も多い。

地域には要・支援者がたくさんいるが、自治会へ加入していない方が多い状況である。以前までは自治会長、民生児童委員に要支援者に関する名簿が市より渡されて把握できていたが、現在は個人情報保護の観点から把握できていない。

今後、施設独自で災害用品の備蓄を計画しているため、災害時に連携し、施設からの災害時サービスを受けるためにも地域住民へ自治会加入をアピールし続ける必要がある。

青梅市

特養

学びの機会

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホームやすらぎの家 ときわ学級と利用者の交流とボランティア活動

- 開催日程 平成30年4月～平成31年3月の間、不定期開催
- 参加団体 青梅市立吹上中学校「ときわ学級」
- 参加人数 200名

実施の目的

学習障害のある中学生が施設利用者との多世代交流により、人を喜ばせる体験や、社会性を身に着ける体験を経て、ボランティア活動の価値を学ぶ。

当日の様子

毎月第2火曜日の16時～17時が活動時間となっている。ときわ学級の生徒5～7名が担任の先生とともに来苑し、季節ごとの行事の準備を利用者7～9名程度と一緒に活動している。年間を通しての活動であるため、利用者、生徒ともに顔なじみの関係となっている。利用者は異なる世代の子どもたちが来ることを楽しみにし、生徒も利用者が一緒に活動することを楽しんでいる様子であった。

この活動において、ボランティアコーディネーターの指導により、利用者との生徒の会話を促進するアプローチのもと、和やかな雰囲気、活動が行われていた。

地域の課題

活動を開始して2年が経過し、担任の先生も活動を継続したい意向であるが、校長先生、担任の先生も異動があるため、次年度への継続は3月にならないとわからないところが課題となっている。

また、ときわ学級の生徒は広範囲の学区から通ってきていることや、学習障がいレベルも大きく格差があり、情緒障がいのある生徒も同じクラスで学んでいる。そのため、ボランティアコーディネーターがこれら生徒のできることを理解した上で利用者とともに活動できるプログラムを企画することが難しくなり、工夫が求められている。

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園 武蔵野小学校タウンワークス

- 開催日程 9/18、9/28、10/4、10/19、10/26、11/2
16:00~17:00
- 参加団体 羽村市立武蔵野小学校
- 参加人数 51名

実施の目的

近隣地域の小学生と入居者が遊びを通じて触れ合い、生活の楽しみや高齢者理解のきっかけをつくる。学校や保護者とともに、学校ではできない実践的な活動から、他者を思いやる気持ちを育てていく。



当日の様子

1回の参加児童は6~12名程度。数週間前から児童たちは、出し物などを企画し、入居者に分かりやすく伝える方法や喜んでもらえる工夫等を考え、準備をしていた。当日、折り紙を準備してきた児童は「折り紙の先生」となって、入居者と協力して作品を作っていた。一つ一つの活動に、会場の入居者からは、児童たちへの拍手と歓声があがっていた。児童たちは入居者から褒められた経験が喜びとなっている様子で、また来年も活動したいという声も聞かれた。

地域の課題

校長や副校長の異動のたび、タウンワークスの目的を説明し、学校の理解と協力を得て、10年以上継続した活動ができた。児童・保護者・学校に活動の意義が認識されてきていると感じる。今後も当園が地域住民から必要とされる存在となっていくための重要な事業の一つとして継続していきたい。

社会福祉法人秋川あすなろ会 あすなろみんなの家 ふれあいお茶飲み会

- 開催日程 9/18 11:00~15:00
- 参加団体 あきる野市 原小宮ふれあい福祉委員会、あきる野市 原小宮町内会
- 参加人数 42名

実施の目的

町内会の高齢者のふれあい・交流の場として、昼食やゲームを通じ、「笑って歌って元気よく」楽しいひとときを過ごす。「あすなろみんなの家」の事業や介護保険・高齢者福祉のサービスについて理解していただく。

当日の様子

会に先立ち、ふれあい福祉委員会が定期開催している「ウォーキングの会」があり、多くの方は都立秋留台公園でのウォーキングに参加した後に会場に集まった。

町内会長による挨拶の後、施設長より事業内容やサービスの利用方法、介護保険や高齢者向けの福祉サービスについて説明し、その後、当施設が用意した昼食、ふれあい福祉委員会の提供による飲物や菓子を囲んでの歓談、食後には演芸ボランティアによる全員参加型のステージやビンゴ大会など、よく笑い楽しい時間を過ごした様子だった。

地域の課題

当地区は高低差がある地形で、高齢等により地域行事への参加が困難となる場合（今回は自家用車での送迎が数名）や、買い物に不便が生ずる可能性がある。以前は区画整理事業後に転居されてきた方々の町内会未加入などの課題があったが、最近では町内会等の組織に加え自主グループが年中行事等で連動するなど、地域住民の参加が増加しており、強みとなっている。

本イベントは年に数回行われ、当施設が活用されている。健康づくり・認知症予防や施設・制度などの情報提供を続けてきているが、今後は地域ニーズを拾い上げる視点での取組みも強化したい。

社会福祉法人さくらぎ会 特別養護老人ホームこもれびの郷 地域防災訓練

- 開催日程 10/26 14:00~15:30
- 参加団体 東京消防庁秋留台出張所、あきる野市立東中学校、あきる野市みどりの里自治会
- 参加人数 113名

実施の目的

地域のマンパワーを結集し、昨今多発する自然災害に備えるため、チームワークを醸成する。また、地域の福祉拠点としてのこもれびの郷の設備、人的資源を広く住民に開示して、今後活用してもらうための足がかりとする。

当日の様子

- 10:00 スタッフ、中学生による予行演習とデモンストレーション。
- 13:30 消防署職員来園、打合せ。
- 14:00 地域住民来園 本番さながらの訓練開始。
- 15:00 消防署より講評。
- 15:30 参加者全員で非常食の試食会を行い解散。

地域の課題

毎年開催しているが、今までの積み重ねで地域とのつながりが強まっている様子。今年も、11月25日に行われた自治体主催の防災訓練にこもれびの郷のスタッフも参加させていただき、新たなステップを踏むことができた。今後もコツコツと活動を続けていきたい。

日の出町

特養

地域交流

社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム こどもランチ in ひのでホーム

- 開催日程 10/28 11:00~14:00
- 参加団体 民生委員、ボランティア、マウンテンズ（保育園・幼稚園の先生たち）
- 参加人数 103名

実施の目的

おいしいランチを食べたり、レクリエーション（マウンテンズの歌と踊り・こどもカラオケ大会）を楽しみながら、子育て世代・幼児・児童同士で楽しく交流を行う。



当日の様子

今回で5回目の開催となり、「前回参加して楽しかったから、また参加した」や「昨年参加した知人から聞いて今回参加した」などの声をいただき、少しずつだが地域の方たちにも浸透してきていると感じた。

食品アレルギーについては、参加申し込みのときに有無や品目を確認していたが、ビュッフェスタイルにしているため、メニューの前に表示することで、保護者も安心できていた様子だった。

参加者、協力いただいた団体も含め、「食事もおいしくとても楽しかった」という声が多く、ととても満足していただけた様子だった。

地域の課題

少しずつ認知されてきているので、イベントを継続し、定着させていきたい。

社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜

配食サンキュー弁当

- 開催日程 毎週月～土曜の昼食時間
- 参加団体 特別養護老人ホーム栄光の杜
- 参加人数 195名

実施の目的

地域に住む高齢者に、美味しく、バランスの良い食事を届け、健康の基礎作りの一助となることを目的とする。

当日の様子

配食サービスを始めてから、継続利用者も多く、顔なじみの関係が築けている。温かいお弁当を提供することで、利用者からも「温かくて、おいしい」という声もいただけた。

毎日の顔なじみの関係から、日頃の様子やその日の体調面も確認することができている。



地域の課題

高齢者の多い地域だけに配食はニーズが高いと考える。昨年同様、当法人の居宅介護支援事業所が担当している利用者限定したサービス提供になっているが、今後も地域包括支援センターや他事業所との連携で、困っている方々への助けになるよう、対象範囲の拡大が求められる。

あわせて、日曜日や夕食の配食サービス、そして安否確認ができる体制の構築が継続した課題となっている。

日の出町

複数施設共催

地域交流

社会福祉法人芳洋会 特別養護老人ホームひのでホーム 社会福祉法人道心会
特別養護老人ホーム藤香苑 社会福祉法人ほうえい会 特別養護老人ホーム栄光の杜

産業まつり de つながれ ひろがれ 日の出町の輪

■開催日程 ①11/3 10:00~16:00

②11/4 10:00~16:00

■参加団体 特別養護老人ホームひのでホーム、特別養護老人ホーム藤香苑、特別養護老人ホーム栄光の杜、他産業まつり参加団体

■参加人数 100名

実施の目的

毎年恒例の食品販売を通じ、地域における施設の存在を知っていただくこと。なじみの関係を築くこと。



当日の様子

3団体での産業まつりへの参加は今年で3年目を迎え、ひのでホームは焼きたてパン、藤香苑はEPA（経済連携協定）職員が作る本場の焼き春巻き、栄光の杜はタピオカミルクティーとホットコーヒーを販売し、2日間にわたるイベントで、2日目はあいにくの雨であったが、多くの来場者が訪れた。

毎年恒例とすることで、地域の方とも顔なじみになり、昨年同様、販売する側、購入する側、双方ともに楽しく、活気あふれるイベントであった。

地域の課題

産業まつりに継続的に参加していくことで、「ちいきの輪」を広げ、さらに地域とつながりが持てるようにしたい。継続して事業所として「何ができるか」を考えていきたい。

社会福祉法人福陽会 特別養護老人ホーム第2 サンシャインビル 認知症オレンジカフェ

- 開催日程 10/21 11:00~12:00
- 参加団体 福生市地域包括支援センター、介護プランセンターサンシャインビル、在宅介護支援センター加美
- 参加人数 17名

実施の目的

在宅で認知症介護に悩んでいる方は、介護疲れやストレスを抱え込んでいる場合がある。そのような方々を対象とした情報提供や情報交換から、ストレスの軽減や仲間作りを図り、前向きな介護観を持ってもらう事を目的とする。

当日の様子

毎年施設の文化祭の中で開催していることもあり、カフェ以外にも楽しめる催し物もあるため、参加を募りやすい状況だった。カフェは1時間と限られているため、例年より人数を減らし、ゆったりとした時間を作るようにした。学校行事の一環としてカフェに2名の高校生がボランティアとしてお手伝いに加わってくれた。認知症の人を支えている介護者の悩みを打ち明ける場所として、参加者の方々からは「自分だけではなかったと思えた」「少し心に余裕を持って交流することができた」と声が聞かれた。

地域の課題

認知症カフェの機能はまだ発揮できていない部分もあるが、まずは継続して開催していくこと、と考えている。

参加された方々の多くから、「このような場所は地域に見当たらず、貴重なこと」、といった声が聞かれた。市で行っている事業もあるため、話を聞きながらそちらへのご参加もお勧めしている。

これまでの3回の開催を通して、これからの時代には、公的機関や専門職だけでは限界があることが分かってきた。地域の方々と共に今後も活動を続けていくことで、地域住民が主体となれる活動が一つでも増える一助になればよいと考えている。

社会福祉法人福陽会 特別養護老人ホーム第3サンシャインビル 施設の食事を知ろう

■開催日程 11/29 11:30~14:00

■参加人数 8名

実施の目的

施設で普段提供している食事を食べながら、老人ホームとはどのような所なのか知っていただく。地域と施設が共存していけるようにする。



当日の様子

管理栄養士より、施設で提供している食事についての説明や療養食や食形態など、実際に提供している形態の食事を見て、試食していただいた。また、食事が食べやすい姿勢や食器類の説明、食事と排泄の関連などの説明も行った。その後、普段施設で提供している食事を食べ、施設内見学を行った。最後に、和菓子の練り切り作りを参加者と行った。参加者からも、「食事がおいしかった」「施設では様々なことが考えられていてすごい」という声があがった。参加者からの質問も多くあり、とても有意義な会となった。

地域の課題

参加者から、施設には入らず、「自分の老後は、自宅で過ごしたいと思っていたが、施設に入るのも良いなと思った」という声が聞かれた。老人ホームは入りたくないなどと思っている地域の方々も多くいると感じた。今後も、施設を知ってもらえるような企画を行い、地域の方々が気軽に足を運べる施設にしていきたい。

社会福祉法人福信会 特別養護老人ホーム 麦久保園

社会福祉法人溪流会 特別養護老人ホーム 草花苑

Ori Cafe (オリカフェ)

■開催日程 10/18 14:00~16:00

■参加団体 折立町内会ふれあい福祉委員、青蛾珈房（珈琲専門店）、あきる野市中央図書館

■参加人数 32名

実施の目的

1つの町内会のエリアに2つの特養が拠点を構える中、今までの暮らしを続ける上での生活のしづらさの緩和や解決を考え、この2施設を社会資源の1つとして活用していただくための関係性の構築と社会福祉法人連携のあり方を探る。

当日の様子

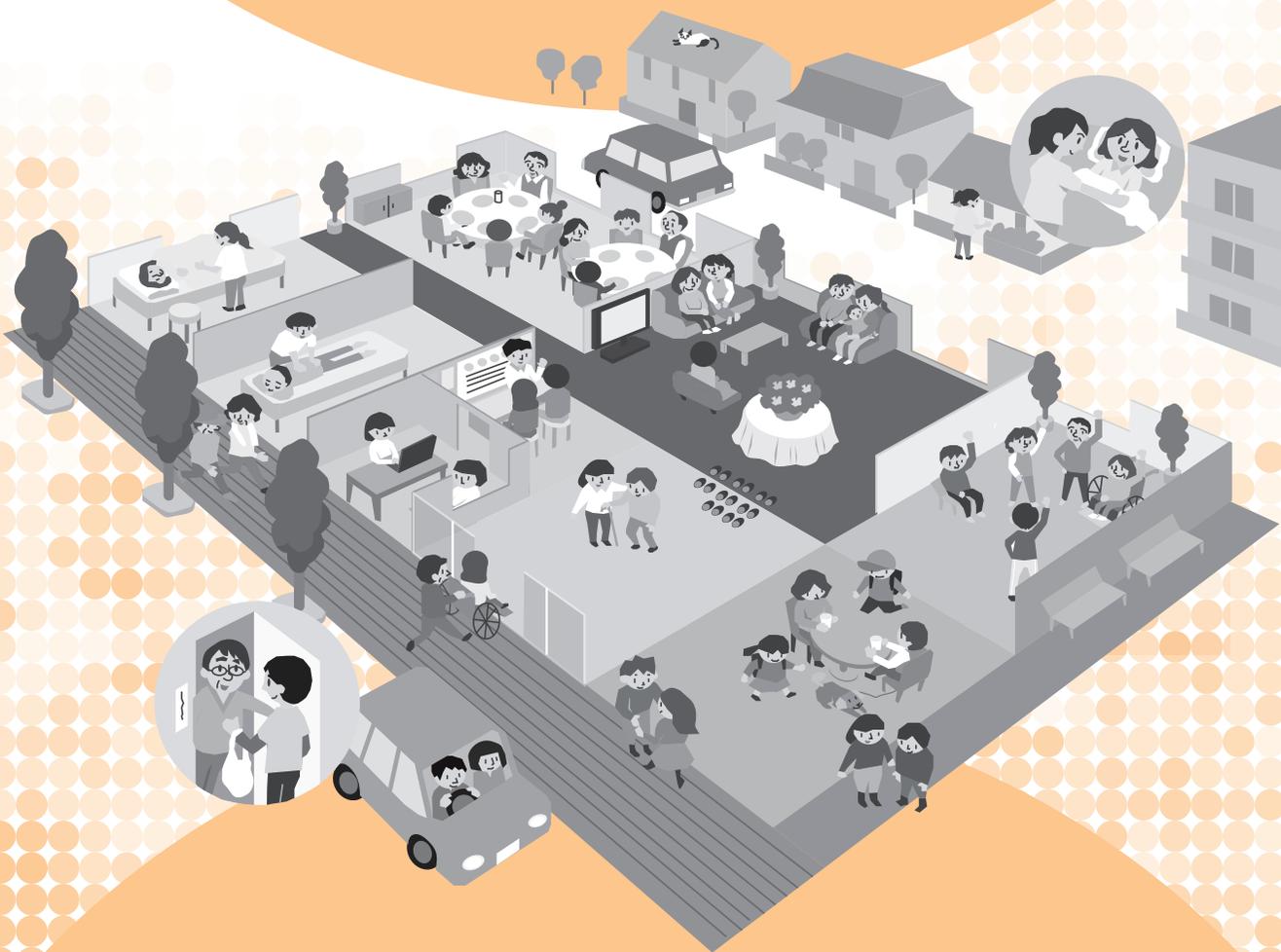
現在の活動としては、地域にない資源を取り入れながら、地域住民と施設職員が楽しめる時間を共有することから始めており、おいしい珈琲を嗜みながら懇親を深めている。

今回は、1時間ほど施設のリハビリ職員が音頭を取り、脳の活性化や可動域を広げる体操を音楽に合わせ実施した。参加者はたくさんの笑い声を響かせながら一汗掻き積極的に取り組んでいた。体操後は、カフェをオープンし、地域の老舗カフェのマスターがいる挽きたての珈琲と手作りケーキに舌鼓。机を囲みながら地域住人同士でお話が弾んでいた。

地域の課題

地域性として、勾配が多い地形の中にもかかわらず、公共交通機関が整備されていないために、移動手段に不安を抱える方が多い。そのため、足腰が弱ったり、独居や高齢者のみの世帯になると、地域に出づらくなり、地域の中で孤立してしまうことが考えられる。今できることとして、住民同士や施設職員が顔の見える活動としての実践だが、今後この活動がきっかけとなり、生活課題が生じた時に住民同士がインフォーマルな社会資源として、支えあえる関係性へとつながっていければと考えている。

資料





東社協 東京都高齢者福祉施設協議会

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO

《高齢者福祉施設・事業所を中心とした「地域に寄り添う」ための都内一斉キャンペーン》

参加施設・事業所の募集ご案内



「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」は、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざして、都内の高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人が中心に取り組むキャンペーンです。

皆様のご賛同と積極的なご参加により、高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人における地域の取り組みへの認知度が高まります。ぜひご参加ください。

1 目的

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が、地域に寄り添うことで「ちいきの輪」をつくります。

高齢者やその家族をとりまく課題が多様化・複雑化する中、社会福祉法人による高齢者福祉施設・事業所には、地域住民への寄り添い（アウトリーチ）に大きな期待が高まっています。

高齢者福祉施設・事業所を中心に、地域住民に向けた事業をとおして「ちいきの輪」をひろげる一歩として、このキャンペーンにご参加ください。

◎キャンペーンについて

都内の高齢者福祉施設・事業所が一つになって行うキャンペーンです。

○多くの高齢者福祉施設・事業所では、地域に根ざした活動に取り組んでいるものの、社会福祉法人としてPRする機会は、かならずしも多くはありませんでした。

○キャンペーンをとおして、高齢者福祉施設・事業所の取り組みを地域住民に知っていただけるよう、会員の施設名や法人名も含めた積極的なPRを行います。

施設・事業所らしい、地域に向けた活動によりご参加ください。

○地域住民への寄り添いが趣旨であれば、どのような事業でもご参加いただけます。

○単独の施設・事業所取り組む事業のほか、他の施設・事業所や、他法人及び他業種の福祉施設・事業所と合同の事業でもご参加いただくことができます。

○キャンペーン期間中（9月から11月）に実施する事業でのご参加をお願いします。

活動実績を踏まえ、福祉の理念のもとづく地域包括ケアの推進につなげます。

○キャンペーンのみに終わらないよう、各施設・事業所からの活動報告をふりかえりながら、福祉の視点による地域包括ケアの推進に向けた取り組みを行います。

多くの施設・事業所によるご参加によって効果的なPRができることから、積極的なご参加をいただくようお願いします。

あわせて、都内全区市町村でのキャンペーン参加をめざし、ブロック会や区市町村施設長会での呼びかけについてもご協力をいただきますようお願いいたします。

2 前回の状況—昨年度の実績より

前回のキャンペーンでは、会員の施設・事業所をはじめ地域の団体との協働により、のべ835団体により131事業を実施。39,711人の参加がありました。

<キャンペーンの様子>



日野市認知症月間
「お食事お困りごと解決コーナー」
日野市内特別養護老人ホーム（6施設）
の栄養士（日野市）



町会合同炊出し訓練
特別養護老人ホーム みどりの苑（板橋区）



小松の社の介護体験塾
特別養護老人ホーム 小松原園
（八王子市）

<実施データ>

取組み種別	事業数	構成比(%)
認知症への対応	7	5.3
介護予防・高齢者支援	13	9.9
アウトリーチ	3	2.3
相談・家族支援	1	0.8
カフェ・居場所づくり	15	11.5
地域住民の学びの機会	13	9.9
地域団体との協働	11	8.4
地域交流	56	42.7
防災への取り組み	3	2.3
その他	9	6.9

※その他詳細データはHPをご覧ください。

<おもな取り組み例>

介護予防教室や認知症カフェの開催
地域の高齢者宅への訪問活動
地域住民や家族への相談活動
施設を会場としたカフェや居場所づくり
福祉や健康に関する市民向け学習会
地元イベントの参加など地域団体との協働
まちづくり懇談会など地域内での交流会
福祉避難所設置訓練など住民向けの防災活動

施設のお祭りや
敬老の日のイベントなど
すでに行っている取組みでも
参加できるブル！



<キャンペーンに参加した施設・事業所担当者の声より>

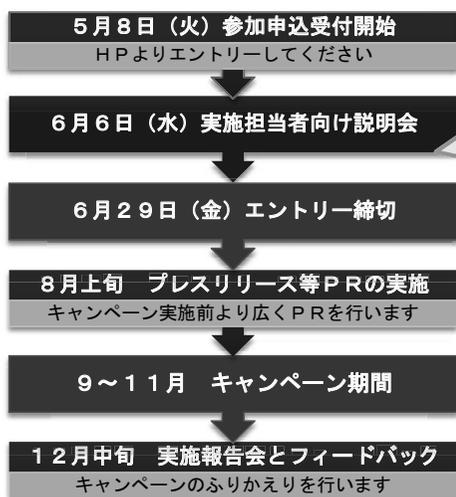
- ・新しいことではなくても、たくさんの事業所が参加することが大切だと感じました。
- ・他施設の担当者と話し合うことで、一人で悩んでいたことへのアドバイスがもらえました。
- ・キャンペーンをととして、地域の中での法人相互の連携が深まる可能性を感じました。



◎キャンペーン参加による3つのメリット

- 1 高齢者福祉施設や社会福祉法人に対する地域住民の理解が広がります
- 2 施設・法人における地域での新たな取り組みを行うきっかけにつながります
- 3 法人内の他事業所ならびに他の法人との連携をすすめるきっかけにつながります

3 キャンペーンの流れ



実施担当者向け説明会

日時 6/6 (水) 14:30~17:00
 会場 研究社英語センター地下2階大会議室
 内容 キャンペーン参加説明、情報交換、
 取組みのヒントに関する学習会など

※今年度参加予定の施設・事業所は可能な限りご参加ください。
 ※詳細は別途送付する開催案内をご覧ください。

4 Q&A

【Q】従来から実施している事業でも参加できますか。	【A】できます。従来の活動も含めてPRすることがキャンペーンの目的です。なお、キャンペーンを契機として、施設・事業所内で新たな事業を検討いただく形での参加も可能です。ただし、自治体の委託事業など主催が他団体の事業の場合、事前に主催団体に了承を得た上でお申込みください。
【Q】1日間、半日間、通年で実施している事業でも参加できますか。	【A】広く地域住民を対象とする事業であれば、実施時間や期間の制限は特にありません。
【Q】開催日時は施設側で決めてもよいのでしょうか。	【A】各施設でお決めください。その際、日程が重ならないよう近隣施設との調整をお願いします。
【Q】キャンペーン期間(9~11月)に行わなければいけませんか。	【A】一斉に行うことによるPR効果を企図しており、できるだけこの期間での開催をお願いします。
【Q】施設のある地域の在住者のみを対象とする事業でも参加できますか。	【A】ご参加いただけます。その場合、参加申込書の該当欄(参加条件)に記載ください。
【Q】会員以外の事業所との共同(高齢分野以外の施設等との連携を含む)での参加はできますか。	【A】可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、協議会の会員施設・事業所名でお願いいたします。
【Q】事業やイベントの経費負担、ブロック活動助成の活用方法について教えてください。	【A】事業やイベントの実施にかかる経費は、会員施設・事業所によりご負担ください。 なお、複数の施設・法人での合同事業など区市町村単位・地域ブロック会単位で活動を行う場合には、 <u>地域ブロック会活動経費、地域ブロック会協働助成事業をご活用いただくこともできます。その場合には、各地域ブロック会長または事務局までご連絡ください。</u> キャンペーン全体の広報・PRにかかる経費(キャンペーン紹介パンフレット等)は、東京都高齢者福祉施設協議会が負担します。
【Q】キャンペーン全体のPRはどのように行うのでしょうか。	【A】キャンペーンを紹介するパンフレットを作成の上、施設名や法人名、所在地、参加する事業やイベントに関する情報をまとめて掲載します。また、東京都高齢者福祉施設協議会のHPに掲載する他、行政や団体、メディアにも発信します。
【Q】高齢者福祉施設や社会福祉法人を紹介する市民向けパンフレットを作成する予定はありますか。	【A】東京都高齢者福祉施設協議会でパンフレットを作成の上、キャンペーンにご参加いただける施設にお届

<p>けします。イベント当日などに配布いただきながら、都内全体の取り組みとしてご紹介ください。</p>	
<p>【Q】キャンペーンのロゴや名称はありますか。それをどのように使うのですか。</p>	<p>【A】チラシやウェブサイト、また職員名刺や広報誌などに記載することで、趣旨に賛同しながら都内の高齢者福祉施設が丸丸となって行っている姿を伝えるよう、ロゴマーク使用にご協力願います。HPよりダウンロード可能です。</p> <p>また事業名称は、キャンペーンの趣旨にご理解をいただきながら、実施施設・事業所で任意に名称を設定いただいてもかまいません。</p>
	<p>【掲載例】</p> <p>つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 東京都高齢者福祉施設協議会 特別養護老人ホーム ○○苑 地域交流会・介護相談会 11月○○日(○) 10時～15時</p> 
<p>【Q】パンフレット以外の広報グッズはありますか。</p>	<p>【A】作成する予定です。参加施設・事業所にはキャンペーン実施前に配布いたします。昨年度は、ミニのぼり、アクティブルぬいぐるみなどを配布しました。また、キャンペーン期間中には、アクティブル着ぐるみを貸し出すこともできます。詳細は、事務局までお問い合わせください。</p>
<p>【Q】終了後の報告はどのように行うのでしょうか。</p>	<p>【A】事業レポート、活動に関する写真の送付をお願いします。</p> <p>レポートのフォーマットをHPよりダウンロードの上、作成し、事務局までお送りください。あわせて、HPやFacebook等に掲載可能な写真を1～2枚程度お送りください。レポートにて地域の方々の声、活動をとおして浮き彫りになった福祉課題などについて伝えます。</p>
<p>【Q】社会福祉法人ではなくてもキャンペーンに参加できますか。</p>	<p>【A】可能です。ぜひご参加ください。</p>
<p>【Q】会員以外の事業所との共同（高齢分野以外の施設等との連携を含む）での参加はできますか。</p>	<p>【A】可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、協議会の会員施設・事業所名でお願いいたします。</p>
<p>【Q】キャンペーンの事業に対するリスク対応について。</p>	<p>【A】事故等のリスクへの対応は、各施設・事業所でご対応いただくようお願いいたします。</p>
<p>【Q】地域における公益的な取組との違いについて知りたい。</p>	<p>【A】社会福祉法第24条第2項において、「すべての社会福祉法人は、その高い公益性にかんがみ、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない」という責務が課されております。</p> <p><地域における公益的な取組み要件> ※詳細は厚生労働省HPをご覧ください</p> <ol style="list-style-type: none"> ①社会福祉事業または公益事業を行うにあたって提供される「福祉サービス」 ②「日常生活または社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービス →心身の状況や家庭環境、経済的な理由により支援を要する者が対象。 ③無料または低額な料金で提供されるもの <p>つながれ ひろがれ ちいきの輪では、地域における公益的な取組も含め、地域住民の暮らしの中での困りごとなど、日々の出来事によりそい、高齢者福祉施設・事業所としてできることから支えていく活動であればどのような事業でも参加いただけます。また、「東京都地域公益推進協議会」（事務局：東社協経営支援担当）とは異なる高齢協独自の取組みであり、参加において会費を請求することはありません。</p>

◎参加申込みについてはHPをご覧ください。

▼東京都高齢者福祉施設協議会HP
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

東京 高齢協議会 で検索！

※つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO「参加施設・事業所専用ページ」よりお申込みできます。

◎お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当（佐藤・長谷部）

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635 メール：kourei@tcsw.tvac.or.jp

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2018 実施状況

1 実施期間

2018年9月1日～11月30日

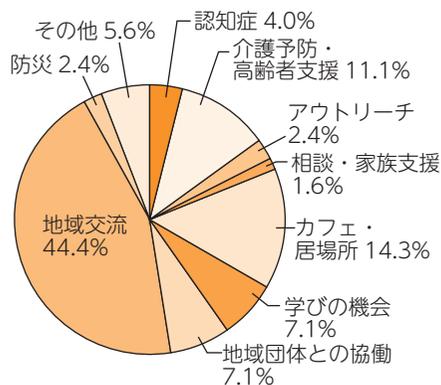
2 実施状況概要

	数	前年度数	増減
参加事業数	126	131	-5
参加団体数	917	835	82
参加者数	53,026	39,711	13,315
実施区市町村数	47	44	3

3 実施事業内訳

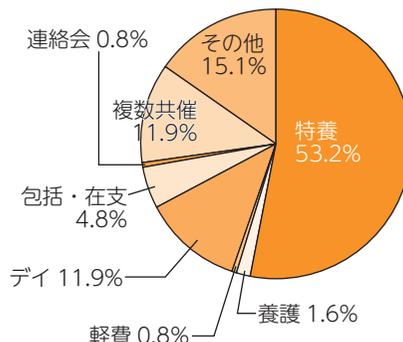
(1) 取組み種別

	事業数	構成比	前年度数	増減
認知症	5	4.0%	7	-2
介護予防や高齢者支援	14	11.1%	13	1
アウトリーチ(訪問活動)	3	2.4%	3	0
相談や家族支援	2	1.6%	1	1
カフェや居場所	18	14.3%	15	3
学びの機会	9	7.1%	13	-4
地域団体との協働	9	7.1%	11	-2
地域交流	56	44.4%	56	0
防災	3	2.4%	3	0
その他	7	5.6%	9	-2
合計	126	100.0%	131	



(2) 施設・事業所種別

	事業数	構成比	前年度数	増減
特別養護老人ホーム	67	53.2%	66	1
養護老人ホーム	2	1.6%	4	-2
軽費老人ホーム	1	0.8%	2	-1
デイサービスセンター	15	11.9%	14	1
地域包括支援センター	6	4.8%	5	1
在宅介護支援センター	0	0.0%	0	0
区市町村施設連絡会	1	0.8%	1	0
複数施設との共催	15	11.9%	16	-1
その他	19	15.1%	23	-4
合計	126	100.0%	131	



(3)地域別

		事業数	構成比	会員事業 所数 ※	数(ブロッ ク内事業)	ブロック内会 員事業所数	前年度数	増減
中央ブロック	島嶼部	1	0.8%	16	10	129	0	1
	千代田区	0	0.0%	10			0	0
	中央区	1	0.8%	7			0	1
	港区	0	0.0%	18			0	0
	品川区	4	3.2%	30			3	1
	渋谷区	2	1.6%	24			2	0
	新宿区	2	1.6%	24			2	0
城北ブロック	文京区	1	0.8%	16	15	107	1	0
	北区	3	2.4%	32			2	1
	豊島区	8	6.3%	23			13	-5
	板橋区	3	2.4%	36			4	-1
城東ブロック	台東区	3	2.4%	23	9	133	3	0
	荒川区	1	0.8%	20			1	0
	足立区	4	3.2%	52			3	1
	葛飾区	1	0.8%	38			2	-1
墨東ブロック	墨田区	3	2.4%	25	9	105	3	0
	江戸川区	5	4.0%	38			3	2
	江東区	1	0.8%	42			1	0
城西ブロック	中野区	2	1.6%	17	11	110	1	1
	杉並区	4	3.2%	32			2	2
	練馬区	5	4.0%	61			7	-2
城南ブロック	大田区	3	2.4%	45	9	106	1	2
	目黒区	2	1.6%	15			5	-3
	世田谷区	4	3.2%	46			5	-1
八王子ブロック	八王子市	4	3.2%	67	4	67	6	-2
南多摩ブロック	日野市	6	4.8%	14	11	90	7	-1
	町田市	3	2.4%	50			1	2
	多摩市	1	0.8%	18			1	0
	稲城市	1	0.8%	8			1	0
北南ブロック	三鷹市	2	1.6%	14	20	146	3	-1
	調布市	2	1.6%	22			2	0
	府中市	2	1.6%	27			3	-1
	小金井市	0	0.0%	9			0	0
	国分寺市	1	0.8%	8			1	0
	国立市	1	0.8%	4			1	0
	立川市	3	2.4%	20			1	2
	昭島市	6	4.8%	12			8	-2
	狛江市	0	0.0%	8			0	0
	東大和市	2	1.6%	12			2	0
北北ブロック	武蔵村山市	1	0.8%	10	15	111	2	-1
	武蔵野市	2	1.6%	23			4	-2
	小平市	1	0.8%	16			1	0
	東村山市	6	4.8%	21			6	0
	西東京市	0	0.0%	28			0	0
	東久留米市	5	4.0%	11			3	2
青梅ブロック	清瀬市	1	0.8%	12	5	49	1	0
	瑞穂町	2	1.6%	8			2	0
	青梅市	2	1.6%	32			2	0
	奥多摩町	0	0.0%	5			0	0
秋川ブロック	羽村市	1	0.8%	4	8	43	0	1
	あきる野市	3	2.4%	20			3	0
	日の出町	4	3.2%	11			4	0
	桧原村	0	0.0%	2			0	0
	福生市	1	0.8%	10			2	-1
合計	47	126	100.0%	1196	126	1196	131	

※会員事業所数、ブロック内会員事業所数は2018年12月現在

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2018 施設・事業所の合同実施状況

複数施設・事業所 共催

事業・イベント名	八王子介護フェア			八王子市		
主催団体名	社会福祉法人一誠会 社会福祉法人多摩養育園 社会福祉法人清心福祉会	開催日程	10/6	10:00~14:30		
参加団体	18団体 偕楽園ホーム、多摩特養老人ホーム、ファミリーマイホーム、高齢者あんしん相談センター左入、ファミリーイン堀之内、高月病院、三愛病院、相武病院、登芙蓉心成苑、大塚製薬株式会社、株式会社トーカイ、酒井薬品株式会社、パラマウントベッド株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、サポートセンターなないろ、西都ヤクルト販売株式会社、フローガーデンSORA、Poco a Poco					
テーマ	介護予防・高齢者支援	参加述べる人数	275名	取組み詳細	P100	

事業・イベント名	ふれあいお茶飲み会			あきる野市		
主催団体名	社会福祉法人秋川あすなろ会 あすなろみんなの家	開催日程	9/18	11:00~15:00		
参加団体	3団体 あきる野市 原小宮ふれあい福祉委員会、あきる野市 原小宮町内会					
テーマ	地域交流	参加述べる人数	42名	取組み詳細	P155	

事業・イベント名	げんき食フェスティバル			昭島市		
主催団体名	社会福祉法人同胞互助会 げんき食実行委員会（協力：特別養護老人ホーム愛全園）	開催日程	9/29	11:00~15:30		
参加団体	8団体 地域管理栄養士ボランティアグループ、昭島病院訪問看護、北部地域包括支援センター、東部地域包括支援センター、西部地域包括支援センター、同胞互助会、健康体操はつらつクラブ、導引養生功					
テーマ	介護予防・高齢者支援	参加述べる人数	80名	取組み詳細	P128	

事業・イベント名	家族介護者教室			昭島市		
主催団体名	社会福祉法人同胞互助会 昭島市西部地域包括支援センター愛全園	開催日程	9/12	10:00~12:00		
参加団体	6団体 昭島市役所、昭島市地域包括支援センター(北部、中部、東部)、同胞互助会栄養ケアステーション					
テーマ	相談・家族支援	参加述べる人数	35名	取組み詳細	P129	

事業・イベント名	産業まつり de つながれ ひろがれ 日の出町の輪			日の出町	
主催団体名	社会福祉法人芳洋会 特別養護老人ホームひのでホーム 社会福祉法人道心会 特別養護老人ホーム藤香苑 社会福祉法人ほうえい会 特別養護老人ホーム栄光の杜	開催日程	11/3 10:00~16:00、 11/4 10:00~16:00		
参加団体	3団体 特別養護老人ホームひのでホーム、特別養護老人ホーム藤香苑、特別養護老人ホーム栄光の杜、他産業まつり参加団体				
テーマ	地域交流	参加述べ人数	100名	取組み詳細	P159

事業・イベント名	Ori Cafe (オリカフェ)			あきる野市	
主催団体名	社会福祉法人福信会 特別養護老人ホーム 麦久保園 社会福祉法人溪流会 特別養護老人ホーム 草花苑	開催日程	10/18 14:00~16:00		
参加団体	5団体 折立町内会ふれあい福祉委員、青娥珈房(珈琲専門店)、あきる野市中央図書館				
テーマ	カフェ・居場所	参加述べ人数	32名	取組み詳細	P162

事業・イベント名	すずらん喫茶 手作りパン販売			昭島市	
主催団体名	社会福祉法人同胞互助会 社会福祉法人ゆいのもり	開催日程	毎週火曜 11:00~15:00		
参加団体	2団体 社会福祉法人ゆいのもり福祉協会「食工房ゆいのもり」、社会福祉法人同胞互助会				
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	80名	取組み詳細	P130

区市町村施設長会 主催

事業・イベント名	アクティブ介護30			文京区	
主催団体名	アクティブ介護30実行委員会	開催日程	1/16	10:00~16:00	
参加団体	29団体 文京区役所、文京区社会福祉協議会、文京くすのきの郷、文京白山の郷、文京千駄木の郷、ゆしまの郷、洛和ヴィラ文京春日、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京くすのき高齢者在宅サービスセンター、文京向丘高齢者在宅サービスセンター、文京白山高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター、文京本郷高齢者在宅サービスセンター、文京千駄木高齢者在宅サービスセンター、ケアワーク弥生、ユアハウス弥生リハビリ道場、老松ケアサービス、トチギ介護サービス、小石川医師会居宅介護支援事業所、ローズケア、アドバンスサポートコスモス、小石川みやびの郷、アリア文京大塚、ミニケアホームきみさんち、パナソニックエイジフリー介護チェーン城北、社の癒しハウス・文京関口、音羽えびすの郷、ネクサスコート本郷、アズハイム文京白山、東京都理学療法士協会文京支部				
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	622名	取組み詳細	P47

事業・イベント名	きたく介護あんしんフェア2018			北区	
主催団体名	北区高齢者福祉施設施設長会 北区高齢者福祉施設施設長会	開催日程	11/11	10:40~16:00	
参加団体	21団体 北区（長寿支援課、高齢福祉課、介護保険課）、北区医師会、東京都北区歯科医師会、東京都滝野川歯科医師会、北区薬剤師会、北区鍼灸師会、北区訪問鍼灸マッサージ師会、北区柔道接骨師会、北区ケアマネジャーの会、北区サービス提供責任者の会、北区訪問看護ステーション連絡協議会、北区地域密着型サービス事業者連絡会、北区リハビリネットワーク、北区通所サービス事業者連絡会、北区高齢者福祉施設長会、北区福祉用具事業者の会、北区高齢者あんしんセンター、北区社会福祉協議会、東京家政大学、北区介護予防リーダーの会、北区介護予防自主活動グループ				
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	800名	取組み詳細	P50

事業・イベント名	お年寄りの手作り作品展			東村山市	
主催団体名	東村山市高齢者福祉施設連絡会	開催日程	10/11~10/14		
参加団体	14団体 東村山市高齢者福祉施設連絡会メンバー				
テーマ	その他	参加述べ人数	859名	取組み詳細	P138

事業・イベント名	東村山市内社会福祉法人連絡会パネル展			東村山市	
主催団体名	東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日程	10/22～10/26		
参加団体	21団体 村山苑、緑風会、東村山市社会福祉協議会、山鳩会、天童会、東村山けやき会、そのの会、はるび、いずみ、土の根会、林檎の木、東京蒼生会、梨世会、恩賜財団東京都同胞援護会、東京都社会福祉事業団、七日会、白十字会、東京コロニー、大典福祉会、慈光会、敬愛会				
テーマ	学びの機会	参加述べ人数	278名	取組み詳細	P139

事業・イベント名	市民に向けたイベントの開催			東村山市	
主催団体名	東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日程	9/1～11/24		
参加団体	11団体 (以下全て社会福祉法人) はるび、東京蒼生会、東京コロニー、慈光会、東京都社会福祉事業団、天童会、白十字会、緑風会、土の根会、村山苑、梨世会				
テーマ	その他	参加述べ人数	800名	取組み詳細	P140

事業・イベント名	施設・事業所の市民オープン見学会			東村山市	
主催団体名	東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日程	9/14～11/12		
参加団体	10団体 (以下全て社会福祉法人) いずみ、東京コロニー、七日会、白十字会、村山苑、東村山けやき会、土の根会、慈光会、ユーカー福祉会、大典福祉会				
テーマ	その他	参加述べ人数	8名	取組み詳細	P143

事業・イベント名	東久留米福祉フェア2018 11月11日は「介護の日」 ～考えてみよう家族の介護、広げていこうオレンジの輪～			東久留米市	
主催団体名	東久留米市介護サービス事業者協議会	開催日程	11/10 10:00～17:00		
参加団体	12団体 協議会：高齢者福祉施設、高齢者保健施設、居宅介護支援事業所、通所介護、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、配食サービス、グループホーム 共催：東久留米市福祉保険部介護福祉課、明治薬科大学附属薬局				
テーマ	介護予防・高齢者支援	参加述べ人数	290名	取組み詳細	P146

広報グッズ紹介

1 ログマーク

各施設がキャンペーンの一環として都内全域で取り組んでいることをPRするためのログマークです。東京の街並みや暮らす人を1つの輪にすることで「ちいきの輪」を表しています。パンフレット、名刺、ホームページなど様々な用途に活用いただきました。



2 パンフレット

キャンペーンの趣旨や今年度の実施施設・事業所の取組みを1枚のパンフレットにまとめました。

表紙のイラストには、「誰もが気軽に立ち寄れる場」「地域によりそう場」「様々な高齢者福祉施設の活動の姿」イメージが込められています。高齢者福祉施設の取組みについて知っていただく機会に都内の関係団体や実施施設・事業所のかかわりのある住民に向けて配布を行いました。



3 ボールペン

各施設・事業所の取組みの会場にて配布し、キャンペーンのPRをするグッズとして、今年度新しく作り直しました。キャンペーンの取組み以外でも配布できるように手に取りやすいデザインとなっています。

4 のぼり

各施設・事業所の取組みの会場に置いてキャンペーンのPRをするグッズ。高齢者施設や社会福祉法人が暮らしの困りごとを気軽に相談できるところであることも伝えていきます。

5 アクティブぬいぐるみ

東京都高齢者福祉施設協議会のマスコットキャラクターのぬいぐるみ。今年はキャンペーンのテーマカラーのオレンジ色のTシャツを着ています。のぼりと一緒に各施設の取組み会場に置いてキャンペーンのPRに活用いただきました。



広報ツール紹介

1 キャンペーン特設サイト

東京都高齢者福祉施設協議会のウェブサイト内に特設コーナーにて、今年度のキャンペーンの実施状況、これまでの開催状況など1年を通じてキャンペーンを知る機会として作成しました。

つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOキャンペーン特設サイト

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/tiikinowa/index.html>



2 Facebook

キャンペーン期間中、東京都高齢者福祉施設協議会のFacebookページに施設・事業所の各地域の取り組み状況について随時掲載しました。

3 東京新聞の広告掲載

キャンペーン開始時期である9月上旬に、東京新聞に東京都高齢者福祉施設協議会の全面広告としてキャンペーンの紹介、取り組みを実施している施設・事業所一覧の掲載を行いました。

4 つなひろ通信

キャンペーンの進捗状況を都内の高齢者施設や都民の方に定期的に伝えるものとして発刊しました。今年度もつなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO のキャンペーンを企画・運営を担当するワーキングチームのメンバーに見学会の様子を紹介していただきました。実践で取組まれている視点から感じたことや考えたことをまとめ、伝えています。



つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなびる通信 vol.1



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つなぐれひろがれちいきの輪 in TOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス

キャンペーン申込締切 6/29 まで! ~申込状況を公開~

今年度で3年目を迎える、地域によりそう活動取り組むキャンペーン「つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」(9~11月開催予定)には、35の区市町村から65の事業がお申し込みをいただいております。現在の申込状況は右の通りです。

事業・イベントの種別について、「地域交流」「カフェや居場所」のお申込みが目立ちます。また連携の予定について、「他施設・法人や団体との協働企画」半分以上の割合です。

今回、参加お申し込みをいただいた施設・事業所の中には、下記のような、事業でエントリーされています。

- ・すでに行っている取組み (施設のお祭りや敬老の日のイベントなど)
- ・昨年度以前キャンペーンに参加した取組み
※9~11月の期間外の事業もお申込みいただけます。事務局にご相談ください。

各施設の地域をつなぐ取組みをぜひキャンペーンとして都内に一斉にPRしませんか?
開催内容が一部未確定でもお申込みできます
みなさまのエントリーお待ちしております!



●事業・イベント種別について (複数回答) n=65

事業・イベント種別	申込数	構成比
認知症	4	6.2%
介護予防や高齢者支援	7	10.8%
アウトリーチ (訪問活動)	1	1.5%
相談や家族支援	0	0.0%
カフェや居場所	10	15.4%
学びの機会	4	6.2%
地域団体との協働	4	6.2%
地域交流	29	44.6%
防災	1	1.5%
その他	5	7.7%

●連携の予定について (複数回答) n=65

連携の予定	申込数	構成比
他の会員施設・法人・団体と協働して実施する予定	39	60.0%
単独で実施する予定	26	40.0%

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

実施担当者向け説明会 実施 ~地域とつながる上での悩みを見える化~

キャンペーン実施担当者向け説明会を開催。参加したつなびるWTの方よりレポートをお届けします。



説明会の様子。壁に貼り出したお悩みを唐木さんと参加者のみなさんと聞きあいました。

6月6日(水)に「実施担当者向け説明会」が開かれ、44名の参加がありました。今回は、情報交換会中心の構成で、コーディネーターとして唐木理恵子さん(日本ボランティアコーディネーター協会)をお招きしました。

「地域とつながる上での悩みをききあおう」というテーマで、それぞれの施設の担当者が抱える「悩み」「疑問」「地域の課題」に焦点を当てた『悩みの洗い出し』が行われました。8つのグループで活発な話し合いが行われ、それぞれ出てきた「悩み」「課題」を一つずつ紙に大きく書き出し、壁一面に貼り出していきました。

「なぜ地域にかかわるのか?」にはじまり、「職場内の理解」「人材不足」、「ボランティア」「PR・広報」など、多種多様な「課題」が壁一面に「見える化」され、それを見ながら、唐木さんと参加者のみなさんから、課題解決のヒントを伺うことができとても分かりやすかったです。今回学んだことを活かし、明日からの実践につなげていただければと思います。(偕生園 樋熊さとみ)



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



◎本年度も100施設・事業所以上のご参加をいただけるようご案内しております。各施設や地域ブロック等からの皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします!

2018年8月22日号 (送信枚数: 全1枚)

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 ニュース

つなびる通信 vol.2



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 9月1日キャンペーン開始！ーホームページに開催情報掲載

本年度の「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2018」は、都内47の区市町村で、127事業の参加により9月1日にスタートします。昨年度より3区市町村増え、ますます盛り上がりを見せています。

キャンペーンの詳細は、下記ウェブサイトをはじめパンフレットなどによりご覧いただけます。なお、掲載情報に変更がある場合、下記宛にご連絡ください。

また、地域によりそうためのヒントを得る機会として、エントリーのあった事業の見学会を実施予定です。詳細が決まり次第お知らせいたします。

なお、個別の見学希望や活動に関するご相談も、下記の事務局までお問い合わせください。

●事業・イベント種別について(複数回答)n=127

事業・イベント種別	申込数	構成比
認知症	6	4.7%
介護予防や高齢者支援	14	11.0%
アウトリーチ(訪問活動)	3	2.4%
相談や家族支援	2	1.6%
カフェや居場所	18	14.2%
学びの機会	9	7.1%
地域団体との協働	9	7.1%
地域交流	56	44.1%
防災	3	2.4%
その他	7	5.5%

見学会開催予定

※8/21現在の予定です。見学先の追加、時間の変更などある場合がございます。詳細は別途案内いたします。

ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア (墨田区)

特別養護老人ホーム ケアホームズ両国
10/8 10:15~11:30 開催
施設利用者や地域の方との交流の機会をつくるきっかけとして、普段から交流のある専門学校から犬・猫・ハムスター等かわいい動物たちがやってくるイベントを開催します。

立川オールデイズ物語カフェ (立川市)

社会福祉法人恵比寿会 フェローホームズ 森の家
11/30 14:00~ 開催
立川市の昭和30年代前後の懐かしい写真を見ながら、同じ時代感を共有し、それぞれの思い出を自由に語り合う場です。

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※今からでも参加できます。会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

広報グッズの配布について (エントリー施設・事業所にお送りします)

キャンペーンにエントリーいただいた施設・事業所を対象に、広報やPRに必要なグッズやデータをご用意いたしました。ぜひご活用下さい。同じ地域の顔の見える関係の中で配ることによって施設・事業所、取組みをより知っていただくきっかけにもなります。

上記サイトよりダウンロード可

①ロゴマーク

イベントのちらし等の資料や看板に。PNG形式のデータです。

②チラシフォーマット

パンフレットに挟み込んでも使用できます。必要に応じてご利用ください。

キャンペーン参加団体送付中

③パンフレット

キャンペーン概要と参加団体を掲載。地域住民・関係団体等への周知に。

④アクティブルぬいぐるみ・ボールペン・のぼり

イベント会場や各施設・事業所の窓口に。



アクティブルぬいぐるみ・ボールペン・のぼり



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力をお願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することもできます。送信元までご相談ください。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 ニュース

つなびる通信 vol.3



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 高齢者と子どもが交流する居場所づくり「にここ清風食堂」見学会開催

9月にスタートした「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」キャンペーンのPRを兼ね見学会を兼ねたキックオフ記者会見を開催しました。キャンペーンの企画を担当しているつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームよりレポートいただきました。

9月6日(木) 町田市の特別養護老人ホーム清風園にて「にここ清風食堂」を見学しました。2015年12月に高齢者だけでなく地域の子も目も向けたいとの要望に、中学生以下を対象としたこども食堂を2016年6月にオープン。「よく遊び、良く学び、良く食べる」をコンセプトにこれまでに50回以上開催されています。月2回定期開催され、食事代は100円となっており、敷地内のグループホーム利用者と一緒に食事をしています。



にここ清風食堂の様子。にぎやかな雰囲気でした。

一番驚いたのは、地域のボランティア中心に運営されていることです。近隣大学のボランティアや地域の方が、それぞれの役割を果たし、子どもの居場所を守っています。食堂を開催していく中で、孤食や学校で仲間を作れない、経済的問題など、色々な課題も見えてきているそうです。施設長のお話から、地域とつながり、笑顔を守り、地域とともに歩んでいる法人の姿勢に感銘を受け、お手本にしながら更に自身も進んでいきたいと感じる見学会でした。

▼キャンペーンの詳細はこちらから
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>
 ※今からでも参加できます。会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!
 ※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

つなひろ見学会開催

ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア (墨田区)

特別養護老人ホーム ケアホームズ両国
 10/8 10:15~11:30 開催

施設利用者と地域の方との交流の機会をつくるきっかけとして、普段から交流のある専門学校から犬・猫・ハムスター等かわいい動物たちがやってくるイベントを開催します。

立川オールデイズ物語カフェ (立川市)

社会福祉法人恵比寿会 フェローホームズ 森の家
 11/30 14:00~15:30 開催

立川市の昭和30年代前後の懐かしい写真を見ながら、同じ時代感を共有し、それぞれの思い出を自由に語り合う場です。

※会員事業所を対象とした見学会。詳細・お申込みはHP等でご案内しております。11/30分は近日お知らせ予定。

お知らせ

キャンペーンの今後や
 研修会等をご案内!

事業レポートの提出のお願い

(キャンペーン参加施設向け)

提出いただいたレポート・写真は、今後作成予定の報告書、高齢協 Facebook ページ、つなひろ通信などに掲載を予定しております。

■提出期限 平成30年12月3日(月)

※詳細・レポートフォーマットは10月上旬ごろ、別途ご案内します。

▼今後のご案内 ※キャンペーン参加施設以外の会員も参加可

12月20日(金)
 13:30~16:30
 (予定)

家の光会館7階
 コンベンションホール

実践報告会

※実施報告・情報交換を通じて今年の取組みを振り返り、今後のヒントを得る場。



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
 TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することもできます。送信元までご相談ください。

2018年11月16日号 (送信枚数: 全1枚)

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 ニュース

つなびる通信 vol.4



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つなぐれひろぐれちいきの輪 in TOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 動物との触れ合いが笑顔を呼ぶ「ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア」見学会

「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」取組みの様子を学ぶ見学会を開催しました。キャンペーンの企画を担当しているつなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームの長谷川栄司さん (東大和市中高齢者ほっと支援センターいもくぼ) よりレポートいただきました。

10月8日の雲の多い日。墨田区にある特別養護老人ホーム ケアホームズ両国の玄関前の小さなスペースは、動物ふれあいフェアの会場となり、笑い声と歓声が響いていました。

動物は、犬、猫、アルマジロ、モルモットと動物専門学校の生徒とともに遊びにきてくれました。普段はあまり見ることがない動物に、恐る恐る手を出す方や好奇心で触ってみる方もいてにぎわっていました。近所の小さい子供たちとお母さんの姿も見られ、犬や猫とふれあっていました。マンションが多いこの地域では、ペットを飼うことが難しいことが多く、こうしたイベントはありがたい話していました。入居者の方たちもかつて自宅で飼っていたペットを懐かしむとともに、手から伝わる温かさ心癒されているようでした。

施設スタッフの方からも、ペットを飼うことができない入居者や地域の方へ癒しとふれあいの機会を提供できることで、地域とのつながりへと発展していきたいと話していました。



動物ふれあいフェアの様子。なごやかな雰囲気でした。

▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※今からでも参加できます。会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

つなひろ実践報告会開催

だれもが安心して暮らせるために地域でできること
～つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYOの取組みから～

12/20 (木) 14:00～17:00 開催
泉の光会館 7階コンベンションホール

実施報告・情報交換を通じて今年の取組みを振り返り、今後のヒントを得る場。福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域によりそう幅広い取組みを展開するためにきっかけや、やってみたことなど、実際の取組みをひも解きながら明日からできることを考えます。

・4つの実践報告 ・情報交換

※一般の方もご参加いただけます。

一緒に地域の中で取組みを検討している団体、他の取り組みを聞きながら地域のことを考えていきたい方へもお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

お知らせ

キャンペーンの今後や
研修会等をご案内!

事業レポートの提出のお願い

(キャンペーン参加施設向け)

提出いただいたレポート・写真は、今後作成予定の報告書、高齢協 Facebook ページなどに掲載を予定しております。

■提出期限 平成30年12月3日(月)

※詳細・レポートフォーマットは高齢協HP「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」よりダウンロードできます。

12/20 実践報告会でも
レポートを共有します。
よろしくお願ひします。



送
信
元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



◎各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することもできます。送信元までご相談ください。

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 ニュース

つなひろ通信 vol. 5



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つなぐれひろぐれちいきの輪 in TOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 思い出を語り、時代の共有から見つかる私の居場所～立川オールデイズ物語カフェ見学会～

「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」取組みの様子を学ぶ見学会を開催しました。キャンペーンの企画を担当しているつなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームの小山正子さん (品川区立中延特別養護老人ホーム) よりレポートいただきました。

11月30日フェローホームズ森の家で「立川オールデイズ物語カフェ」が開催されました。会場の「お洒落なラウンジ」には大勢の人が集まり、立川市の懐かしい映像を「見て楽しみ」、その映像をテーマに「話が弾み」、和やかな雰囲気の中で時間が過ぎて行きました。映し出される映像は、地元の印刷会社さんが提供してくださっています。

このカフェは7年前から始めた認知症カフェを出発点としています。今は市内各所で開催されて浸透してきていることもあり、より発展的な活動として介護予防に目を向け、法人の事務局スタッフが中心となり、地域の関係者の協力を得ながら取り組みをすすめています。

参加者の主なターゲットは、男性の要介護者です。福祉サービスの利用を敬遠しがちな傾向があるため「元気なうちから集える場所」として、男性を積極的に誘っていると話されていました。また、参加者のテーブルには傾聴ボランティアの方に自然な形でグループに入っていたり、それが参加される方の「話す楽しみ」に大きく貢献しているのだと感じました。

見学会を通じて地域のために何が必要か、時代に合わせた地域支援がしっかりと根づいているのだと感じ、とても勉強になりました。



カフェの様子。懐かしさあふれる会でした。

▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

お知らせ 12/20 つなひろ実践報告会 開催します!

昨年度に引き続き今年度も開催します。4つの実践報告や、情報交換を通じて福祉や介護サービスが必要な高齢者だけでなく、地域によりそうために明日からできることを一緒に考えます。 ※一般の方もご参加いただけます。

実践報告会「だれもが安心して暮らせるために地域でできること」

日時 12月20日(木) 14時00分～17時00分 (受付: 13時30分～)

会場 家の光会館7階コンベンションホール ※詳細・お申込みHPをご覧ください。

▼報告者一覧

名前	所属	実施事業名	取組み内容
富山佳代 さん	癒しの里西小松川	ちよっと よりみち癒しの茶店	地域住民を施設に招き、入居者・職員とともに交流をしながら、ボランティアの催しを楽しむイベント。
西村雄大 さん	サンライズ大泉	大泉西小学校応援団まつり	PTA、学校利用団体、子ども会等との協同による介護を身近に感じてもらいたいイベント
伴成顕 さん 他	清風園	にこにご清風食堂	高齢者施設に近隣の子どもたちを対象と一緒に夕食を食べる会。グループホームの高齢者との交流、学生ボランティアによる学習や遊びの支援も実施。
前田卓弥 さん 他	麦久保園	Ori cafe	移動図書館、本格出張喫茶店、出前講座、の3つの企画を通じて地域の繋がりをつくる。



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL: 03-3268-7172 / FAX: 03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○キャンペーン期間は終了しました。ご協力ありがとうございました。今後は、参加施設・事業所の取組みをまとめた報告書を作成する予定です。完成次第、会員の皆様にお届けします。

2019年1月9日号(送信枚数:全2枚)

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 ニュース

つなびる通信 vol.6



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つなぐれひろぐれちいきの輪 in TOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 実践報告会 開催～誰もが安心して暮らせるために地域でできることは～

今年度キャンペーン振り返る実践報告会を開催。キャンペーンの企画を担当しているつなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームの大脇秀一さん(とらいふ武蔵野)にレポートいただきました。

12月20日(木)に「実践報告会 だれもが安心して暮らせるために地域でできること」を実施し、76名の参加者ととも、昨年を上回る盛り上がりを見せました。

4つの事例発表はどれも地域との関係づくりや地域の方々に興味をもっていただくことに工夫して取り組んでいる様子が伺えました。特に注目したのは、4番目に発表した「Ori cafe」。法人が異なる近隣の2施設が協力して一つの事業に取り組まれていた事例には大変興味深かったです。今後、いたるところで社会福祉法人が地域との連携強化を目指し、各施設の特性を活かして協力していくことが「ちいきの輪」を広げる力になっていくと思います。他にも民生児童委員から「子どもに目を向けてほしい」との依頼から始まった「にこにこ清風食堂」や介護・福祉に興味を持ってもらうことをねらいに企画・企画した「大泉西小学校応援団まつり」「ちょっとよりみち 癒しの茶店」の取り組みの報告もあり、どれも大変勉強になりました。グループワークでは、キャンペーン参加施設・事業所以外にも、包括の生活支援コーディネーター、行政、公民館、地域の方々など、それぞれの地域での取り組みを紹介しながら積極的に情報交換を行いました。共通した課題も多くあり、今後の取組みに活かせるヒントが数多くあったのではないのでしょうか。報告会の詳細は今後、報告書でもレポートしていきます。



報告会の様子。地域への多様ななかかわり方を学びました。

▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

東京 高齢協議会 で検索!

※会員向けメールでもご案内しております。

キャンペーン実施状況について

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2018

今年度実施状況(平成31年1月9日現在)

実施期間 平成30年9月1日～11月30日

	今年度	前年度	前年度比
参加事業数	126	131	-5
参加団体数	888	835	+53
参加者数	52,190	39,711	+12,479
区市町村数	47	44	+3

※今後、集計の状況により変更するおそれがあります。

昨年度と比較して参加者数・区市町村数が増加しています。昨年度に引き続き、大型イベントや定例のイベント(毎週・毎月実施など)での参加施設が増えています。都民をはじめ、地域へのはたらきかけにかかわる多様な団体の皆様への周知や連携の可能性をともに考える場をつくりながらも、会員施設の「ちいきの輪」を広げる力を高められるよう、キャンペーンをすすめていきたいと思っております。

お知らせ

キャンペーンの今後や研修会等をご案内!

2019年度キャンペーンに向けて

WTでは今年度の取り組みをまとめた報告書の作成と次年度のキャンペーンに向けて準備しています。5月よりエントリー施設の募集を開始する予定です。詳細が決定次第、ご案内いたします。

つなひろワーキングチームメンバー募集中!

～都内の取組みに出会いつながるしかけづくりの力に～
キャンペーンをすすめていくために一緒に企画を検討していただける方を募集しています。

<活動内容>

- 施設・事業所の地域に根づいた活動の都内全域の周知活動や活動にかかわる方の学びの機会に関する企画運営
- 年4回の委員会でのキャンペーン企画検討、年3回程度のイベント(説明会、見学会、報告会等)の実施

<対象>

東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員

で地域によりそう活動に関わった経験のある方

<申込>

2/1までに送信元にお問い合わせください。

※詳細・参加申込は別添のちらしをご覧ください。

送
値
元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○「会員の皆様へ」今年度もキャンペーンにご協力ありがとうございました!

今年度の取組みをまとめた報告書は春ごろ完成予定です。会員の皆様に送付いたします。

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
2018年度 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 名簿

任期 2017年4月1日～2019年3月31日

No.	区分	所属	氏名
1	デイサービス分会	あすなろみんなの家	今 裕司
2	特養分科会	とらいふ武蔵野	大脇 秀一
3	特養分科会	品川区立中延特別養護老人ホーム	小山 正子
4	特養分科会	山吹の里	相澤 和彦
5	支援センター分会	東大和市高齢者ほっと支援センターいもくぼ	長谷川 栄司
6	支援センター分会	府中市地域包括支援センターあさひ苑	清野 哲男
7	養護分科会	偕生園	樋熊 さとみ
		東京都民生児童委員連合会	野崎 勝也
8		東京ボランティア・市民活動センター	齋藤 千映子

※所属は2019年3月時点

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2018 報告書

2019年7月発行

編集 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

発行者 東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/>



お問い合わせ

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

事務局 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1
飯田橋セントラルプラザ内
TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635
URL <http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>